



Cisco UCS E シリーズ サーバおよび Cisco UCS E シリーズ ネットワーク コンピュート エンジン スタートアップ ガイド

初版：2016年07月06日

最終更新：2016年07月06日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに ix

新機能および変更された機能に関する情報 ix

対象読者 x

マニュアルの構成 xi

表記法 xii

関連資料 xiii

マニュアルに関するフィードバック xiv

クイック スタートの基本設定 1

クイック スタートの基本設定タスク 2

概要 5

Cisco UCS E シリーズ サーバおよび Cisco UCS E シリーズ ネットワーク コンピュート エンジンの概要 5

サーバ ソフトウェア 7

E シリーズ サーバおよび NCE の管理 8

E シリーズ サーバおよび NCE のオプション 9

オプション1 (オペレーティングシステムまたはハイパーバイザが事前にインストールされていない E シリーズ サーバまたは NCE) の基本的なワークフロー 10

オプション2 (Microsoft Windows Server が事前にインストールされている E シリーズ サーバまたは NCE) の基本的なワークフロー 12

オプション3 (VMware vSphere Hypervisor が事前にインストールされている E シリーズ サーバまたは NCE) の基本的なワークフロー 13

このガイドで使用される共通用語 14

ルータへの E シリーズ サーバまたは NCE のインストール 15

E シリーズ サーバまたは NCE をルータにインストールする基本的なワークフロー 15

適合性の確認 16

Cisco ISR G2、E シリーズ サーバ、NCE と Cisco IOS ソフトウェア リリースの互換性の確認	16
Cisco ISR 4000 シリーズ、E シリーズ サーバ、NIM、CIMC、および Cisco IOS ソフトウェア リリースの互換性の確認	17
ルータへの E シリーズ サーバおよび NCE のインストール	17
インストールの確認	20
E シリーズ サーバのインストールの確認	20
EHWIC E シリーズ NCE のインストールの確認	21
NIM E シリーズ NCE インストールの確認	22
E シリーズ サーバによる CIMC ファームウェアのリセットと更新の停止 : Cisco ISR 4000 シリーズ	23
次の作業	24
管理ファームウェアにアクセスするための設定	25
CIMC アクセスの設定	25
E シリーズ サーバおよび Cisco ISR G2 のインターフェイスの概要	26
CIMC アクセス設定オプション : Cisco ISR G2	27
E シリーズ サーバの外部管理 (専用) インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2	28
共有 LOM による CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2	30
ルータの内部 PCIe slot/0 コンソールインターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2	30
ルータの内部 MGF slot/1 VLAN インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2	33
非ネイティブの VLAN を使用したルータの内部 MGF slot/1 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2	36
E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2	39
E シリーズ サーバおよび Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要	41
CIMC アクセス設定オプション : Cisco ISR 4000 シリーズ	42
E シリーズ サーバの外部管理 (専用) インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ	43

E シリーズ サーバの NIC インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 :	
Cisco ISR 4000 シリーズ	45
E シリーズ サーバの内部 GE0 インターフェイスと Cisco ISR 4000 シリ ーズ ucse slot/0/0 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定	45
E シリーズ サーバの内部 GE1 インターフェイスと Cisco ISR 4000 シリ ーズ ucse slot/0/1 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定	49
E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ	53
E シリーズ サーバの外部 TE2 または TE3 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ	55
EHWIC E シリーズ NCE および Cisco ISR G2 のインターフェイスの概要	57
CIMC アクセス設定オプション : EHWIC E シリーズ NCE	58
ルータの内部 EHWIC 0/subslot/0 コンソール インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : EHWIC E シリーズ NCE	59
ルータの内部 MGF 0/subslot/1 VLAN インターフェイスによる CIMC アクセ スの設定 : EHWIC E シリーズ NCE	62
EHWIC E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセス の設定	65
NIM E シリーズ NCE および Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要	68
CIMC アクセス設定オプション : NIM E シリーズ NCE	69
NIM E シリーズ NCE の外部管理 (専用) インターフェイスによる CIMC ア クセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ	70
NIM E シリーズ NCE の NIC インターフェイスによる CIMC アクセスの設 定 : Cisco ISR 4000 シリーズ	71
NIM E シリーズ NCE の内部 GE0 インターフェイスと Cisco ISR 4000 シリ ーズ ucse 0/subslot/0 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定	72
NIM E シリーズ NCE の内部 GE1 インターフェイスと Cisco ISR 4000 シリ ーズ ucse 0/subslot/1 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定	75
NIM E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセスの 設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ	78
CIMC 設定ユーティリティによる CIMC アクセスの設定	80
スクリプト ファイルによるネットワークのスタティック設定の定義	82

次の作業	84
管理ファームウェアのアクセス	85
CIMC の概要	85
CIMC GUI	86
CIMC CLI	86
CIMC GUI へのログイン	87
CIMC ホーム ページ	88
次の作業	88
RAID を使用したストレージの管理	89
RAID の設定	89
CIMC GUI を使用した RAID の設定	90
WebBIOS による RAID の設定	95
MegaRAID コントローラによる RAID の設定	96
次の作業	97
オペレーティング システムまたはハイパーバイザのインストール	99
オペレーティング システムまたはハイパーバイザのインストール方法	99
KVM コンソール	100
KVM コンソールを使用したオペレーティング システムまたはハイパーバイザのインストール	101
PXE インストール サーバ	103
PXE インストール サーバを使用したオペレーティング システムまたはハイパーバイザのインストール	103
ホストイメージマッピング	104
ホストイメージのマッピング	104
Microsoft Windows Server 用のドライバのインストール	107
シスコからのソフトウェアの取得	108
ホストイメージのマッピング解除	110
VMware vSphere Hypervisor のダウンロードとインストールの基本的なワークフロー	111
カスタマイズされた VMware vSphere Hypervisor イメージのダウンロード	111
VMware vSphere Hypervisor へのスタティック IP アドレスの割り当て	112
vSphere Client のダウンロードとインストール	113
サーバのブート順の設定	114

CIMC GUI を使用したサーバのブート順の設定	114
BIOS セットアップ メニューを使用したブート順の設定	118
オペレーティング システムおよびハイパーバイザのインストールの確認	120
CIMC から Microsoft Windows Server へのアクセス	120
CIMC から VMware vSphere Hypervisor へのアクセス	120
次の作業	121
ルータと E シリーズ サーバまたは NCE 間の接続の設定	123
Cisco ISR G2 と E シリーズ サーバ間の内部接続の設定	123
Cisco ISR 4000 シリーズと E シリーズ サーバ間の内部接続の設定	127
ネイティブ VLAN による E シリーズ サーバと Cisco ISR 4000 シリーズ間のイーサ ネット仮想回線の作成	130
非ネイティブ VLAN による E シリーズ サーバと Cisco ISR 4000 シリーズ間のイーサ ネット仮想回線の作成	131
Cisco ISR G2 と EHWIC E シリーズ NCE 間の内部接続の設定	134
Cisco ISR 4000 シリーズと NIM E シリーズ NCE 間の内部接続の設定	138
ネイティブ VLAN による NIM E シリーズ NCE と Cisco ISR 4000 シリーズ間のイー サネット仮想回線の作成	140
非ネイティブ VLAN による NIM E シリーズ NCE と Cisco ISR 4000 シリーズ間のイー サネット仮想回線の作成	142
ネットワーク インターフェイス マッピングの概要	145
Microsoft Windows、Linux、および VMware vSphere Hypervisor の MAC アドレスの決 定	148
ファームウェアのアップグレード	151
ファームウェアのアップグレードのオプション	151
Cisco Host Upgrade Utility の概要	152
HUU を使用するために必要な CIMC および BIOS ファームウェアの最小リリース	153
HUU ISO イメージで使用できる CIMC および BIOS ファームウェア リリース	153
HUU ユーザ インターフェイスについて	155
ファームウェアのアップグレード	157
HUU を使用するための基本的なワークフロー	157
HUU によるファームウェアのアップグレード	157
トラブルシューティング	161

設定上の違い 163

Cisco SRE-V と E シリーズ サーバのルータ設定の違い : Cisco ISR G2 163

Cisco ISR G2 と Cisco ISR 4000 シリーズのルータ設定の違い 164

E シリーズ サーバと EHWIC E シリーズ NCE のルータ設定の違い : Cisco ISR G2 165

VMware vSphere Hypervisor の設定の違い 166

Cisco IOS ソフトウェア コマンド リファレンス : Cisco ISR G2 169

imc ip address default-gateway 170

imc ip address dhcp 171

imc vlan 171

ucse cmos-reset 172

ucse password-reset 173

ucse session 175

ucse shutdown 177

ucse statistics 178

ucse status 180

ucse stop 181

Cisco IOS ソフトウェア コマンド リファレンス : Cisco ISR 4000 シリーズ 183

debug platform software ucse 184

hw-module subslot session 185

imc ip dhcp 186

platform switchport 187

show interfaces ucse 188

ucse subslot imc password-reset 191

ucse subslot server 192

ucse subslot server password-reset 194

ucse subslot shutdown 196

ucse subslot statistics 197

ucse subslot status 198



はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- [新機能および変更された機能に関する情報](#), ix ページ
- [対象読者](#), x ページ
- [マニュアルの構成](#), xi ページ
- [表記法](#), xii ページ
- [関連資料](#), xiii ページ
- [マニュアルに関するフィードバック](#), xiv ページ

新機能および変更された機能に関する情報

次の表は、CMC の最新リリースに関するガイドでの主な変更点の概要を示したものです。

表 1: 『*Getting Started Guide for Cisco UCS E-Series Servers for CIMC Release 3.1.1*』での新しい機能と重要な変更点

機能	説明	参照先
UCS-E160S-M3/K9 サーバのサポート	Cisco ISR 4000 シリーズに UCS-E160S-M3/K9 の設置に対するサポートが追加されました。	概要 , (5 ページ)
CIMC アクセスの設定	外部 TE2/TE3 インターフェイスを使用した CIMC アクセスの設定手順。	E シリーズ サーバの外部 TE2 または TE3 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ , (55 ページ)

表 2: 『*Getting Started Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E シリーズ ネットワーク コンピュート エンジン for CIMC Release 3.0.1*』での新しい機能と重要な変更点

機能	説明	参照先
NIM E シリーズ ネットワーク コンピュート エンジン サポート	NIM E シリーズ ネットワーク コンピュート エンジン (NIM E シリーズ NCE) のサポート。	概要, (5 ページ)
CIMC アクセスの設定	NIM E シリーズ NCE が Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされる場合の CIMC アクセスの設定手順。	管理ファームウェアにアクセスするための設定, (25 ページ)
ルータと NIM E シリーズ NCEとの接続の設定	Cisco ISR 4000 シリーズと NIM E シリーズ NCE間の内部接続の設定手順。	ルータと E シリーズサーバまたは NCE 間の接続の設定, (123 ページ)
ホストアップグレードユーティリティ	『 <i>Host Upgrade Utility User Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine</i> 』に記載されていた情報を含む。 CIMC Release 3.0.1 以降は、個別の『 <i>Host Upgrade Utility User Guide</i> 』はサポートされていません。『 <i>Host Upgrade Utility User Guide</i> 』に記載されていたすべての情報が、このガイドに統合されています。	ファームウェアのアップグレード, (151 ページ)

対象読者

このガイドは、次の 1 つ以上に責任を持つ、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

マニュアルの構成

章	Title	説明
第 1 章	クイック スタートの基本設定	E シリーズ サーバおよび NCE をすばやくセットアップし、使用するためのコマンドおよび手順をリストします。
第 2 章	概要	製品、ハードウェアおよびソフトウェア要件、および E シリーズ サーバと NCE のオプションの概要について説明します。
第 3 章	E シリーズ サーバまたは NCE のルータへのインストール	E シリーズ サーバまたは NCE をルータへインストールする方法について説明します。
第 4 章	管理ファームウェアにアクセスするための設定	CIMC アクセスを設定するためのオプションについて説明します。
第 5 章	管理ファームウェアのアクセス	CIMC の概要と、CIMC にログインする方法について説明します。
第 6 章	RAID を使用したストレージの管理	RAID オプションと、RAID の設定方法について説明します。 (注) RAID 機能は E シリーズ サーバおよび S M E シリーズ NCE に適用されます。RAID 機能は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。
第 7 章	オペレーティングシステムのインストール	オペレーティング システムをインストールする方法について説明します。
第 8 章	ルータと E シリーズ サーバまたは NCE の接続の設定	ルータと E シリーズ サーバまたは NCE の接続を設定する方法について説明します。
第 9 章	ファームウェアのアップグレード	ファームウェアをアップグレードするオプションについて説明します。
付録 A	設定上の違い	Cisco SRE-V と E シリーズ サーバ、E シリーズ サーバと NCE、Cisco ISR G2 と Cisco ISR 4000 シリーズの設定の違いについて説明します。

章	Title	説明
付録 B	Cisco IOS ソフトウェア コマンドリファレンス : Cisco ISR G2	Cisco ISR G2 と E シリーズ サーバまたは NCE の設定に使用する Cisco IOS コマンドのリストを示します。
付録 C	Cisco IOS ソフトウェア コマンドリファレンス : Cisco ISR 4000 シリーズ	Cisco ISR 4000 シリーズ と E シリーズ サーバを設定するための Cisco IOS コマンドのリストを示します。

表記法

テキストのタイプ	説明
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドラベルなどの GUI 要素は、イタリック体 (<i>italic</i>) で示しています。 ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルなどのメインタイトルは、ボールド体 (bold) で示しています。
ユーザ入力	表示どおりにユーザが入力するテキストやユーザが押すキーは、このフォント (例 : <code>this font</code>) で示しています。
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体 (<i>italic</i>) で示しています。
システム出力	システムが表示するターミナルセッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、ボールド体 (this font) で示しています。 CLI コマンドの引数は、このフォント (例 : <code>this font</code>) で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	どれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。

テキストのタイプ	説明
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システムプロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!, #	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



ワンポイントアドバイス 「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。



警告

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

This warning symbol means danger. You are in a situation that could cause bodily injury. Before you work on any equipment, be aware of the hazards involved with electrical circuitry and be familiar with standard practices for preventing accidents. Use the statement number provided at the end of each warning to locate its translation in the translated safety warnings that accompanied this device.

SAVE THESE INSTRUCTIONS

関連資料

『[Documentation Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine](#)』にはすべての製品ドキュメントへのリンクが示されています。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。



第 1 章

クイック スタートの基本設定



(注)

- Cisco UCS E シリーズ サーバ (E シリーズ サーバ) または Cisco UCS E シリーズ Network Compute Engine (NCE) をすぐにセットアップして使用するためにコマンドと手順のリストが必要な場合は、「クイック スタートの基本設定」の章を使用します。
- 詳細については、以降の章を使用します。

オプション1 (オペレーティングシステムまたはハイパーバイザが事前にインストールされていない E シリーズ サーバまたは NCE) を購入した場合は、この「クイック スタートの基本設定」の章を使用します。オプション2 (Microsoft Windows Server が事前にインストールされている E シリーズ サーバまたは NCE)、オプション3 (VMware vSphere Hypervisor が事前にインストールされている E シリーズ サーバまたは NCE) を購入した場合は、いくつかの設定手順が異なります。

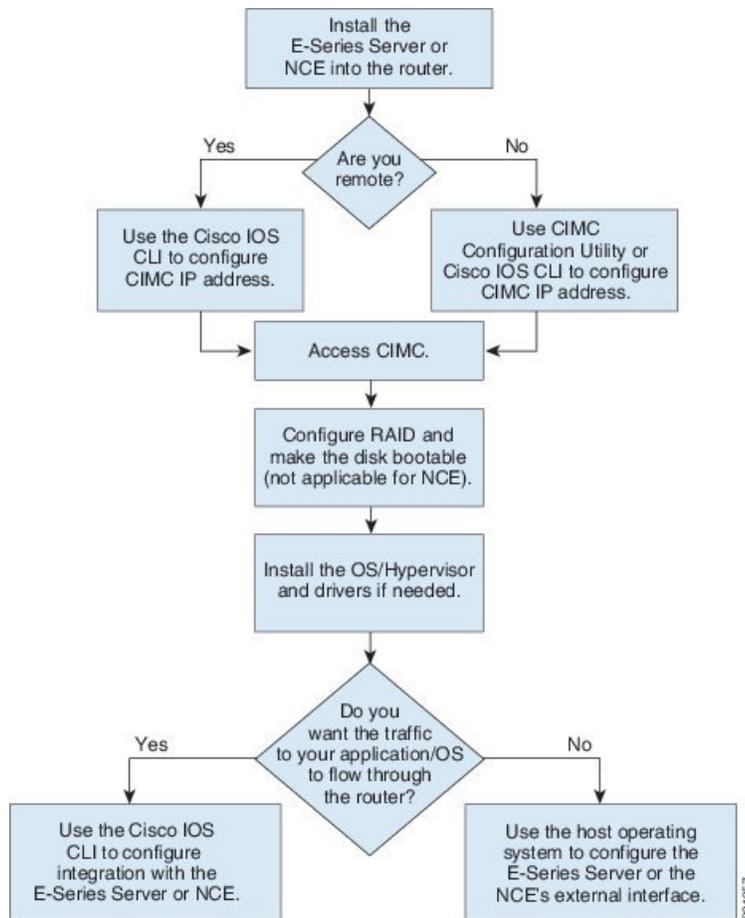
この章は、次の項で構成されています。

- [クイック スタートの基本設定タスク, 2 ページ](#)

クイックスタートの基本設定タスク

次の図は、オプション1（オペレーティングシステムまたはハイパーバイザの事前インストールなしのEシリーズサーバまたはNCE）の基本的なワークフローを示しています。

図1: 基本的なワークフロー - オプション1



(注) CIMC Configuration Utility は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。



(注) RAID 機能は E シリーズ サーバ および SME シリーズ NCE に適用されます。RAID 機能は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。

手順

- ステップ 1** E シリーズ サーバまたは NCE をルータにインストールします。
- ステップ 2** CIMC アクセス用の CIMC IP アドレスを設定します。次のいずれかの方法を使用します。
- リモート ユーザの場合、Cisco IOS CLI を使用して CIMC アクセスを設定します。この基本設定は、サーバの外部 GE2 インターフェイスを使用した CIMC アクセスの設定方法を示しています。
- 1 **enable**
 - 2 **configure terminal**
 - 3 必要に応じて次のいずれかを使用します。
 - **interface ucse slot/port** : Cisco ISR G2 または Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされているすべての E シリーズ サーバまたは SM E シリーズ NCE で使用。
 - **interface ucse 0/subslot/port** : Cisco ISR G2 にインストールされている EHWIC E シリーズ NCE で使用。
 - **interface ucse slot/subslot/port** : Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている NIM E シリーズ NCE を使用。
 - **ucse subslot slot/subslot** : Cisco ISR G2 または Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされているすべての E シリーズ サーバおよび NCE で使用。
 - 4 **imc ip address *cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address***
 - 5 **imc access-port shared-lom ge2**
 - 6 **no shut** : Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズ サーバには適用されません。
 - 7 **end**

(注) 設定の詳細は、必要に応じて以下のトピックのいずれかを参照してください。

- [E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2, \(39 ページ\)](#)
- [E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ, \(53 ページ\)](#)
- [EHWIC E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定, \(65 ページ\)](#)
- [NIM E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ, \(78 ページ\)](#)

別のインターフェイスを使用するには、[管理ファームウェアにアクセスするための設定, \(25 ページ\)](#) を参照してください。

- ローカル ユーザの場合、次のいずれかの方法を使用します。
 - キーボードとモニタを E シリーズ サーバの前面パネルに接続し、CIMC Configuration Utility を使用して CIMC アクセスを設定します。[CIMC 設定ユーティリティによる CIMC アクセスの設定, \(80 ページ\)](#) を参照してください。
 - (注) CIMC Configuration Utility は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。
 - Cisco IOS CLI を使用して CIMC アクセスを設定します (前述したリモート ユーザの設定を参照してください)。

ステップ 3 Web ブラウザで、CIMC にアクセスするためにステップ 2 で設定した IP アドレスを入力します。

ステップ 4 RAID を設定し、ディスク ドライブをブート可能にします。[RAID を使用したストレージの管理, \(89 ページ\)](#) を参照してください。

(注) RAID 機能は E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE に適用されます。RAID 機能は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。

ステップ 5 オペレーティングシステムまたはハイパーバイザをインストールし、必要に応じてドライバをインストールします。[オペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストール, \(99 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 6 次のいずれかを実行します。

- アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にしない場合、サーバのホスト オペレーティングシステムを使用して E シリーズ サーバの外部 GE2 または G3 インターフェイス、あるいは NCE の外部 G2 インターフェイスを設定します。

(注) Cisco UCS-E160S-M3/K9 サーバでは、外部インターフェイスは TE2 または TE3 です。

- アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にする場合、Cisco IOS CLI を使用して、ルータと E シリーズ サーバまたは NCE 間の内部接続を設定します。[ルータと E シリーズ サーバまたは NCE 間の接続の設定, \(123 ページ\)](#) を参照してください。



第 2 章

概要

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS E シリーズ サーバおよび Cisco UCS E シリーズ ネットワーク コンピュート エンジンの概要, 5 ページ](#)
- [サーバ ソフトウェア, 7 ページ](#)
- [E シリーズ サーバおよび NCE の管理, 8 ページ](#)
- [E シリーズ サーバおよび NCE のオプション, 9 ページ](#)
- [このガイドで使用される共通用語, 14 ページ](#)

Cisco UCS E シリーズ サーバおよび Cisco UCS E シリーズ ネットワーク コンピュート エンジンの概要

Cisco UCS E-Series Servers (E シリーズ サーバ) および Cisco UCS E シリーズ ネットワーク コンピュート エンジン (NCE) はサイズ、重量、電力の効率にすぐれたブレードサーバのファミリーで、第 2 世代の Cisco サービス統合型ルータ (Cisco ISR G2) および Cisco ISR 4000 シリーズに搭載されています。これらのサーバは、オペレーティングシステム (Microsoft Windows や Linux など) 上でベアメタルとして、あるいはハイパーバイザ (VMware vSphere Hypervisor、Microsoft Hyper-V、Citrix XenServer など) 上で仮想マシンとして導入される、ブランチオフィスアプリケーション向けの汎用コンピューティングプラットフォームを提供します。

E シリーズ サーバは、汎用コンピューティングの強力な Intel Xeon プロセッサ用に特別に作られています。また、シングル幅とダブル幅の 2 種類のフォーム ファクタがあります。シングル幅の E シリーズ サーバは単一のサービスモジュール (SM) スロットに適しており、ダブル幅の E シリーズ サーバは 2 つの SM スロットに適しています。

NCE は価格と性能の点で最適化されたモジュールで、シスコのネットワーク アプリケーションおよび他の軽量な汎用アプリケーションをホストするようにビルドされています。これらは、SM、NIM、および EHWIC の 3 つのフォーム ファクタで提供されます。SM E シリーズ NCE は 1 つの

SM スロットに、NIM E シリーズ NCE は 1 つの NIM スロットに、EHWIC E シリーズ NCE は 2 つの EHWIC スロットに収納できます。

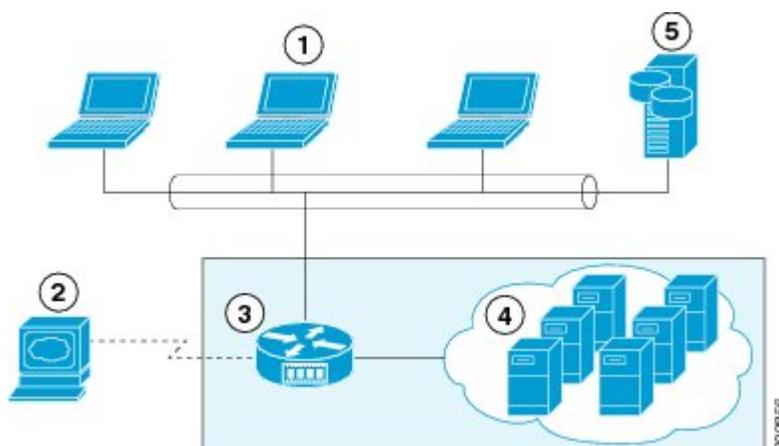


(注)

- EHWIC E シリーズ NCE は Cisco ISR G2 にのみ設置できます。
- NIM E シリーズ NCE は Cisco ISR 4000 シリーズにのみ設置できます。
- Cisco ISR 4331 には SM スロットが 1 つあります。Cisco ISR 4321 および Cisco ISR 4431 には SM スロットがありません。
- Citrix XenServer は E シリーズ サーバでのみサポートされます。
- Cisco UCS-E160S-M3/K9 サーバは、ISR 4000 シリーズでのみサポートされます。

次の図に、ハイパーバイザを使用した E シリーズ サーバまたは NCE の導入例を示します。

図 2: ハイパーバイザの E シリーズ サーバまたは NCE の導入例



1	クライアント デバイス	4	E シリーズ サーバまたは NCE にホストされている仮想マシン (ハイパーバイザが E シリーズ サーバまたは NCE で稼動している場合のみ適用)
2	E シリーズ サーバまたは NCE 管理コンソール	5	エンタープライズ ストレージ デバイス
3	ハイパーバイザまたはベアメタルオペレーティングシステムを稼動している E シリーズ サーバまたは NCE の Cisco ISR G2		



(注) サポートされている E シリーズ サーバおよび NCE の詳細、ルータごとにインストール可能なサーバの最大数については、『*Hardware Installation Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine*』の「Hardware Requirements」の項を参照してください。

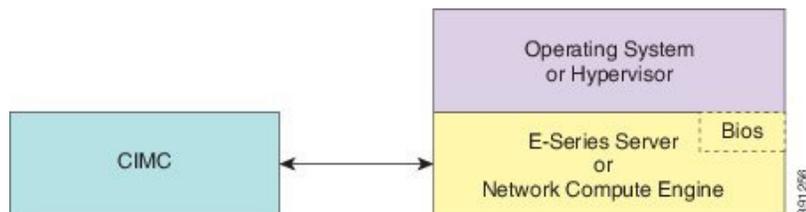
サーバソフトウェア

E シリーズ サーバと NCE には、3 つの主要なソフトウェア システムが必要です。

- CIMC ファームウェア
- BIOS ファームウェア
- オペレーティング システムまたはハイパーバイザ

次の図は、ソフトウェアがサーバとやりとりする仕組みを示しています。

図 3: サーバソフトウェア



CIMC ファームウェア

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) は、E シリーズ サーバまたは NCE のマザーボードに組み込まれている別の管理モジュールです。専用の ARM ベースのプロセッサが（メインサーバ CPU から独立して）CIMC ファームウェアを実行します。システムには、現行バージョンの CIMC ファームウェアが付属しています。CIMC ファームウェアは更新可能ですが、初期インストールは必要ありません。

CIMC は E シリーズ サーバおよび NCE 用の管理サービスです。Web ベースの GUI または SSH ベースの CLI を使用して、サーバにアクセスし、サーバを設定、管理、モニタできます。

BIOS ファームウェア

BIOS は、システム内のハードウェアを初期化し、ブート可能なデバイスを検出し、それらを指定された順序でブートします。オペレーティングシステムを起動したり、オペレーティングシステムが使用するハードウェアを設定したりします。使いやすい BIOS 管理機能により、ハードウェアを操作したり、使用したりできます。他にも BIOS では、システムを設定したり、ファームウェアを管理したり、BIOS エラー レポートを作成したりすることもできます。

システムには、現行バージョンの BIOS ファームウェアが付属しています。BIOS ファームウェアは更新可能ですが、初期インストールは必要ありません。

オペレーティング システムまたはハイパーバイザ

メインサーバ CPU は Microsoft Windows や Linux などのオペレーティング システム上で、またはハイパーバイザ上で動作します。Microsoft Windows Server または VMware vSphere Hypervisor が事前にインストールされている E シリーズ サーバまたは NCE を購入することも、独自のプラットフォームをインストールすることもできます。



(注) E シリーズ サーバまたは NCE でテストされたプラットフォームについては、『『*Release Notes for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine*』』の「Software Requirements」の項を参照してください。

E シリーズ サーバおよび NCE の管理

次の表に、E シリーズ サーバおよび NCE で使用される管理インターフェイスを示します。

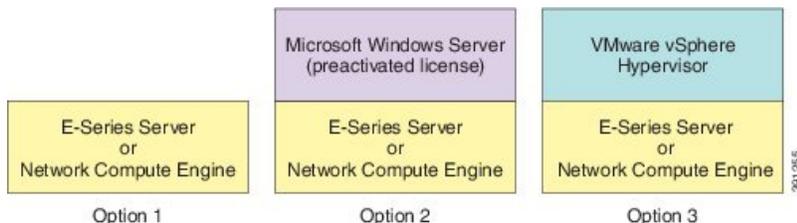
表 3: E シリーズ サーバおよび NCE の管理インターフェイス

管理インターフェイス	説明
Cisco IOS CLI	ホスト ルータ、および E シリーズ サーバまたは NCE の設定に使用する CLI。
CIMC GUI	E シリーズ サーバおよび NCE のアクセス、設定、管理、および監視に使用する Web ベースの GUI。
CIMC CLI	E シリーズ サーバおよび NCE のアクセス、設定、管理、および監視に使用する SSH ベースの CLI。
SNMP	Simple Network Management Protocol (SNMP) のトラップ。ユーザはこれを使用して、サーバの設定やステータスを表示し、障害およびアラートの情報を送信します。

EシリーズサーバおよびNCEのオプション

次の図は、EシリーズサーバおよびNCEのオプションを示しています。

図 4: EシリーズサーバまたはNCEのオプション



- オプション 1: オペレーティング システムまたはハイパーバイザが事前にインストールされていないE シリーズ サーバまたはNCE
- オプション 2: Microsoft Windows Server が事前にインストールされているE シリーズ サーバまたはNCE

E シリーズサーバを購入するときに、イネーブルにしておきたいRAID オプションを選択できます。



(注) このオプションを購入すると、Microsoft Windows Server ライセンスが事前にアクティベートされます。

- オプション 3: VMware vSphere Hypervisor が事前にインストールされたE シリーズ サーバまたはNCE

E シリーズサーバを購入するときに、イネーブルにしておきたいRAID オプションを選択できます。



(注) 事前にインストールされている VMware vSphere Hypervisor のデフォルトユーザ名は root です。この名前は変更できません。また、デフォルトパスワードは password です。ログイン後に、パスワードを変更することを推奨します。



重要

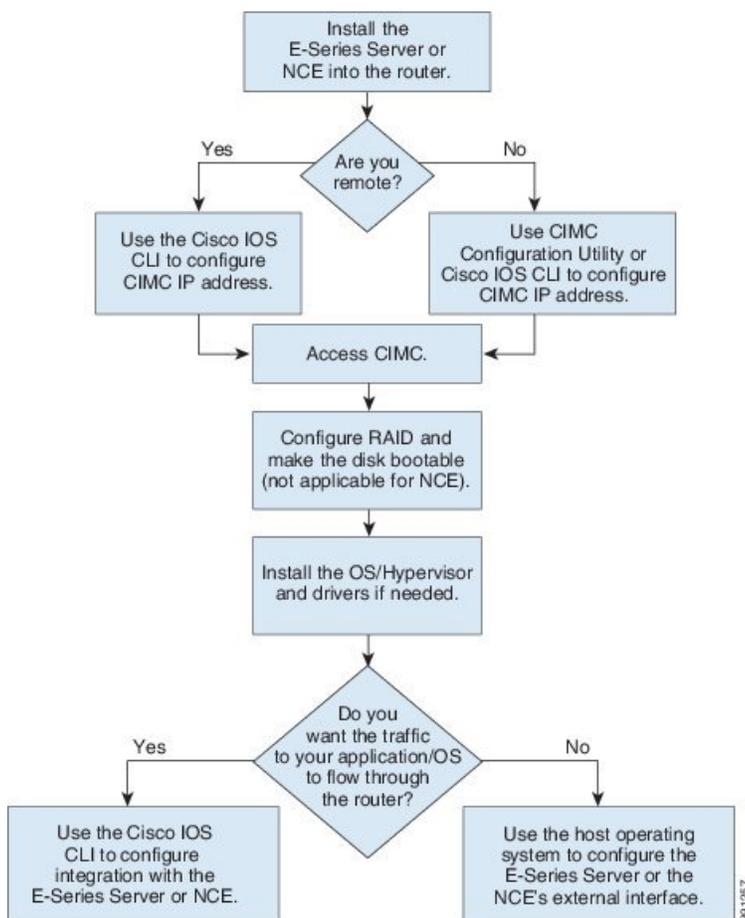
RAID機能はEシリーズサーバおよびSMEシリーズNCEに適用されます。RAID機能はEHWIC EシリーズNCEおよびNIM EシリーズNCEには適用されません。

オプション1（オペレーティングシステムまたはハイパーバイザが事前にインストールされていないEシリーズサーバまたはNCE）の基本的なワークフロー

オプション1（オペレーティングシステムまたはハイパーバイザが事前にインストールされていないEシリーズサーバまたはNCE）の基本的なワークフロー

次の図は、オプション1（オペレーティングシステムまたはハイパーバイザの事前インストールなしのEシリーズサーバまたはNCE）の基本的なワークフローを示しています。

図5：基本的なワークフロー - オプション1



(注) CIMC Configuration Utility は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。



(注) RAID機能はEシリーズサーバおよびSMEシリーズNCEに適用されます。RAID機能はEHWIC EシリーズNCEおよびNIM EシリーズNCEには適用されません。

次の手順は、オプション1 (ハードウェアのみ。オペレーティングシステムまたはハイパーバイザの事前インストールなしのEシリーズサーバまたはNCE) を購入した場合に実行する必要があるタスクの参照先を示しています。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	EシリーズサーバまたはNCEをルータにインストールします。	ルータへのEシリーズサーバまたはNCEのインストール、(15ページ)を参照してください。
ステップ2	CIMCアクセス用のCIMC IPアドレスを設定します。	管理ファームウェアにアクセスするための設定、(25ページ)を参照してください。
ステップ3	CIMCにアクセスします。	管理ファームウェアのアクセス、(85ページ)を参照してください。
ステップ4	RAIDを設定し、ディスクドライブをブート可能にします。	RAIDを使用したストレージの管理、(89ページ)を参照してください。 重要 RAID機能はEシリーズサーバおよびSMEシリーズNCEに適用されます。RAID機能はEHWIC EシリーズNCEおよびNIM EシリーズNCEには適用されません。
ステップ5	オペレーティングシステムをインストールし、必要に応じてドライバをインストールします。	オペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストール、(99ページ)を参照してください。
ステップ6	ルータとEシリーズサーバまたはNCE間の内部接続を設定します。	ルータを経由するトラフィックにするかどうかを応じて、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にしない場合、サーバのホストオペレーティングシステムを使用してEシリーズサーバまたはNCEの外部インターフェイスを設定します。 アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にする場合、Cisco IOS CLIを使用して、ルータとEシリーズサーバまたはNCE間の内部接続を設定します。ルータとEシリーズサーバまたはNCE

オプション2 (Microsoft Windows Server が事前にインストールされている E シリーズ サーバまたは NCE) の基本的なワークフロー

	コマンドまたはアクション	目的
		間の接続の設定, (123 ページ) を参照してください。

オプション2 (Microsoft Windows Server が事前にインストールされている E シリーズ サーバまたは NCE) の基本的なワークフロー

次の手順は、オプション2 (Microsoft Windows Server が事前にインストールされている E シリーズ サーバまたは NCE) を購入した場合に実行する必要があるタスクの参照先を示しています。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	E シリーズ サーバまたは NCE をルータにインストールします。	ルータへの E シリーズ サーバまたは NCE のインストール, (15 ページ) を参照してください。
ステップ2	CIMC アクセス用の CIMC IP アドレスを設定します。	管理ファームウェアにアクセスするための設定, (25 ページ) を参照してください。
ステップ3	ルータと E シリーズ サーバまたは NCE 間の内部接続を設定します。	ルータを経由するトラフィックにするかどうかを応じて、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にしない場合、サーバのホストオペレーティングシステムを使用して E シリーズ サーバまたは NCE の外部インターフェイスを設定します。 アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にする場合、Cisco IOS CLI を使用して、ルータと E シリーズ サーバまたは NCE 間の内部接続を設定します。ルータと E シリーズ サーバまたは NCE 間の接続の設定, (123 ページ) を参照してください。
ステップ4	CIMC にアクセスし、CIMC から Microsoft Windows Server にアクセスします。	管理ファームウェアのアクセス, (85 ページ) を参照してください。

オプション3 (VMware vSphere Hypervisorが事前にインストールされているEシリーズサーバまたはNCE)の基本的なワークフロー

次の手順は、オプション3 (VMware vSphere Hypervisorが事前にインストールされているEシリーズサーバまたはNCE) を購入した場合に実行する必要があるタスクの参照先を示しています。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	EシリーズサーバまたはNCEをルータにインストールします。	ルータへのEシリーズサーバまたはNCEのインストール、(15ページ)を参照してください。
ステップ2	CIMCアクセス用のCIMC IPアドレスを設定します。	管理ファームウェアにアクセスするための設定、(25ページ)を参照してください。
ステップ3	ルータとEシリーズサーバまたはNCE間の内部接続を設定します。	ルータを経由するトラフィックにするかどうかを応じて、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にしない場合、サーバのホストオペレーティングシステムを使用してEシリーズサーバまたはNCEの外部インターフェイスを設定します。 アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にする場合、Cisco IOS CLIを使用して、ルータとEシリーズサーバまたはNCE間の内部接続を設定します。ルータとEシリーズサーバまたはNCE間の接続の設定、(123ページ)を参照してください。
ステップ4	CIMCにアクセスし、CIMCからVMware vSphere Hypervisorにアクセスします。	管理ファームウェアのアクセス、(85ページ)を参照してください。

このガイドで使用される共通用語

表 4: 共通用語

用語	説明
BMC	ボード管理コントローラ。 BMC は Cisco IOS コマンドによって CIMC を設定するときに使用されます。
CIMC	Cisco Integrated Management Controller CIMC は、E シリーズ サーバ用の管理サービスです。CIMC はサーバ内で動作します。CIMC を使用して別のサーバへのアクセス、設定、管理、およびモニタを行えます。
CLI	コマンドライン インターフェイス。
IMC	Integrated Management Controller. IMC は Cisco IOS コマンドによって CIMC を設定するときに使用されます。
LOM	オンボード LAN 共有 LOM インターフェイスは CIMC アクセスを設定するために使用されます。
RAID	Redundant Array of Inexpensive Disks RAID は E シリーズ サーバ データ ファイルを保存するために使用されます。



第 3 章

ルータへの E シリーズ サーバまたは NCE のインストール

この章は、次の項で構成されています。

- [E シリーズ サーバまたは NCE をルータにインストールする基本的なワークフロー, 15 ページ](#)
- [適合性の確認, 16 ページ](#)
- [ルータへの E シリーズ サーバおよび NCE のインストール, 17 ページ](#)
- [インストールの確認, 20 ページ](#)
- [E シリーズ サーバによる CIMC ファームウェアのリセットと更新の停止 : Cisco ISR 4000 シリーズ, 23 ページ](#)
- [次の作業, 24 ページ](#)

E シリーズ サーバまたは NCE をルータにインストールする基本的なワークフロー

- 1 ルータ、E シリーズ サーバまたは NCE、およびルータにインストールされた Cisco IOS のソフトウェアバージョンが互換していることを確認します。
- 2 E シリーズ サーバまたは NCE をルータにインストールします。

**重要**

E シリーズ サーバを Cisco ISR G2 から Cisco ISR 4000 シリーズに移行する場合は、E シリーズサーバが Cisco ISR G2 にインストールされている間に CIMC ファームウェア イメージのリリース 2.0(1.20130626092411) または最新バージョンへの更新および BIOS ファームウェア イメージのリリース 1.5.0.2 または最新バージョンへの更新を実行し、その後で Cisco ISR 4000 シリーズに移行する必要があります。CIMC ファームウェアのインストール手順については、Cisco.com の『*GUI Configuration Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine*』の「CIMC Firmware Management」の章を参照してください。

- 3 E シリーズ サーバまたは NCE がルータによって正しく検出されることを確認します。

適合性の確認

Cisco ISR G2、E シリーズサーバ、NCE と Cisco IOS ソフトウェアリリースの互換性の確認

表 5: ルータ、E シリーズサーバ、NCE、および Cisco IOS リリースの互換性

ルータ	シングル幅の E シリーズサーバおよび SM E シリーズ NCE の Cisco IOS ソフトウェア リリース	ダブル幅の E シリーズサーバの Cisco IOS ソフトウェア リリース	EHWIC E シリーズ NCE の Cisco IOS ソフトウェア リリース
1921	—	—	15.4(3)M 以降のリリース
1941	—	—	15.4(3)M 以降のリリース
2911	15.2(4)M 以降のリリース	—	15.4(3)M 以降のリリース
2921	15.2(4)M 以降のリリース	15.2(4)M 以降のリリース	15.4(3)M 以降のリリース
2951	15.2(4)M 以降のリリース	15.2(4)M 以降のリリース	15.4(3)M 以降のリリース
3925	15.2(4)M 以降のリリース	15.2(4)M 以降のリリース	15.4(3)M 以降のリリース
3925e	15.2(4)M 以降のリリース	15.2(4)M 以降のリリース	15.4(3)M 以降のリリース
3945	15.2(4)M 以降のリリース	15.2(4)M 以降のリリース	15.4(3)M 以降のリリース
3945e	15.2(4)M 以降のリリース	15.2(4)M 以降のリリース	15.4(3)M 以降のリリース

Cisco ISR 4000 シリーズ、E シリーズ サーバ、NIM、CIMC、および Cisco IOS ソフトウェア リリースの互換性の確認

表 6 : Cisco ISR 4000 シリーズ、E シリーズ サーバ、NIM、CIMC、および Cisco IOS リリースの互換性

ルータ	シングル幅の E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の Cisco IOS ソフトウェア リリース	ダブル幅の E シリーズ サーバの Cisco IOS ソフトウェア リリース	NIM E シリーズ NCE の Cisco IOS ソフトウェア リリース	CIMC
4400 シリーズ	XE 3.12S	XE 3.12S	–	2.2.2 以降のリリース
	XE 3.13S 以降のリリース	XE 3.13S 以降のリリース	–	2.3.1 以降のリリース
	–	–	XE 3.15S 以降のリリース	3.0.1 以降のリリース
	XE 16.2.1 ¹	XE 16.2.1	XE 16.2.1	3.0.1 以降のリリース
4300 シリーズ	XE 3.13S 以降のリリース	XE 3.13S 以降のリリース	–	2.3.1 以降のリリース
	–	–	XE 3.15S 以降のリリース	3.0.1 以降のリリース
	XE 16.2.1	XE 16.2.1	XE 16.2.1	3.0.1 以降のリリース

¹ リリース バージョンを XE 16.2.1 からダウングレードしないでください。リリース バージョンを XE 16.2.1 からダウングレードすると、CSCux77048 のために UCS-E モジュールが起動しなくなります。UCS-E モジュールを起動させるには、`hw-module subslot x/y reload` コマンドを使用して OIR を実行してください。

ルータへの E シリーズ サーバおよび NCE のインストール

次の図は、E シリーズ サーバおよび EHWIC E シリーズ NCE をルータへインストールする方法を示します。詳細については、Cisco.com の『*Hardware Installation Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine*』を参照してください。

Cisco ISR G2 のダブル幅の E シリーズ サーバ



注意

Cisco 2900 シリーズ ISR G2 に E シリーズ サーバ をインストールまたは削除する前に、ルータの電源を切ってからサーバのインストールまたは削除を実行します。

図 6 : Cisco ISR G2 のダブル幅の E シリーズ サーバ



284666

Cisco ISR 4000 シリーズのダブル幅の E シリーズ サーバ



重要

Cisco ISR G2 から E シリーズ サーバ を Cisco ISR 4000 シリーズ へ移行する場合は、E シリーズサーバがまだ Cisco ISR G2 にインストールされている間に、まず CIMC および BIOS ファームウェア イメージを最新バージョンにアップグレードする必要があります。その後で、Cisco ISR 4000 シリーズ に移行します。CIMC ファームウェア イメージと BIOS ファームウェア イメージの両方をアップグレードすることを強く推奨します。

ファームウェア コンポーネントは、Cisco Host Upgrade Utility (HUU) を使用してアップグレードすることも手動でアップグレードすることもできます。アップグレードの詳細については、[ファームウェアのアップグレード](#)、(151 ページ) を参照してください。

最初に CIMC ファームウェアを更新せずに E シリーズ サーバを Cisco ISR 4000 シリーズ へ移行すると、E シリーズサーバは引き続きリセットされます。ファームウェアのリセットとインストールを停止するには、[E シリーズサーバによる CIMC ファームウェアのリセットと更新の停止 : Cisco ISR 4000 シリーズ](#)、(23 ページ) を参照してください。

図 7: Cisco ISR 4000 シリーズのダブル幅 E シリーズサーバ



Cisco ISR G2 の EHWIC E シリーズ NCE**注意**

ISR G2 から EHWIC E シリーズ NCE をインストールまたは削除する前に、ルータの電源を切ってから NCE のインストールまたは削除を実行します。

図 8 : Cisco ISR G2 の EHWIC E シリーズ NCE

**Cisco ISR 4000 シリーズの NIM E シリーズ NCE**

図 9 : Cisco ISR 4000 シリーズの NIM E シリーズ NCE



インストールの確認

E シリーズ サーバのインストールの確認

はじめる前に

- E シリーズ サーバをルータにインストールします。

- 互換性のある Cisco IOS イメージをロードします。
- サーバの電源をオンにします。

E シリーズ サーバのインストールを確認するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

- 物理システム全体の概要を表示するには、**show platform** コマンドを使用します。

```
Router# show platform
Chassis type: ISR4451/K9
Slot      Type                State                Insert time (ago)
-----
0         ISR4451/K9            ok                   1d01h
  0/0     ISR4400-4X1GE        ok                   1d01h
1         ISR4451/K9            ok                   1d01h
  1/0     UCS-E160DP-M1/K9    ok                   1d01h
2         ISR4451/K9            ok                   1d01h
R0        ISR4451/K9            ok, active          1d01h
F0        ISR4451/K9            ok, active          1d01h
P0        XXX-XXXX-XX          ok                   1d01h
P1        Unknown              ps,                  1d01h
P2        ACS-4450-FANASSY     ok                   1d01h
```

```
Slot      CPLD Version          Firmware Version
-----
0         12090323             12.2 (20120829:165313)
1         12090323             12.2 (20120829:165313)
2         12090323             12.2 (20120829:165313)
R0        12090323             12.2 (20120829:165313)
F0        12090323             12.2 (20120829:165313)
```

- ルータが E シリーズ サーバを認識していることを確認するには、**show hw-module subslot all oir** コマンドを使用します。

```
Router# show hw-module subslot all oir
Module      Model                Operational Status
-----
subslot 0/0  ISR4451-X-4X1GE      ok
subslot 1/0  UCS-E140S-M1/K9      ok
subslot 2/0  UCS-E140S-M1/K9      ok
```

EHWIC E シリーズ NCE のインストールの確認

はじめる前に

- EHWIC E シリーズ NCE をルータにインストールします。
- 互換性のある Cisco IOS イメージをロードします。
- NCE の電源をオンにします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> show inventory	ルータが、新しくインストールされた EHWIC E シリーズ NCE の存在を検出することを確認します。

```
Router> show inventory
```

```
NAME: "CISCO3945-CHASSIS", DESCR: "CISCO3945-CHASSIS"
PID: CISCO3945-CHASSIS , VID: V02, SN: FGL1539100Q
```

```
NAME: "Cisco Services Performance Engine 150 for Cisco 3900 ISR on Slot 0", DESCR: "Cisco
Services Performance Engine 150 for Cisco 3900 ISR"
PID: C3900-SPE150/K9 , VID: V05 , SN: FOC15367HAZ
```

```
NAME: "Enhanced WAN Interface Card UCS Server on Slot 0 SubSlot 3", DESCR: "Enhanced WAN
Interface Card UCS Server"
PID: UCS-EN120E-M2/K9 , VID: V01, SN: FOC17462K2A
```

```
NAME: "C3900 AC Power Supply 1", DESCR: "C3900 AC Power Supply 1"
PID: PWR-3900-AC , VID: V03, SN: SNI1511C8SM
```

NIM E シリーズ NCE インストールの確認

はじめる前に

- NIM E シリーズ NCE をルータにインストールします。
- 互換性のある Cisco IOS イメージをロードします。
- サーバの電源をオンにします。

NIM E シリーズ NCE のインストールを確認するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

- 物理システム全体の概要を表示するには、**show platform** コマンドを使用します。

```
Router# show platform
Chassis type: ISR4351/K9
```

```
0/1      UCS-EN140N-M2/K9    ok                3w5d
1/0      UCS-E140DP-M1/K9   ok                4w6d
2        ISR4351/K9         ok                5w2d
R0       ISR4351/K9         ok, active        5w2d
F0       ISR4351/K9         ok, active        5w2d
P0       PWR-4450-AC        ok                5w2d
P2       ACS-4450-FANASSY   ok                5w2d
```

```
Slot      CPLD Version      Firmware Version
-----
0         14080523          15.4(3r)S1
1         14080523          15.4(3r)S1
2         14080523          15.4(3r)S1
```

```
R0      14080523      15.4 (3r) S1
F0      14080523      15.4 (3r) S1
```

- ルータが NIM E シリーズ NCE を認識していることを確認するには、**show hw-module subslot all oir** コマンドを使用します。

```
Router# show hw-module subslot all oir
Module          Model                Operational Status
-----
subslot 0/0     ISR4351-3x1GE        ok
subslot 0/1     UCS-EN140N-M2/K9     ok
subslot 1/0     UCS-E140DP-M1/K9     ok
```

E シリーズ サーバによる CIMC ファームウェアのリセットと更新の停止 : Cisco ISR 4000 シリーズ

CIMC ファームウェアを更新せずに E シリーズ サーバを Cisco ISR 4000 シリーズ に移行した場合、E シリーズ サーバは引き続きリセットされます。この手順を使用して、ファームウェアのリセットおよびインストールを停止します。



(注) この手順の一部はルータから実行され、他の手順は E シリーズ サーバから実行されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router# hw-module subslot slot/subslotmaintenance enable	エラー リカバリをディセーブルにします。これにより、E シリーズサーバのリセットが停止します。 (注) ステップ 1 およびステップ 2 のコマンドは、ルータから入力します。
ステップ 2	Router# hw-module subslot slot/subslotsession imc	CIMC セッションを開始します。
ステップ 3	Server# scopecimc	CIMC コマンドモードを開始します。 (注) ステップ 3 ~ ステップ 8 のコマンドは、E シリーズサーバから入力します。
ステップ 4	Server/cimc # scopefirmware	CIMC ファームウェア コマンドモードを開始します。
ステップ 5	Server/cimc/firmware # update tftp-ip-address path-and-filename	CIMC ファームウェアの更新を開始します。サーバは、指定の IP アドレスにある TFTP サーバから、指定のパスとファイル名のアップデート ファームウェアを取得します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	Server/cimc/firmware # show [detail]	使用可能なファームウェアおよびステータスを表示します。
ステップ 7	Server/cimc/firmware # activate [1 2]	選択したイメージをアクティブにします。イメージ番号が指定されていない場合、サーバは現在非アクティブのイメージをアクティブにします。
ステップ 8	Ctrl-a Ctrl-q を押します。	CIMC セッションを終了します。
ステップ 9	Router# hw-module subslot slot/subslotmaintenance disable	エラー リカバリをイネーブルにします。 (注) ステップ 9 およびステップ 10 のコマンドは、ルータから入力します。
ステップ 10	Router# hw-module subslot slot/subslotreload	E シリーズ サーバをリロードします。 (注) このリロードは、E シリーズ サーバの電源を再投入します。

次の作業

CIMC アクセス用の CIMC IP アドレスを設定します。管理ファームウェアにアクセスするための設定、(25 ページ) を参照してください。



第 4 章

管理ファームウェアにアクセスするための設定

この章では、E シリーズ サーバおよび NCE インターフェイスについて概説し、E シリーズ サーバまたは NCE がルータにインストールされている場合に、CIMC 管理ファームウェアへアクセスするための設定手順について説明します。ここで説明する内容は、次のとおりです。

- [CIMC アクセスの設定, 25 ページ](#)
- [CIMC 設定ユーティリティによる CIMC アクセスの設定, 80 ページ](#)
- [スクリプト ファイルによるネットワークのスタティック設定の定義, 82 ページ](#)
- [次の作業, 84 ページ](#)

CIMC アクセスの設定

リモート ユーザの場合、Cisco IOS CLI を使用して CIMC アクセスを設定します。

ローカル ユーザの場合、次のいずれかの方法を使用します。

- キーボードとモニタを E シリーズ サーバの前面パネルに接続し、CIMC Configuration Utility を使用して CIMC アクセスを設定します。



(注) CIMC Configuration Utility は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。

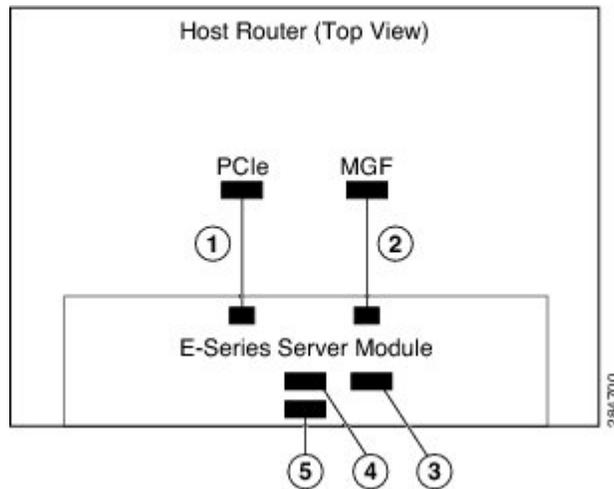
- CIMC アクセスを設定するには、Cisco IOS CLI を使用します。必要に応じて、次のいずれかを参照してください。
 - [CIMC アクセス設定オプション : Cisco ISR G2, \(27 ページ\)](#)
 - [CIMC アクセス設定オプション : Cisco ISR 4000 シリーズ, \(42 ページ\)](#)

- CIMC アクセス設定オプション : EHWIC E シリーズ NCE, (58 ページ)
- CIMC アクセス設定オプション : NIM E シリーズ NCE, (69 ページ)

E シリーズ サーバおよび Cisco ISR G2 のインターフェイスの概要

次の図は、ダブル幅 E シリーズ サーバおよび Cisco ISR G2 ホスト ルータのインターフェイスを示しています。

図 10: ダブルワイドの E シリーズ サーバインターフェイス



	インターフェイス	インターフェイスの場所	説明
1	ルータの PCIe slot/0 インターフェイス	内部インターフェイス	コンソール インターフェイスとも呼ばれます。このインターフェイスは、ルータの PCIe インターフェイスを E シリーズ サーバに接続します。PCIe インターフェイスは、ルータと E シリーズサーバ間の内部レイヤ 3 GE リンクを提供します。CIMC 設定でもホストオペレーティングシステム設定でも使用できます。

2	ルータの MGF <i>slot</i> /1 VLAN インターフェイス	内部インターフェイス	高速バックプレーンスイッチ上で CIMC にアクセスするために使用されます。MGF VLAN インターフェイスは、ルータと E シリーズサーバ間の内部レイヤ 2 GE リンクを提供します。このインターフェイスは、CIMC 設定でもホストオペレーティングシステム設定でも使用できます。
3	管理（専用）インターフェイス	外部インターフェイス	CIMC の設定と管理に使用されます。
4	GE3 インターフェイス	外部インターフェイス	プライマリ インタフェースまたはバックアップ インターフェイスとして使用されます。このインターフェイスは、CIMC 設定でもホストオペレーティングシステム設定でも使用できます。 (注) GE3 インターフェイスは、ダブル幅 E シリーズサーバだけで使用できます。
5	GE2 インターフェイス	外部インターフェイス	プライマリ インタフェースまたはバックアップ インターフェイスとして使用されます。このインターフェイスは、CIMC 設定でもホストオペレーティングシステム設定でも使用できます。

CIMC アクセス設定オプション : Cisco ISR G2

リモートユーザであるかローカルユーザであるかに応じ、次のいずれかの操作を実行して CIMC アクセスを設定します。

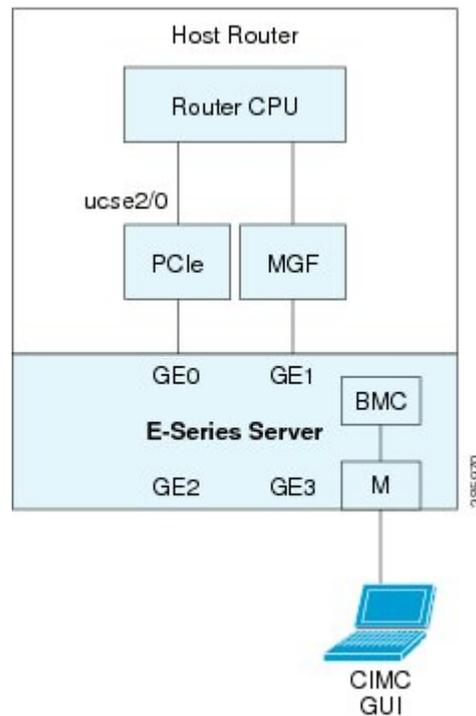
- リモートユーザの場合は、外部管理（専用）インターフェイスか、次のいずれかの共有 LOM インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。
 - ルータの内部 PCIe *slot*/0 コンソール インターフェイス
 - ルータの内部 MGF *slot*/1 VLAN インターフェイス
 - E シリーズサーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイス

- ローカルユーザの場合は、Cisco IOS CLI または CIMC 設定ユーティリティを使用して CIMC アクセスを設定します。

E シリーズ サーバの外部管理（専用）インターフェイスによる CIMC アクセスの設定：Cisco ISR G2

次の図と手順を確認し、その手順に従って、E シリーズ サーバの外部管理（専用）インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。

図 11: E シリーズ サーバの外部管理（専用）インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface ucse slot/port	E シリーズ サーバがインストールされているスロットとポート用のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-if)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホスト ルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルトゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 5	Router(config-if)# imc access-port dedicated	サーバの外部管理（専用）インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。「 E シリーズサーバおよび Cisco ISR G2 のインターフェイスの概要 」の #3 を参照してください。
ステップ 6	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 7	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

次の例は、サーバの外部 IMC 専用インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# interface ucse 2/0
Router(config-if)# imc ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.2
Router(config-if)# imc access-port dedicated
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

共有 LOM による CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2

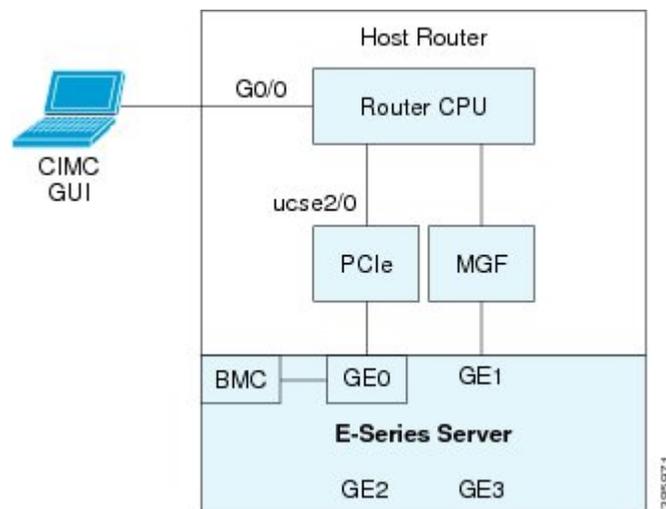
CIMC アクセスを設定するには、次の共有 LOM インターフェイスのいずれかを使用します:

- ルータの内部 PCIe slot/0 コンソール インターフェイス
- ルータの内部 MGF slot/1 VLAN インターフェイス
- E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイス

ルータの内部 PCIe slot/0 コンソール インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2

次の図と手順を確認し、その手順に従って、ルータの内部 PCIe slot/0 コンソール インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。

図 12: ルータの内部 PCIe slot/0 コンソール インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホストルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホストルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface GigabitEthernet0/0	ギガビットイーサネット 0/0 のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-if)# ip address ip-address subnet-mask	インターフェイスの IP アドレスおよびサブネット マスクを指定します。
ステップ 5	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 6	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	Router# configure terminal	ホストルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	Router (config)# interface ucse slot/port	E シリーズサーバがインストールされているスロットとポート用のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	Router (config-if)# ip unnumbered type number	<p>（任意） <code>ip unnumbered</code> コマンドは、インターフェイスに明示的な IP アドレスを割り当てずに、そのインターフェイス上での IP 処理をイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>type</code> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスのタイプ。 • <code>number</code> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスおよびサブインターフェイスの番号。 <p>（注） アンナンバードインターフェイスは、一意である必要があります。番号付けされていない別のインターフェイスは指定できません。</p> <p><code>ip unnumbered</code> コマンドを使用する場合は、<code>ip route</code> コマンドを使用してスタティックルートを作成する必要があります。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		注意 ip unnumbered および ipv6 unnumbered コマンドでは、デバイス間のポイントツーポイントインターフェイスが作成されます。ブロードキャストはサポートされません。
ステップ 10	Router (config-if)# imc ip address cimc-ip-address subnet-maskdefault-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホストルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルトゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 11	Router(config-if)# imc access-port shared-lom console	ルータの PCIe slot/0 (コンソール) インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。「 E シリーズサーバおよびCisco ISR G2のインターフェイスの概要 」の 1 番目の項目を参照してください。
ステップ 12	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 13	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 14	Router# configure terminal	ホストルータでグローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 15	Router (config)# ip route cimc-ip-address subnet-maskucse slot/port	スタティック ルートを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>slot/port</i> : E シリーズサーバがインストールされるスロットとポート。
ステップ 16	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 17	Router# ping cimc-ip-address	ルータの内部 PCIe slot/0 コンソールインターフェイスを経由したルータから CIMC への接続を確認します。

次に、サーバの内部 PCIe slot/0 コンソールインターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する例を示します。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# interface GigabitEthernet0/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end

Router# configure terminal
Router(config)# interface ucse 2/0
Router(config)# ip unnumbered GigabitEthernet0/0
Router(config-if)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
Router(config-if)# imc access-port shared-lom console
Router(config-if)# no shut
Router(config)# end

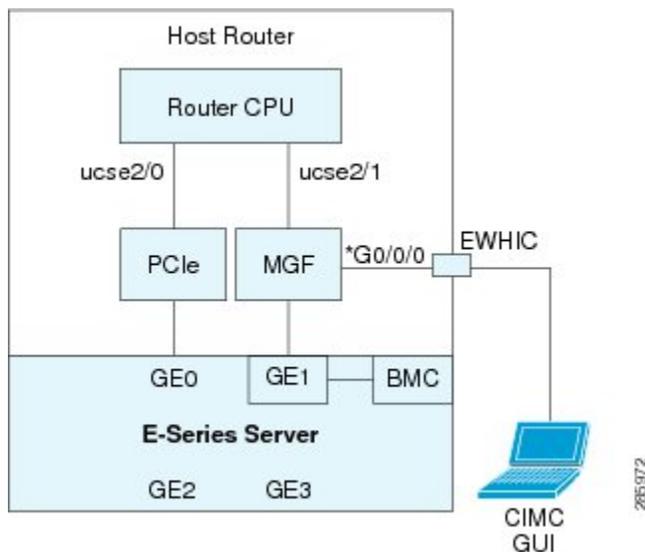
Router# configure terminal
Router(config)# ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse 2/0
Router(config)# end

Router# ping 10.0.0.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.0.0.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/4 ms
```

ルータの内部 MGF slot/1 VLAN インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2

次の図と手順を確認し、その手順に従って、ルータの内部 MGF slot/1 VLAN インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。

図 13: ルータの内部 MGF slot/1 VLAN インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# show vlan-switch	VLAN を表示します。
ステップ 3	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config)# interface vlan vlan-number	指定した VLAN 番号の VLAN コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	Router (config-if)# ip address vlan-ip-address subnet-mask	VLAN の IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>vlan-ip-address</i> : VLAN の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスにアペンドするサブ ネット マスク。
ステップ 6	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	Router (config)# interface ucse slot/port	E シリーズサーバがインストールされているスロットとポート用のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	Router (config-if)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブ ネット マスクであり、ホスト ルータと同じサブ ネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	Router(config-if)# imc access-port shared-lom GE1	ルータの内部 <i>slot/1</i> MGF VLAN インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。「 E シリーズ サーバおよび Cisco ISR G2 のインターフェイスの概要 」の 2 番目の項目を参照してください。
ステップ 11	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 12	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 13	Router# ping cimc-ip-address	ルータの内部 MGF <i>slot/1</i> VLAN インターフェイスを経由したルータから CIMC への接続を確認します。

次の例は、ルータの内部 MGF *slot/1* VLAN インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router> password
Router> show vlan-switch
VLAN Name                Status      Ports
-----
1    default                active     Gi0/0/0, Gi0/0/1, Gi0/0/2
                                           Gi0/0/3, uc2/1

Router# configure terminal
Router(config)# interface vlan 1
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# end

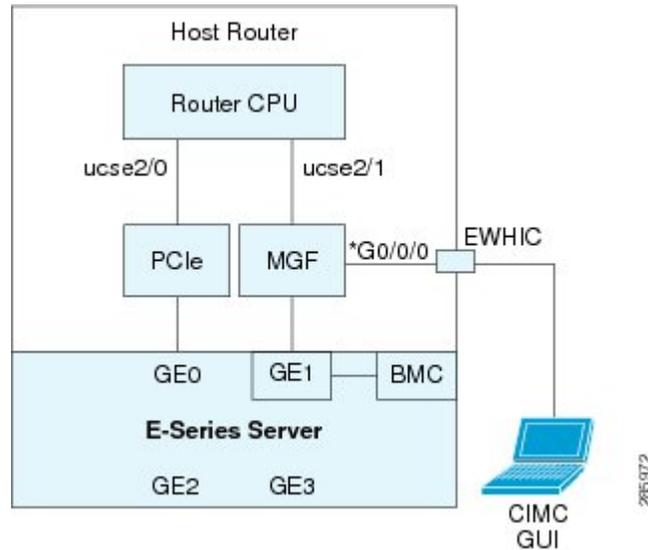
Router# configure terminal
Router(config)# interface ucse 2/0
Router(config-if)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
Router(config-if)# imc access-port shared-lom GE1
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end

Router# ping 10.0.0.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.0.0.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/4 ms
```

非ネイティブの VLAN を使用したルータの内部 MGF slot/1 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2

次の図と手順を確認し、その手順に従って、非ネイティブ VLAN のルータの内部 MGF slot/1 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。

図 14: 非ネイティブの VLAN のルータ内部の MGF slot/1 インターフェイスを使用した CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホストルータで特権 EXEC モードを開始します。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# show vlan-switch	VLAN を表示します。
ステップ 3	Router# configure terminal	ホストルータでグローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	Router (config)# vlan vlan-number	指定された VLAN を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	Router (config)# end	VLAN コンフィギュレーションを終了します。
ステップ 6	Router# configure terminal	ホストルータでグローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	Router (config)# interface vlan vlan-number	指定した VLAN 番号の VLAN コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	Router (config-if)# ip address vlan-ip-address subnet-mask	VLAN の IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>vlan-ip-address</i> : VLAN の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスにアペンドするサブ ネットマスク。
ステップ 9	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 10	Router# configure terminal	ホストルータでグローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	Router (config)# interface ucse slot/port	E シリーズ サーバがインストールされているスロットとポート用のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	Router (config)# imc vlan vlan-id	CIMC について指定された VLAN ID を設定します。
ステップ 13	Router (config-if)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブ ネットマスクであり、ホストルータと同じサブ ネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 14	Router(config-if)# imc access-port shared-lom GE1	ルータの内部 slot/1 MGF VLAN インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。「 E シリーズサーバおよびCisco ISR G2のインターフェイスの概要 」の 2 番目の項目を参照してください。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 15	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 16	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 17	Router# configure terminal	ホストルータでグローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 18	Router (config)# interface ucse slot/1	ルータの MGF slot/1 VLAN インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 19	Router(config-if)# switchport mode trunk	ポートを永続的なトランキングモードにします。デフォルトの設定は、アクセス モードです。
ステップ 20	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 21	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 22	Router# ping cimc-ip-address	ルータの内部 MGF slot/1 VLAN インターフェイスを経由したルータから CIMC への接続を確認します。

次に、非ネイティブ VLAN のルータの内部 MGF slot/1 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する例を示します。

```
Router> enable
Router> password
Router> show vlan-switch
VLAN Name                Status      Ports
-----
1    default                active     Gi0/0/0, Gi0/0/1, Gi0/0/2
                                           Gi0/0/3, uc2/1

Router# configure terminal
Router (config)# vlan 2
Router (config)# end

Router# configure terminal
Router (config)# interface vlan 2
Router (config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router (config-if)# end

Router# configure terminal
Router (config)# interface ucse 2/0
Router (config-if)# imc vlan 2
Router (config-if)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
Router (config-if)# imc access-port shared-lom GE1
Router (config-if)# no shut
Router (config-if)# end
```

```

Router# configure terminal
Router(config)# interface ucse 2/1
Router(config-if)# switchport mode trunk
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end

Router# ping 10.0.0.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.0.0.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/4 ms

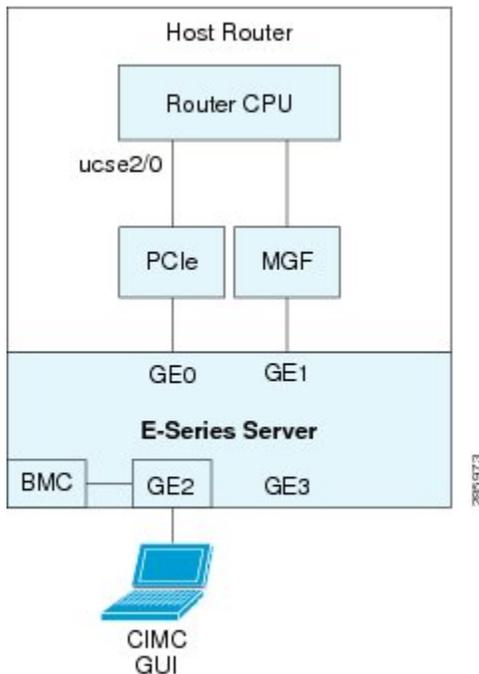
```

E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR G2
 次の図と手順を確認し、その手順に従って、E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。



(注) 次の図は、E シリーズ サーバの外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

図 15: E シリーズ サーバの外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。

- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface ucse slot/port	E シリーズ サーバがインストールされているスロットとポート用のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-if)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホスト ルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 5	Router (config-if)# imc access-port shared-lom {GE2 GE3}	E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。「 E シリーズ サーバおよび Cisco ISR G2 のインターフェイスの概要 」の 4 番目と 5 番目の項目を参照してください。
ステップ 6	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 7	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

次の例は、サーバの外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

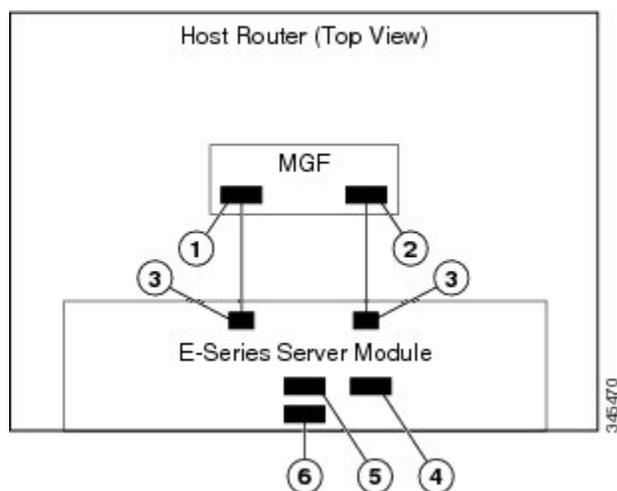
Router (config)# interface ucse 2/0
Router (config-if)# imc ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.2
```

```
Router(config-if)# imc access-port shared-lom GE2
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

E シリーズ サーバおよび Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要

次の図は、ダブル幅の E シリーズ サーバおよび Cisco ISR 4000 シリーズ ホスト ルータのインターフェイスを示します。

図 16: ダブルワイドの E シリーズ サーバインターフェイス



	インターフェイス	インターフェイスの場所	説明
1	ルータの <code>ucse slot/0/0</code> インターフェイス	内部インターフェイス	<p>高速バックプレーン スイッチ上で CIMC にアクセスするために使用されます。MGF インターフェイスは、ルータと E シリーズ サーバ間の内部レイヤ 2 GE リンクを提供します。このインターフェイスは、CIMC 設定でもホストオペレーティングシステム設定でも使用できます。</p> <p>(注) このインターフェイスは、E シリーズ サーバの内部 GE0 インターフェイスにアクセスするために使用されます。</p>

2	ルータの <code>ucse slot/0/1</code> インターフェイス	内部インターフェイス	高速バックプレーン スイッチ上で CIMC にアクセスするために使用されます。MGF インターフェイスは、ルータと E シリーズサーバ間の内部レイヤ 2 GE リンクを提供します。このインターフェイスは、CIMC 設定でもホストオペレーティングシステム設定でも使用できます。 (注) このインターフェイスは、E シリーズサーバの内部 GE1 インターフェイスにアクセスするために使用されます。
3	GE0 および GE1 インターフェイス	内部インターフェイス	E シリーズサーバの内部 NIC インターフェイス。
4	管理 (専用) インターフェイス	外部インターフェイス	CIMC の設定と管理に使用されます。
5	GE3 インターフェイス	外部インターフェイス	CIMC 設定でもホストオペレーティングシステム設定でも使用できます。 (注) GE3 インターフェイスは、ダブル幅 E シリーズサーバだけで使用できます。
6	GE2 インターフェイス	外部インターフェイス	CIMC 設定でもホストオペレーティングシステム設定でも使用できます。

CIMC アクセス設定オプション : Cisco ISR 4000 シリーズ

リモート ユーザであるかローカル ユーザであるかに応じ、次のいずれかの操作を実行して CIMC アクセスを設定します。

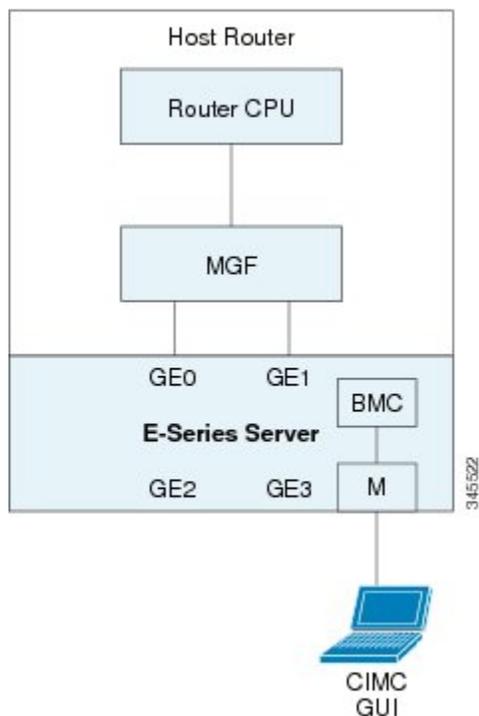
- リモート ユーザの場合は、Cisco IOS CLI を使用して、次のいずれかのインターフェイスによって使用する CIMC アクセスを設定します。
 - CIMC 管理 (専用) インターフェイス
 - E シリーズサーバの内部 GE0 およびルータの `ucse slot/0/0` インターフェイス

- E シリーズ サーバの内部 GE1 インターフェイスおよびルータの `ucse slot/0/1` インターフェイス
 - E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイス
- ローカル ユーザの場合は、CIMC Configuration Utility または Cisco IOS CLI（前述）を使用して CIMC アクセスを設定します。

E シリーズ サーバの外部管理（専用）インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ

次の図と手順を確認し、その手順に従って、E シリーズ サーバの外部管理（専用）インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。

図 17: E シリーズ サーバの外部管理（専用）インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# ucse subslot slot/subslot	E シリーズサーバがインストールされているスロットとサブスロット用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-ucse)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホスト ルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 5	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • Router (config-ucse)# imc access-port mgmt • Router (config-ucse)# imc access-port dedicated 	サーバの外部管理（専用）インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。 NIME シリーズ NCE および Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要 、(68 ページ) の 4 番目の項目を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco IOS XE Release 3.9S をインストールした場合は、imc access-port mgmt コマンドを使用します。 • Cisco IOS XE Release 3.10S 以降のバージョンをインストールした場合は、imc access-port dedicated コマンドを使用します。
ステップ 6	Router (config-ucse)# end	ホスト ルータの特権 EXEC モードに戻ります。

次に、サーバの外部管理インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する例を示します。Cisco IOS XE Release 3.9S だけに適用できます。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal
```

```
Router(config)# ucse subslot 1/0
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.2
Router(config-ucse)# imc access-port mgmt
Router(config-ucse)# end
```

次に、サーバの外部専用インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する例を示します。Cisco IOS XE Release 3.10S 以降のバージョンにだけ適用できます。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# ucse subslot 1/0
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.2
Router(config-ucse)# imc access-port dedicated
Router(config-ucse)# end
```

E シリーズ サーバの NIC インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ

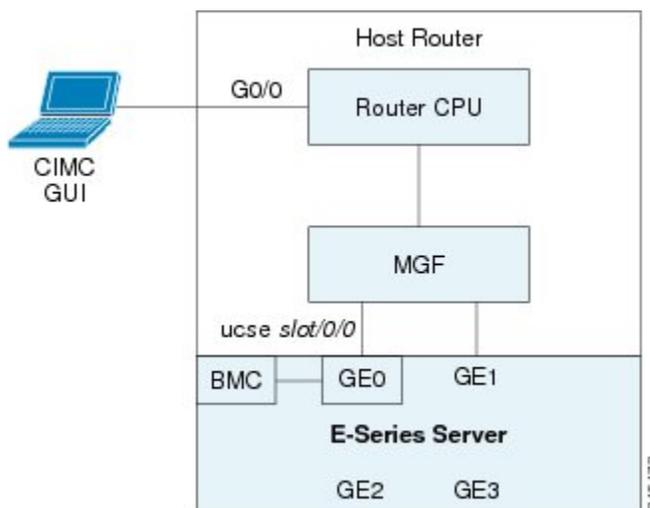
CIMC にアクセスするには、次の E シリーズ サーバの NIC インターフェイスのいずれかを使用します。

- E シリーズ サーバの内部 GE0 およびルータの *ucse slot/0/0* インターフェイス
- E シリーズ サーバの内部 GE1 インターフェイスおよびルータの *ucse slot/0/1* インターフェイス
- E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイス

E シリーズ サーバの内部 GE0 インターフェイスと Cisco ISR 4000 シリーズ *ucse slot/0/0* インターフェイスによる CIMC アクセスの設定

次の図と手順を確認し、その手順に従って、E シリーズ サーバの内部 GE0 インターフェイスとルータの *ucse slot/0/0* インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。

図 18 : E シリーズ サーバの内部 GE0 インターフェイスとルータの *ucse slot/0/0* インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホストルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホストルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface GigabitEthernet 0/0/0	ギガビットイーサネット 0/0/0 のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-if)# ip address ip-address subnet-mask	インターフェイスの IP アドレスおよびサブネットマスクを指定します。
ステップ 5	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 6	Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	Router (config)# interface ucse slot/0/0	E シリーズサーバがインストールされているスロット、サブスロット、およびポート用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	Router (config-if)# ip unnumbered type number	<p>(任意) ip unnumbered コマンドは、インターフェイスに明示的な IP アドレスを割り当てずに、そのインターフェイス上での IP 処理をイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスのタイプ。 • <i>number</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスおよびサブインターフェイスの番号。 <p>(注) アンナンバード インターフェイスは、一意である必要があります。番号付けされていない別のインターフェイスは指定できません。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>ip unnumbered コマンドを使用する場合は、ip route コマンドを使用してスタティックルートを作成する必要があります。</p> <p>注意 ip unnumbered および ipv6 unnumbered コマンドでは、デバイス間のポイントツーポイントインターフェイスが作成されます。ブロードキャストはサポートされません。</p>
ステップ 9	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 10	Router(config-if)# exit	インターフェイスコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 11	Router (config)# ucse subslot slot/subslot	E シリーズ サーバがインストールされているスロットとサブスロット用の ucse インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 12	Router (config-ucse)# imc ip address cime-ip-address subnet-mask default-gateway cime-gateway-ip-address	<p>CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>cime-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホストルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cime-gateway-ip-address</i> : デフォルトゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 13	<p>次のいずれかのコマンドを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Router (config-ucse)# imc access-port ge0 • Router (config-ucse)# imc access-port shared-lom console 	<p>E シリーズ サーバの内部 GE0 インターフェイスまたはコンソールインターフェイスによる CIMC アクセスを設定します。E シリーズ サーバおよび Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要, (41 ページ) の 3 番目の項目を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco IOS XE Release 3.9S をインストールした場合は、imc access-port ge0 コマンドを使用します。 • Cisco IOS XE Release 3.10S 以降のバージョンをインストールした場合は、imc access-port shared-lom console コマンドを使用します。
ステップ 14	Router (config-ucse)# exit	ucse インターフェイスコンフィギュレーションモードを終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 15	Router (config)# ip route <i>cimc-ip-address</i> <i>subnet-mask</i> ucse <i>slot/subslot/port</i>	スタティック ルートを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>slot/subslot/port</i> : E シリーズ サーバがインストールされるスロット、サブスロット、およびポート。
ステップ 16	Router (config)# end	設定モードを終了します。
ステップ 17	Router# ping <i>cimc-ip-address</i>	<i>ucse slot/0/0</i> インターフェイスを経由するルータから CIMC への接続を確認します。

次に、E シリーズ サーバの内部 GE0 インターフェイスとルータの *ucseslot/0/0* インターフェイスによる CIMC アクセスを設定する例を示します。Cisco IOS XE Release 3.9S にだけ適用できます。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# interface GigabitEthernet0/0/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# exit

Router(config)# interface ucse 1/0/0
Router(config-if)# ip unnumbered GigabitEthernet0/0/0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# exit

Router(config)# ucse subslot 1/0
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
Router(config-ucse)# imc access-port ge0
Router(config-ucse)# exit

Router(config)# ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse 1/0/0
Router(config)# end
```

```
Router# ping 10.0.0.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.0.0.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/4 ms
```

次に、E シリーズ サーバの内部コンソールインターフェイスとルータの *ucseslot/0/0* インターフェイスによる CIMC アクセスを設定する例を示します。Cisco IOS XE Release 3.10S 以降のバージョンにだけ適用できます。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# interface GigabitEthernet0/0/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
```

```

Router(config-if)# exit

Router(config)# interface ucse 1/0/0
Router(config-if)# ip unnumbered GigabitEthernet0/0/0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# exit

Router(config)# ucse subslot 1/0
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
Router(config-ucse)# imc access-port shared-lom console
Router(config-ucse)# exit

Router(config)# ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse 1/0/0
Router(config)# end

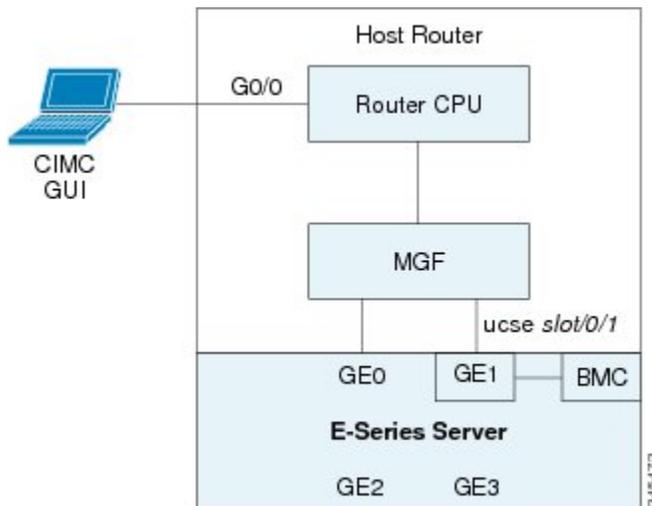
Router# ping 10.0.0.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.0.0.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/4 ms

```

E シリーズ サーバの内部 **GE1** インターフェイスと **Cisco ISR 4000** シリーズ **ucse slot/0/1** インターフェイスによる **CIMC** アクセスの設定

次の図と手順を確認し、その手順に従って、E シリーズ サーバの内部 **GE1** インターフェイスとルータの **ucse slot/0/1** インターフェイスによる **CIMC** アクセスを設定します。

図 19: E シリーズ サーバの内部 **GE1** インターフェイスとルータの **ucse slot/0/1** インターフェイスによる **CIMC** アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホストルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホストルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface GigabitEthernet 0/0/0	ギガビット イーサネット 0/0/0 のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-if)# ip address ip-address subnet-mask	インターフェイスの IP アドレスおよびサブネットマスクを指定します。
ステップ 5	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 6	Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	Router (config)# interface ucse slot/0/1	E シリーズサーバがインストールされているスロット、サブスロット、およびポート用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	Router (config-if)# ip unnumbered type number	<p>（任意） ip unnumbered コマンドは、インターフェイスに明示的な IP アドレスを割り当てずに、そのインターフェイス上での IP 処理をイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスのタイプ。 • <i>number</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスおよびサブインターフェイスの番号。 <p>（注） アンナンバード インターフェイスは、一意である必要があります。番号付けされていない別のインターフェイスは指定できません。</p> <p>ip unnumbered コマンドを使用する場合は、ip route コマンドを使用してスタティックルートを作成する必要があります。</p> <p>注意 ip unnumbered および ipv6 unnumbered コマンドでは、デバイス間のポイントツーポイント インターフェイスが作成されます。ブロードキャストはサポートされません。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 10	Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 11	Router (config)# ucse subslot slot/subslot	E シリーズ サーバがインストールされているスロットとサブスロット用の ucse インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 12	Router (config-ucse)# imc ip address cimc-ip-address subnet-maskdefault-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホストルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルトゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 13	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • Router (config-ucse)# imc access-port ge1 • Router (config-ucse)# imc access-port shared-lom ge1 	E シリーズ サーバの内部 GE1 インターフェイスによる CIMC アクセスを設定します。E シリーズ サーバおよび Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要、(41 ページ) の 3 番目の項目を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco IOS XE Release 3.9S をインストールした場合は、imc access-port ge1 コマンドを使用します。 • Cisco IOS XE Release 3.10S 以降のバージョンをインストールした場合は、imc access-port shared-lom ge1 コマンドを使用します。
ステップ 14	Router (config-ucse)# exit	ucse インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 15	Router (config)# ip route cimc-ip-address subnet-maskucse slot/subslot/port	スタティック ルートを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>slot/subslot/port</i> : E シリーズ サーバがインストールされるスロット、サブスロット、およびポート。
ステップ 16	Router (config)# end	設定モードを終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 17	Router# ping <i>cimc-ip-address</i>	ucse slot/0/1 インターフェイスを経由するルータから CIMC への接続を確認します。

次に、E シリーズ サーバの内部 GE1 インターフェイスとルータの ucse スロットの /0/1 インターフェイスによる CIMC アクセスを設定する例を示します。Cisco IOS XE Release 3.9S にだけ適用できます。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# interface GigabitEthernet0/0/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# exit

Router(config)# interface ucse 1/0/1
Router(config-if)# ip unnumbered GigabitEthernet0/0/0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# exit

Router(config)# ucse subslot 1/0
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
Router(config-ucse)# imc access-port gel
Router(config-ucse)# exit

Router(config)# ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse 1/0/1
Router(config)# end
```

```
Router# ping 10.0.0.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.0.0.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/4 ms
```

次に、E シリーズ サーバの内部 GE1 インターフェイスとルータの ucse スロットの /0/1 インターフェイスを使用する CIMC アクセスを設定する例を示します。Cisco IOS XE Release 3.10S 以降のリリースに適用できます。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# interface GigabitEthernet0/0/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# exit

Router(config)# interface ucse 1/0/1
Router(config-if)# ip unnumbered GigabitEthernet0/0/0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# exit

Router(config)# ucse subslot 1/0
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
Router(config-ucse)# imc access-port shared-lom gel
Router(config-ucse)# exit
```

```
Router(config)# ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse 1/0/1
Router(config)# end

Router# ping 10.0.0.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.0.0.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/4 ms
```

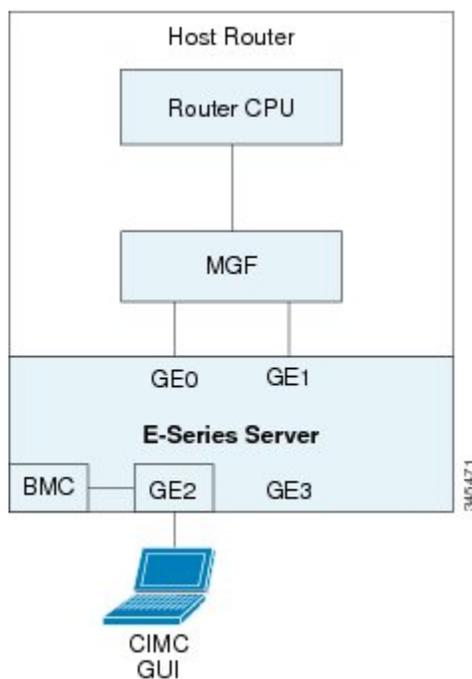
E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ

次の図と手順を確認し、その手順に従って、E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。



(注) 次の図は、E シリーズ サーバの外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

図 20 : E シリーズ サーバの外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバのスロットとポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# ucse subslot slot/subslot	E シリーズ サーバがインストールされているスロットとサブスロット用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-ucse)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホスト ルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルトゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 5	Router (config-ucse)# imc access-port {GE2 GE3} or Router (config-ucse)# imc access-port shared-lom {GE2 GE3}	E シリーズ サーバの外部 GE2 または GE3 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。E シリーズサーバおよび Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要、(41 ページ) の 5 番目と 6 番目の項目を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco IOS XE Release 3.9S をインストールした場合は、imc access-port {GE2 GE3} コマンドを使用します。 • Cisco IOS XE Release 3.10S 以降のバージョンをインストールした場合は、imc access-port shared-lom {GE2 GE3} コマンドを使用します。
ステップ 6	Router (config-ucse)# end	ホスト ルータの特権 EXEC モードに戻ります。

次に、サーバの外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセスを設定する例を示します。Cisco IOS XE Release 3.9S だけに適用できます。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal
```

```

Router(config)# ucse subslot 1/0
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.2
Router(config-ucse)# imc access-port GE2
Router(config-ucse)# no shut
Router(config-ucse)# end

```

次に、サーバの外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセスを設定する例を示します。Cisco IOS XE Release 3.10S 以降のバージョンにだけ適用できます。

```

Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# ucse subslot 1/0
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.2
Router(config-ucse)# imc access-port shared-lom GE2
Router(config-ucse)# no shut
Router(config-ucse)# end

```

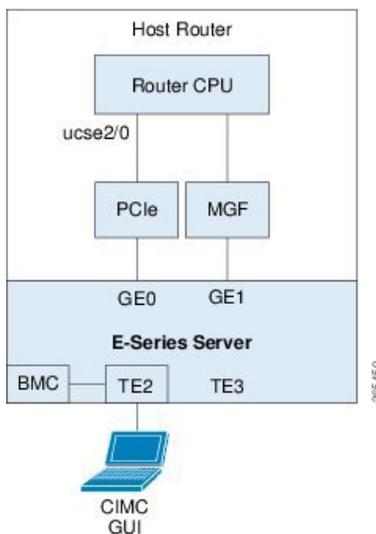
E シリーズ サーバの外部 TE2 または TE3 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ

次の図と手順を確認し、その手順に従って、E シリーズ サーバの外部 TE2 または TE3 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。



(注) 次の図は、E シリーズ サーバの外部 TE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

図 21 : E シリーズ サーバの外部 TE2 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。

- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバのスロットとポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# ucse subslot slot/subslot	E シリーズサーバがインストールされているスロットとサブスロット用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-ucse)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホストルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルトゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 5	Router (config-ucse)# imc access-port shared-lom {TE2 TE3}	E シリーズ サーバの外部 TE2 または TE3 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。
ステップ 6	Router (config-ucse)# end	ホスト ルータの特権 EXEC モードに戻ります。

次に、サーバの外部 TE2 インターフェイスによる CIMC アクセスを設定する例を示します。Cisco IOS XE Release 3.10S 以降のバージョンにだけ適用できます。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# ucse subslot 1/0
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.2
Router(config-ucse)# imc access-port shared-lom TE2
Router(config-ucse)# no shut
Router(config-ucse)# end
```

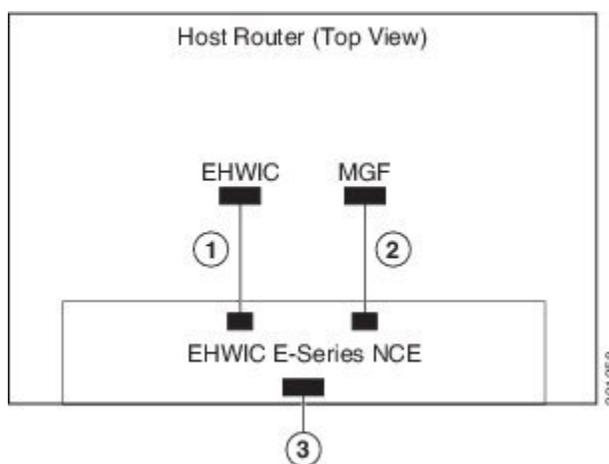
EHWIC E シリーズ NCE および Cisco ISR G2 のインターフェイスの概要



(注) このセクションは EHWIC E シリーズ NCE に適用されます。このセクションは SME シリーズ NCE には適用されません。

次の図は、EHWIC E シリーズ NCE および Cisco ISR G2 ホスト ルータのインターフェイスを示しています。

図 22 : EHWIC E シリーズ NCE および Cisco ISR G2 ホスト ルータのインターフェイス



	インターフェイス	インターフェイスの場所	説明
1	ルータの EHWIC 0/subslot/0 インターフェイス	内部インターフェイス	コンソール インターフェイスとも呼ばれます。このインターフェイスはルータの EHWIC インターフェイスを EHWIC E シリーズ NCE に接続します。EHWIC インターフェイスは、ルータと EHWIC E シリーズ NCE 間の内部レイヤ 3 GE リンクを提供します。CIMC 設定でもホストオペレーティングシステム設定でも使用できます。

2	ルータの MGF 0/subslot/1 VLAN インターフェイス	内部インターフェイス	<p>高速バックプレーン スイッチ上で CIMC にアクセスするために使用されます。MGF VLAN インターフェイスは、ルータと EHWIC E シリーズ NCE 間の内部 レイヤ 2 GE リンクを提供します。このインターフェイスは、CIMC 設定でもホスト オペレーティング システム設定でも使用できます。</p> <p>(注) このインターフェイスは Cisco 1921 ISR G2 には適用されません。</p>
3	GE2 インターフェイス	外部インターフェイス	<p>プライマリ インタフェースまたはバックアップ インターフェイスとして使用されます。このインターフェイスは、CIMC 設定でもホスト オペレーティング システム設定でも使用できます。</p>

CIMC アクセス設定オプション : EHWIC E シリーズ NCE

CIMC アクセスを設定するには、次のいずれかを実行します。

- CIMC アクセスを設定するには、次の共有 LOM インターフェイスのいずれかを使用します:
 - ルータの内部 EHWIC 0/subslot/0 コンソール インターフェイス
 - ルータの内部 MGF 0/subslot/1 VLAN インターフェイス



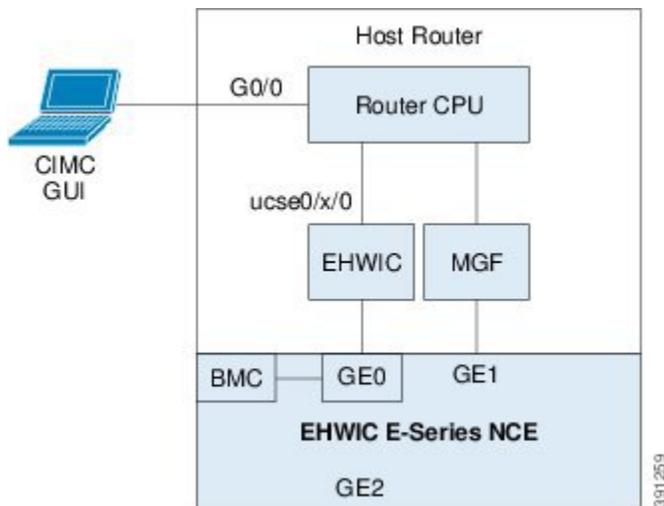
(注) このインターフェイスは Cisco ISR 1921 には適用されません。

- NCE の外部 GE2 インターフェイス
- CIMC アクセスを設定するには、Cisco IOS CLI を使用します。

ルータの内部 EHWIC 0/subslot/0 コンソール インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : EHWIC E シリーズ NCE

次の図と手順を確認し、その手順に従って、ルータの内部の EHWIC 0/subslot/0 コンソール インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。

図 23 : ルータの内部 EHWIC 0/subslot/0 コンソール インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホストルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホストルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface GigabitEthernet0/0	ギガビットイーサネット 0/0 のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	Router (config-if)# ip address <i>ip-address</i> <i>subnet-mask</i>	インターフェイスの IP アドレスおよびサブネットマスクを指定します。
ステップ 5	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 6	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	Router (config)# interface <i>ucse 0/subslot/port</i>	NCE がインストールされているサブスロットとポート用のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	Router (config-if)# ip unnumbered <i>type number</i>	<p>(任意) ip unnumbered コマンドは、インターフェイスに明示的な IP アドレスを割り当てずに、そのインターフェイス上での IP 処理をイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスのタイプ。 • <i>number</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスおよびサブインターフェイスの番号。 <p>(注) アンナンバード インターフェイスは、一意である必要があります。番号付けされていない別のインターフェイスは指定できません。</p> <p>ip unnumbered コマンドを使用する場合は、ip route コマンドを使用してスタティック ルートを作成する必要があります。</p> <p>注意 ip unnumbered および ipv6 unnumbered コマンドでは、デバイス間のポイントツーポイント インターフェイスが作成されます。ブロードキャストはサポートされません。</p>
ステップ 10	Router (config-if)# imc ip address <i>cimc-ip-address</i> <i>subnet-mask</i> default-gateway <i>cimc-gateway-ip-address</i>	<p>CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホスト ルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 11	Router(config-if)# imc access-port shared-lom console	ルータの EHWIC 0/slot/0 (コンソール) インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 EHWIC E シリーズ NCE および Cisco ISR G2 のインターフェイスの概要 (57 ページ) の 1 番目の項目を参照してください。
ステップ 12	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 13	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 14	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 15	Router (config)# ip route cimc-ip-address subnet-mask ucse 0/subslot/port	スタティック ルートを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subslot/port</i> : NCE がインストールされるサブスロットとポート。
ステップ 16	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 17	Router# ping cimc-ip-address	ルータの内部 EHWIC 0/subslot/0 コンソール インターフェイスを経由したルータから CIMC への接続を確認します。

次にサーバの内部 EHWIC 0/subslot/0 コンソール インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する例を示します。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# interface GigabitEthernet0/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end

Router# configure terminal
Router(config)# interface ucse 0/3/0
```

```

Router(config)# ip unnumbered GigabitEthernet0/0
Router(config-if)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
Router(config-if)# imc access-port shared-lom console
Router(config-if)# no shut
Router(config)# end

Router# configure terminal
Router(config)# ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse 0/3/0
Router(config)# end

Router# ping 10.0.0.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.0.0.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/4 ms

```

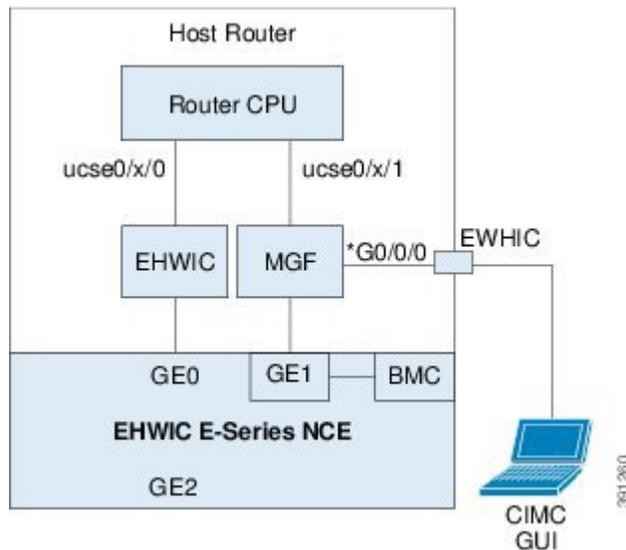
ルータの内部 MGF 0/subslot/1 VLAN インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : EHWIC E シリーズ NCE



重要 この手順は、Cisco 1921 ISR G2 には適用されません。

次の図と手順を確認し、その手順に従って、ルータの内部の MGF 0/subslot/1 VLAN インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。

図 24: ルータの内部 MGF 0/subslot/1 VLAN インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# show vlan-switch	VLAN を表示します。
ステップ 3	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config)# interface vlan vlan-number	指定した VLAN 番号のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	Router (config-if)# ip address vlan-ip-address subnet-mask	VLAN の IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>vlan-ip-address</i> : VLAN の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスにアペンドするサブ ネットマスク。
ステップ 6	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	Router (config)# interface ucse 0/subslot/0	NCEがインストールされているサブスロットとポート用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	Router (config-if)# imc ip address cimc-ip-address subnet-maskdefault-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブ ネットマスクであり、ホスト ルータと同じサブ ネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 10	Router(config-if)# imc access-port shared-lom GE1	ルータの内部 0/subslot/1 MGF VLAN インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。 EHWIC E シリーズ NCE および Cisco ISR G2 のインターフェイスの概要, (57 ページ) の 2 番目の項目を参照してください。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 12	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 13	Router# configure terminal	ホストルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 14	Router (config)# interface ucse 0/subslot1	NCEがインストールされているサブスロットとポート用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 15	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 16	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 17	Router# ping cimc-ip-address	ルータの内部の MGF 0/subslot/1 VLAN インターフェイスを経由したルータから CIMC への接続を確認します。

次にルータの内部 MGF 0/subslot/1 VLAN インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する例を示します。

```
Router> enable
Router> password
Router> show vlan-switch
VLAN Name                Status      Ports
-----
1    default                active     Gi0/0/0, Gi0/0/1, Gi0/0/2
                                           Gi0/0/3, uc0/3/1

Router# configure terminal
Router(config)# interface vlan 1
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# end

Router# configure terminal
Router(config)# interface ucse 0/3/0
Router(config-if)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
Router(config-if)# imc access-port shared-lom GE1
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end

Router# configure terminal
Router(config)# interface ucse 0/3/1
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end

Router# ping 10.0.0.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.0.0.2, timeout is 2 seconds:
```

```
!!!!  
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/4 ms
```

EHWIC E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



重要

EHWIC E シリーズ NCE または NIM E シリーズ NCE で外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定している場合、サーバのリブート中に CIMC との接続が失われることがあります。これは想定されている動作です。リブート中に CIMC との接続を維持する必要がある場合は、他のネットワーク インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定することをお勧めします。[CIMC アクセス設定オプション : EHWIC E シリーズ NCE, \(58 ページ\)](#) を参照してください。

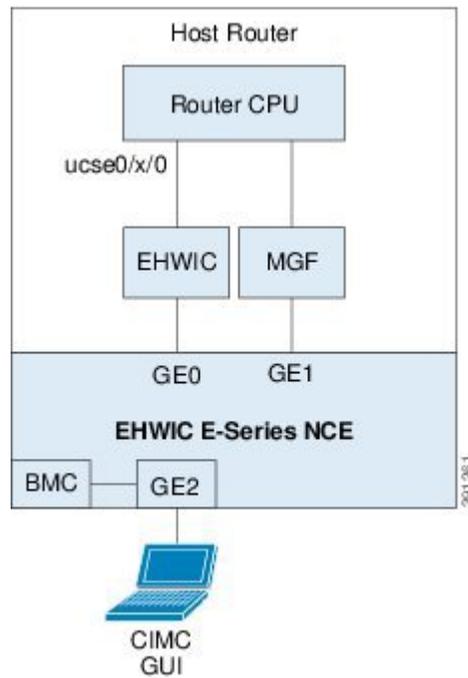
外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する場合は、`spanning-tree portfast` コマンドを使用することをお勧めします。詳細については、『*Release Notes for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine*』の「CSCup50049 caveat」を参照してください。

次の図と手順を確認し、その手順に従って、EHWIC E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。



(注) 次の図は、EHWIC E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

図 25: EHWIC E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	Router (config)# interface ucse 0/subslot/port	NCEがインストールされているサブスロットとポート用の ucse インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	Router (config-if)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホストルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルトゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 5	Router(config-if)# imc access-port shared-lom GE2	EHWIC E シリーズ NCEの外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。 EHWIC E シリーズ NCE および Cisco ISR G2 のインターフェイスの概要 , (57 ページ) の 3 番目の項目を参照してください。
ステップ 6	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 7	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了します。

次の例は、EHWIC E シリーズ NCEの外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

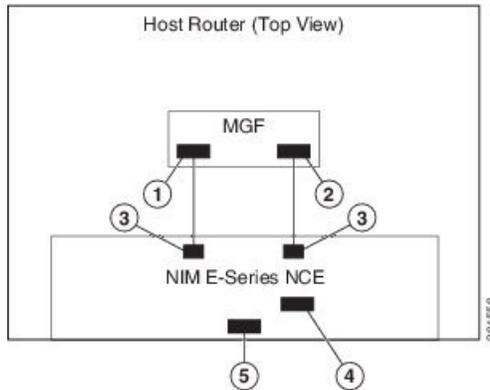
```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# interface ucse 0/3/0
Router(config-if)# imc ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.2
Router(config-if)# imc access-port shared-lom GE2
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

NIM E シリーズ NCE および Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要

次の図は、NIM E シリーズ NCE および Cisco ISR 4000 シリーズ ホスト ルータのインターフェイスを示します。

図 26 : NIM E シリーズ NCE のインターフェイス



	インターフェイス	インターフェイスの場所	説明
1	ルータの ucse 0/subslot/0 インターフェイス	内部インターフェイス	<p>高速バックプレーン スイッチ上で CIMC にアクセスするために使用されます。MGF インターフェイスは、ルータと NIM E シリーズ NCE 間の内部レイヤ 2 GE リンクを提供します。このインターフェイスは、CIMC 設定でもホストオペレーティングシステム設定でも使用できます。</p> <p>(注) このインターフェイスは、NIM E シリーズ NCE の内部 GE0 インターフェイスにアクセスするために使用されます。</p>

2	ルータの <code>ucse 0/subslot/1</code> インターフェイス	内部インターフェイス	高速バックプレーンスイッチ上で CIMC にアクセスするために使用されます。MGF インターフェイスは、ルータと NIM E シリーズ NCE 間の内部レイヤ 2 GE リンクを提供します。このインターフェイスは、CIMC 設定でもホスト オペレーティングシステム設定でも使用できます。 (注) このインターフェイスは、NIM E シリーズ NCE の内部 GE1 インターフェイスにアクセスするために使用されます。
3	GE0 および GE1 インターフェイス	内部インターフェイス	NIM E シリーズ NCE の内部 NIC インターフェイス。
4	管理 (専用) インターフェイス	外部インターフェイス	CIMC の設定と管理に使用されます。
5	GE2 インターフェイス	外部インターフェイス	CIMC 設定でもホスト オペレーティングシステム設定でも使用できます。

CIMC アクセス設定オプション : NIM E シリーズ NCE

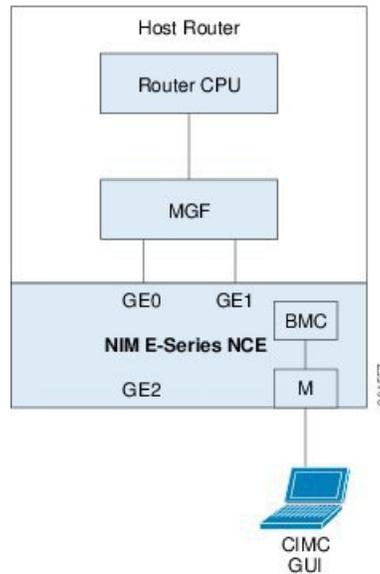
リモート ユーザであるかローカル ユーザであるかに応じ、次のいずれかの操作を実行して CIMC アクセスを設定します。

- リモート ユーザの場合は、Cisco IOS CLI を使用して、次のいずれかのインターフェイスによって使用する CIMC アクセスを設定します。
 - CIMC 管理 (専用) インターフェイス
 - NIM E シリーズ NCE の内部 GE0 およびルータの `ucse 0/subslot/0` インターフェイス
 - NIM E シリーズ NCE の内部 GE1 インターフェイスおよびルータの `ucse 0/subslot/1` インターフェイス
 - NIM E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイス
- ローカル ユーザの場合は、CIMC Configuration Utility または Cisco IOS CLI (前述) を使用して CIMC アクセスを設定します。

NIM E シリーズ NCE の外部管理（専用）インターフェイスによる CIMC アクセスの設定：Cisco ISR 4000 シリーズ

次の図と手順を確認し、その手順に従って、NIM E シリーズ NCE の外部管理（専用）インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。

図 27: NIM E シリーズ NCE の外部管理（専用）インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	Router (config)# ucse subslot slot/subslot	NIM E シリーズ NCE がインストールされているスロットとサブスロット用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-ucse)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホストルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルトゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 5	Router (config-ucse)# imc access-port dedicated	サーバの外部管理（専用）インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。 NIM E シリーズ NCE および Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要 、(68 ページ) の 4 番目の項目を参照してください。
ステップ 6	Router (config-ucse)# end	ホストルータの特権 EXEC モードに戻ります。

次の例は、サーバの外部専用インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# ucse subslot 0/1
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.2
Router(config-ucse)# imc access-port dedicated
Router(config-ucse)# end
```

NIM E シリーズ NCE の NIC インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ

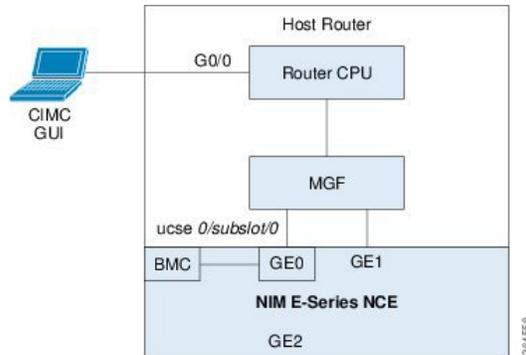
CIMC にアクセスするには、次の NIM E シリーズ NCE の NIC インターフェイスのいずれかを使用します。

- NIM E シリーズ NCE の内部 GE0 およびルータの **ucse 0/subslot/0** インターフェイス
- NIM E シリーズ NCE の内部 GE1 インターフェイスおよびルータの **ucse 0/subslot/1** インターフェイス
- NIM E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイス

NIM E シリーズ NCE の内部 GE0 インターフェイスと Cisco ISR 4000 シリーズ ucse 0/subslot/0 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定

次の図と手順を確認し、その手順に従って、NIM E シリーズ NCE の内部 GE0 インターフェイスとルータの ucse 0/subslot/0 インターフェイスによる CIMC アクセスを設定します。

図 28 : NIM E シリーズ NCE の内部 GE0 インターフェイスとルータの ucse 0/subslot/0 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホストルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホストルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface GigabitEthernet 0/0/0	ギガビットイーサネット 0/0/0 のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-if)# ip address ip-address subnet-mask	インターフェイスの IP アドレスおよびサブネットマスクを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 6	Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	Router (config)# interface ucse 0/subslot0	NIM E シリーズ NCE がインストールされているスロット、サブスロット、およびポート用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	Router (config-if)# ip unnumbered type number	<p>(任意) ip unnumbered コマンドは、インターフェイスに明示的な IP アドレスを割り当てずに、そのインターフェイス上での IP 処理をイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • type : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスのタイプ。 • number : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスおよびサブインターフェイスの番号。 <p>(注) アンナンバードインターフェイスは、一意である必要があります。番号付けされていない別のインターフェイスは指定できません。 ip unnumbered コマンドを使用する場合は、ip route コマンドを使用してスタティックルートを作成する必要があります。</p> <p>注意 ip unnumbered および ipv6 unnumbered コマンドでは、デバイス間のポイントツーポイントインターフェイスが作成されます。ブロードキャストはサポートされません。</p>
ステップ 9	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 10	Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 11	Router (config)# ucse subslot slot/subslot	NIM E シリーズ NCE がインストールされているスロットとサブスロット用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	Router (config-ucse)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	<p>CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • cimc-ip-address : CIMC の IP アドレス。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホストルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルトゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 13	Router (config-ucse)# imc access-port shared-lom console	NIM E シリーズ NCE の内部 GE0 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。NIM E シリーズ NCE および Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要、(68 ページ) の 3 番目の項目を参照してください。
ステップ 14	Router (config-ucse)# exit	ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 15	Router (config)# ip route cimc-ip-address subnet-mask ucse slot/subslot/port	<p>スタティック ルートを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>slot/subslot/port</i> : NIM E シリーズ NCE がインストールされるスロット、サブスロット、およびポート。
ステップ 16	Router (config)# end	設定モードを終了します。
ステップ 17	Router# ping cimc-ip-address	ucse 0/subslot/0 インターフェイスを経由するルータから CIMC への接続を確認します。

次の例は、NIM E シリーズ NCE の内部コンソールインターフェイスとルータの ucse 0/subslot/0 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router> password
Router# configure terminal

Router (config)# interface GigabitEthernet0/0/0
Router (config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router (config-if)# no shut
Router (config-if)# exit

Router (config)# interface ucse 0/1/0
Router (config-if)# ip unnumbered GigabitEthernet0/0/0
Router (config-if)# no shut
Router (config-if)# exit

Router (config)# ucse subslot 0/1
Router (config-ucse)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
Router (config-ucse)# imc access-port shared-lom console
```

```

Router(config-ucse)# exit

Router(config)# ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse 0/1/0
Router(config)# end

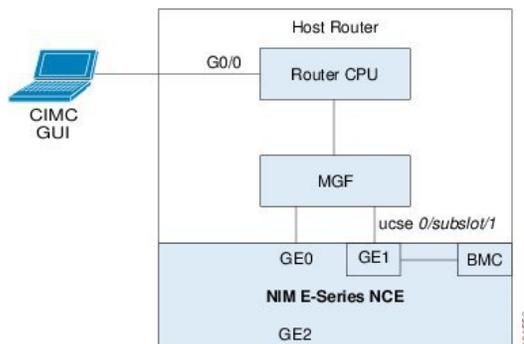
Router# ping 10.0.0.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.0.0.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/4 ms

```

NIM E シリーズ NCE の内部 GE1 インターフェイスと Cisco ISR 4000 シリーズ ucse 0/subslot/1 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定

次の図と手順を確認し、その手順に従って、NIM E シリーズ NCE の内部 GE1 インターフェイスとルータの ucse 0/subslot/1 インターフェイスによる CIMC アクセスを設定します。

図 29: NIM E シリーズ NCE の内部 GE1 インターフェイスとルータの ucse 0/subslot/1 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホストルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface GigabitEthernet 0/0/0	ギガビット イーサネット 0/0/0 のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-if)# ip address ip-address subnet-mask	インターフェイスの IP アドレスおよびサブネット マスクを指定します。
ステップ 5	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 6	Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	Router (config)# interface ucse 0/subslot1	NIM E シリーズ NCE がインストールされているスロット、サブスロット、およびポート用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	Router (config-if)# ip unnumbered type number	<p>(任意) ip unnumbered コマンドは、インターフェイスに明示的な IP アドレスを割り当てずに、そのインターフェイス上での IP 処理をイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスのタイプ。 • <i>number</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスおよびサブインターフェイスの番号。 <p>(注) アンナンバード インターフェイスは、一意である必要があります。番号付けされていない別のインターフェイスは指定できません。 ip unnumbered コマンドを使用する場合は、ip route コマンドを使用してスタティック ルートを作成する必要があります。</p> <p>注意 ip unnumbered および ipv6 unnumbered コマンドでは、デバイス間のポイントツーポイント インターフェイスが作成されます。ブロードキャストはサポートされません。</p>
ステップ 9	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 11	Router (config)# ucse subslot slot/subslot	NIM E シリーズ NCE がインストールされているスロットとサブスロット用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	Router (config-ucse)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホストルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルトゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 13	Router (config-ucse)# imc access-port shared-lom ge1	NIM E シリーズ NCE の内部 GE1 インターフェイスによる CIMC アクセスを設定します。 NIM E シリーズ NCE および Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要 、(68 ページ) の 3 番目の項目を参照してください。
ステップ 14	Router (config-ucse)# exit	ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 15	Router (config)# ip route cimc-ip-address subnet-mask ucse slot/subslot/port	スタティック ルートを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>slot/subslot/port</i> : NIM E シリーズ NCE がインストールされるスロット、サブスロット、およびポート。
ステップ 16	Router (config)# end	設定モードを終了します。
ステップ 17	Router# ping cimc-ip-address	ucse 0/subslot/1 インターフェイスを経由するルータから CIMC への接続を確認します。

次の例は、NIM E シリーズ NCE の内部 GE1 インターフェイスとルータの **ucse 0/subslot/1** インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

```
Router> enable
```

```

Router> password
Router# configure terminal

Router(config)# interface GigabitEthernet0/0/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# exit

Router(config)# interface ucse 0/1/1
Router(config-if)# ip unnumbered GigabitEthernet0/0/0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# exit

Router(config)# ucse subslot 0/1
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
Router(config-ucse)# imc access-port shared-lom gel
Router(config-ucse)# exit

Router(config)# ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse 0/1/1
Router(config)# end

Router# ping 10.0.0.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.0.0.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/4 ms

```

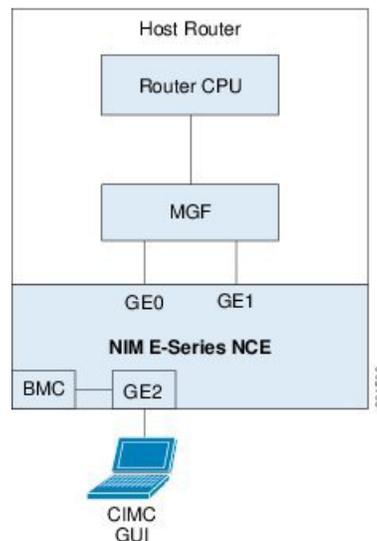
NIM E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定 : Cisco ISR 4000 シリーズ

次の図と手順を確認し、その手順に従って、NIM E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。



(注) 次の図は、NIM E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

図 30 : NIM E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスによる CIMC アクセスの設定



はじめる前に

次の情報について確認してください。

- CIMC の IP アドレス。
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード。
- E シリーズ サーバまたは NCE のスロットまたはサブスロット番号およびポート番号。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# ucse subslot slot/subslot	NIM E シリーズ NCE がインストールされているスロットとサブスロット用の ucse インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-ucse)# imc ip address cimc-ip-address subnet-mask default-gateway cimc-gateway-ip-address	CIMC の IP アドレスと、CIMC が使用する必要があるデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>cimc-ip-address</i> : CIMC の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに付加するサブネットマスクであり、ホスト ルータと同じサブネットに属する必要があります。 • <i>cimc-gateway-ip-address</i> : デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
ステップ 5	Router (config-ucse)# imc access-port shared-lom {GE2}	NIM E シリーズ NCE の外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定します。NIM E シリーズ NCE および Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイスの概要、(68 ページ) の 5 番目と 6 番目の項目を参照してください。
ステップ 6	Router (config-ucse)# end	ホスト ルータの特権 EXEC モードに戻ります。

次の例は、サーバの外部 GE2 インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router> password
```

```
Router# configure terminal

Router(config)# ucse subslot 0/1
Router(config-ucse)# imc ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.2
Router(config-ucse)# imc access-port shared-lom GE2
Router(config-ucse)# no shut
Router(config-ucse)# end
```

CIMC 設定ユーティリティによる CIMC アクセスの設定



(注) この手順はE シリーズ サーバおよび SME シリーズ NCE に適用されます。この手順は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。

ローカル ユーザの場合、Cisco IOS CLI または CIMC Configuration Utility を使用して CIMC アクセスを設定します。



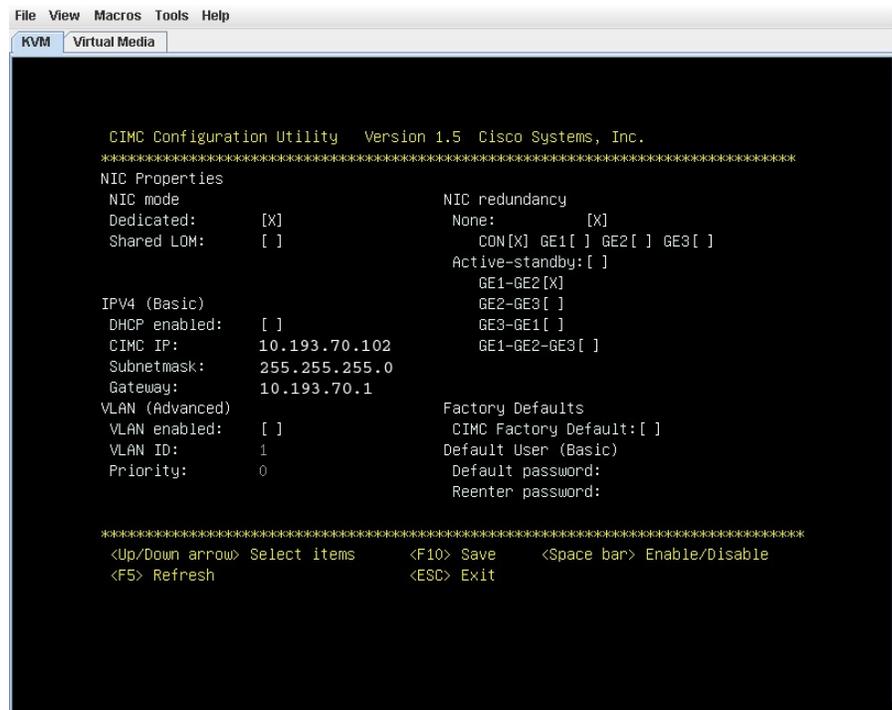
(注) CIMC Configuration Utility を使用して CIMC アクセスを設定した場合、設定は Cisco IOS 設定として反映されません。つまり、Cisco IOS から `show running-config` コマンドを実行した場合、CIMC Configuration Utility を使用して行った変更は反映されません。

手順

- ステップ 1 ルータの電源を投入します。
- ステップ 2 キーボードとモニタを E シリーズ サーバの前面パネルに接続します。
- ステップ 3 電源ボタンを押して、E シリーズ サーバをブートします。ブート中に、F8 の押下を求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。
- ステップ 4 プロンプトが表示されたら、F8 を押します。

[CIMC Configuration Utility] が表示されます。

図 31 : *CIMC Configuration Utility*



- ステップ 5** CIMC Configuration Utility を使用して NIC モードと NIC の冗長性を設定し、DHCP をイネーブルにするか、スタティックなネットワーク設定を指定するかを選択します。
- [NIC mode] 領域から、CIMC へのアクセスに使用するポートを選択します。次のオプションがあります。
 - [Dedicated] : CIMC へのアクセスに 10/100 IMC ポートを使用します。
 - [Shared LOM] (デフォルト) : CIMC へのアクセスに 4 つの 1 Gb イーサネット ポートを使用します。これが出荷時のデフォルト設定です。
 - [NIC redundancy] 領域で、NIC の冗長性を選択します。次のオプションがあります。
 - [None] : イーサネット ポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。
 - [Active-standby] : アクティブなイーサネット ポートに障害が発生した場合、スタンバイポートにトラフィックがフェールオーバーします。これが出荷時のデフォルト設定です。
 - [IPV4 (Basic)] 領域で、次のいずれかの操作を実行します。
 - [DHCP Enabled] : ダイナミックなネットワーク設定のために DHCP をイネーブルにするには、このオプションを選択します。DHCP をイネーブルにするには、DHCP サーバにこの

サーバの MAC アドレスの範囲をあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスはサーバ背面のラベルに印字されています。このサーバでは、CIMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のもので、

- [CIMC IP] : CIMC の IP アドレス。

[Subnet Mask] : CIMC の IP アドレスに付加するサブネット マスクを入力します。ホスト ルータと同じサブネットに属する必要があります。

[Gateway] : デフォルト ゲートウェイ ルータの IP アドレス。

- d) (任意) [VLAN (Advanced)] 領域で、VLAN 設定を指定します。
- e) F5 を押してページを更新します。新しい設定が表示されます。ページの更新には、約 45 秒かかります。
- f) F10 を押して設定を保存し、サーバをリブートします。
DHCP のイネーブル化を選択した場合、動的に割り当てられた IP アドレスと MAC アドレスがブートアップ時にコンソール画面に表示されます。

ステップ 6 ステップ 5 のサブステップ a で [NIC Mode] 設定に選択したポートを使用して、LAN から E シリーズサーバにイーサネット ケーブルを接続します。

ステップ 7 Web ブラウザで、CIMC にアクセスするために設定した IP アドレスを入力します。CIMC IP アドレスは、ステップ 5 のサブステップ c で指定した設定に基づいています (スタティックな IP アドレスまたは DHCP サーバから割り当てられた IP アドレス)。
CIMC のログインに使用するデフォルトのユーザ名は admin、デフォルトのパスワードは password です。

ステップ 8 CIMC GUI または CIMC CLI を使用してサーバの管理とモニタを行います。
GUI Configuration Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine または *CLI Configuration Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine* を参照してください。

スクリプトファイルによるネットワークのスタティック設定の定義

ここでは、スクリプトファイルを使った自動構成処理により、複数サーバのスタティックネットワーク設定の指定を行う手順について説明します。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを使って、`network.cfg` という名前のファイルを作成します。
- ステップ 2** 設定するタグのみを使用して、次の形式で `network.cfg` のコンテンツを作成します。

```
dhcp-enabled:  
v4-addr:  
v4-netmask:  
v4-gateway:  
vlan-enabled:  
vlan-id:  
vlan-priority:  
password:  
mode:  
redundancy:
```

たとえば、DHCP をディセーブルにするには、IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、およびユーザ パスワードを設定します。以下は、使用できるサンプル値です。

```
dhcp-enabled: 0  
v4-addr: 10.193.70.102  
v4-netmask: 255.255.255.0  
v4-gateway: 10.193.70.1  
password: nonpasswd  
mode:  
redundancy:
```

- ステップ 3** テキスト エディタを使用して、`startup.nsh` という名前のファイルを作成し、次の内容を設定します。
- ```
fs0:
cimconfig
```
- ステップ 4** `network.cfg` ファイルと `startup.nsh` ファイルを USB メモリにコピーします。
- ステップ 5** USB メモリをサーバの USB ポートに接続します。
- ステップ 6** 電源ボタンを押して放し、サーバをブートします。
- ステップ 7** ブート処理を見て、BIOS ブート マネージャへの切り替えメッセージが表示されたら F6 キーを押します。
- ステップ 8** EFI をブート デバイスに選択し、Enter を押します。  
サーバの電源が一度オフになった後にもう一度オンになり、構成ユーティリティが起動して `startup.nsh` ファイルが実行されます。エラーがある場合は、画面と `errors.txt` ファイルに出力されます。
- ステップ 9** USB メモリを取り外し、`network.cfg` ファイルを次の IP アドレスに変更して、次に設定するサーバに USB メモリをセットします。
- ステップ 10** サーバに IP アドレスを割り当てた後、そのアドレスを使用してサービス プロセッサの GUI または CLI 管理システムにアクセスできます。

## 次の作業

必要に応じて、次のいずれかを実行します。

- EシリーズサーバまたはNCEオプション1（オペレーティングシステムまたはハイパーバイザが事前にインストールされていないEシリーズサーバまたはNCE）を購入した場合は、CIMC GUIまたはCIMC CLIにログインしてCIMCにアクセスします。[管理ファームウェアのアクセス](#)、[（85 ページ）](#)を参照してください。
- EシリーズサーバまたはNCEオプション2（Microsoft Windows Serverが事前にインストールされているEシリーズサーバまたはNCE）、またはオプション3（VMware vSphere Hypervisorが事前にインストールされているEシリーズサーバまたはNCE）を購入した場合は、ルータとEシリーズサーバまたはNCE間の内部接続を設定します。次のいずれかを実行します。
  - アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にしない場合、サーバのホスト オペレーティングシステムを使用してEシリーズサーバまたはNCEの外部インターフェイスを設定します。
  - アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にする場合、Cisco IOS CLIを使用して、ルータとEシリーズサーバまたはNCE間の内部接続を設定します。[ルータとEシリーズサーバまたはNCE間の接続の設定](#)、[（123 ページ）](#)を参照してください。



# 第 5 章

## 管理ファームウェアのアクセス

---

この章は、次の項で構成されています。

- [CIMC の概要, 85 ページ](#)
- [CIMC GUI へのログイン, 87 ページ](#)
- [CIMC ホーム ページ, 88 ページ](#)
- [次の作業, 88 ページ](#)

### CIMC の概要

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) は、E シリーズ サーバおよび NCE 用の管理サービスです。CIMC はサーバ内で動作します。Web ベースの GUI または SSH ベースの CLI を使用して、サーバにアクセスし、サーバを設定、管理、モニタできます。

CIMC を使用すると次のサーバ管理タスクを実行できます。

- サーバの電源のオン、電源のオフ、電源再投入、リセット、およびシャットダウンを行う
- サーバのブート順を設定する
- RAID レベルを管理する



---

(注) RAID 機能は E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE に適用されます。RAID 機能は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。

---

- サーバのプロパティとセンサーを表示する
- リモート プレゼンスを管理する
- ローカル ユーザ アカウントを作成して管理し、Active Directory によるリモート ユーザの認証をイネーブルにする

- NIC プロパティ、IPv4、VLAN、ネットワーク セキュリティなど、ネットワーク関連の設定を行う
- HTTP、SSH、IPMI over LAN、SNMP などのコミュニケーション サービスを設定する
- 証明書を管理する
- プラットフォーム イベント フィルタを設定する
- CIMC ファームウェアを更新する
- BIOS ファームウェアを更新する
- 内部リポジトリからホスト イメージをインストールする
- 障害、アラーム、およびサーバのステータスをモニタする
- サーバ障害の発生時にテクニカル サポート データを収集する

ほとんどすべてのタスクは、GUI インターフェイスと CLI インターフェイスのいずれでも実行できます。また、一方のインターフェイスで実行されたタスクの結果は、もう一方のインターフェイスにも表示されます。ただし、以下のことは実行できません。

- CIMC GUI を使用して CIMC CLI を呼び出すことはできない
- CIMC CLI で呼び出したコマンドを CIMC GUI に表示することはできない
- CIMC GUI から CIMC CLI 出力を生成することはできない

## CIMC GUI

CIMC GUI は、E シリーズ サーバおよびNCE用の Web ベース管理インターフェイスです。CIMC GUI を起動して、次の最小要件を満たしている任意のリモート ホストからサーバを管理できます。

- Java 1.6 以降
- HTTP および HTTPS 対応
- Adobe Flash Player 10 以降

## CIMC CLI

CIMC CLI は、E シリーズサーバおよびNCE用のコマンドライン管理インターフェイスです。CIMC CLI は、次の方法で起動できます。

- シリアル ポートを使用する。
- SSH を介してネットワーク上で。
- ルータから。必要に応じて次のコマンドのいずれかを使用します。

- ° `ucse slot session imc` : Cisco ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE で使用。Cisco IOS Release 15.2(4)M ~15.4(2)T で適用可能。
- ° `ucse subslot slot/subslot session imc` : Cisco ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバ、SM E シリーズ NCE、および EHWIC E シリーズ NCE で使用。Cisco IOS Release 15.4(3)M で適用可能。
- ° `hw-module subslot slot/subslot session imc` : Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズ サーバ および NIM E シリーズ NCE で使用。

CLI ユーザには、`admin`、`user`（コントロールはできるが設定はできない）、および `read-only` のいずれかのロールが与えられます。

## CIMC GUI へのログイン

### はじめる前に

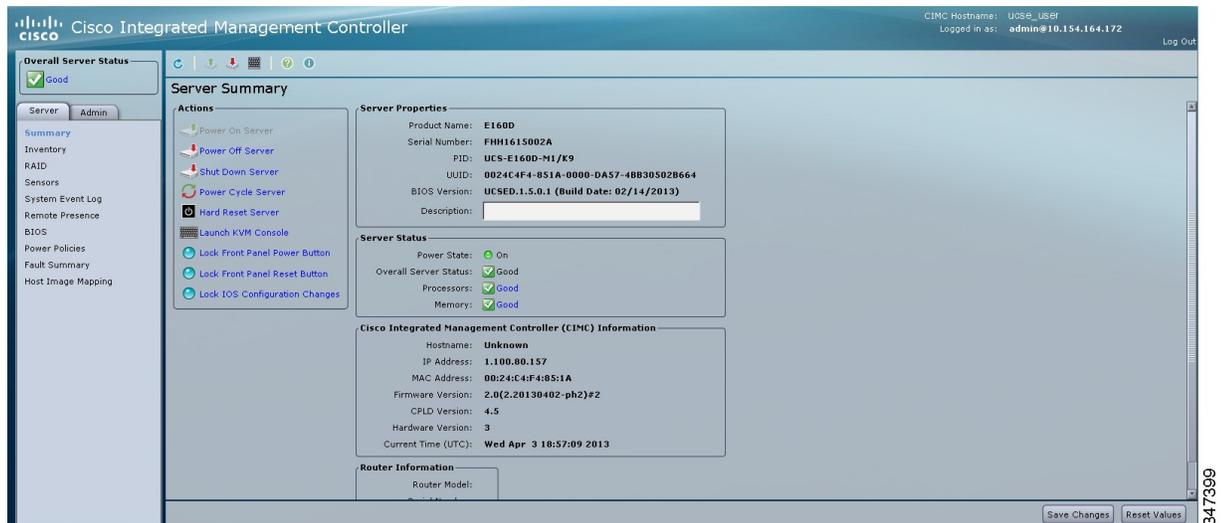
- CIMC にアクセスするための IP アドレスが設定済みであることを確認します。
- Adobe Flash Player 10 以降がインストールされていない場合は、ローカルマシンにインストールします。

### 手順

- 
- ステップ 1** 初期セットアップ時に CIMC へのアクセス用に設定した IP アドレスを Web ブラウザに入力します。
- ステップ 2** セキュリティ ダイアログボックスが表示された場合は、次の操作を実行します。
- a) (任意) チェックボックスをオンにして、シスコからのすべてのコンテンツを受け入れます。
  - b) [Yes] をクリックして証明書を受け入れ、続行します。
- ステップ 3** ログイン ウィンドウで、ユーザ名とパスワードを入力します。
- ヒント 未設定のシステムに初めてログインする場合は、ユーザ名に **admin**、パスワードに **password** を使用します。
- ステップ 4** [Log In] をクリックします。  
[Change Password] ダイアログボックスが表示されます。
- (注) [Change Password] ダイアログボックスは、CIMC に初めてログインしたときのみ表示されます。それ以降はリブートしても表示されません。
- ステップ 5** [New Password] フィールドに、新しいパスワードを入力します。
- ステップ 6** 確認のために [Confirm Password] フィールドにもう一度パスワードを入力します。
- ステップ 7** [Save Changes] をクリックします。  
[Server Summary] ページが表示されます。このページが CIMC のホーム ページです。[CIMC ホーム ページ](#)、[\(88 ページ\)](#) を参照してください。
-

## CIMC ホーム ページ

図 32 : CIMC ホーム ページ



## 次の作業

E シリーズ サーバ オプション 1 (オペレーティング システムまたはハイパーバイザが事前にインストールされていない E シリーズ サーバ) を購入した場合は、RAID を設定します。RAID を使用したストレージの管理、(89 ページ) を参照してください。



(注) RAID 機能は E シリーズ サーバ および SME シリーズ NCE に適用されます。RAID 機能は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。



## 第 6 章

# RAID を使用したストレージの管理



(注) E シリーズ サーバ オプション 1 (オペレーティング システムまたはハイパーバイザが事前にインストールされていない E シリーズ サーバ) を購入し、ローカルの Redundant Array of Inexpensive Disks (RAID) にデータ ファイルを保存する場合、RAID を設定する必要があります。



**重要** RAID 機能は E シリーズ サーバ および SME シリーズ NCE に適用されます。RAID 機能は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。

この章は、次の項で構成されています。

- [RAID の設定, 89 ページ](#)

## RAID の設定

E シリーズ サーバのデータ ファイルは、ローカルの Redundant Array of Inexpensive Disks (RAID) に保存することもできます。次の RAID レベルがサポートされています。

- シングルワイドの E シリーズ サーバでは、RAID 0 と RAID 1 レベルがサポートされます。
- ダブルワイドの E シリーズ サーバでは、RAID 0、RAID 1、および RAID 5 レベルがサポートされます。
- PCIe オプションを搭載したダブルワイドの E シリーズ サーバでは、RAID 0 と RAID 1 レベルがサポートされます。



- (注) Cisco UCS M1 および M2 サーバでは、KVM コンソールからアクセス可能な CIMC GUI または WebBIOS を使用し、RAID を設定します。Cisco UCS M3 サーバでは、KVM コンソールからアクセス可能な CIMC GUI または MegaRAID コントローラ を使用し、RAID を設定します。

## CIMC GUI を使用した RAID の設定



- (注) RAID 機能は E シリーズ サーバ および SME シリーズ NCE に適用されます。RAID 機能は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。

仮想ドライブの RAID レベル、ストリップサイズ、ホストアクセス権限、ドライブキャッシング、および初期化パラメータを設定するには、次の手順を実行します。この手順を使用して、ドライブをホットスペアドライブに指定したり、ドライブをブート可能にしたりすることもできます。

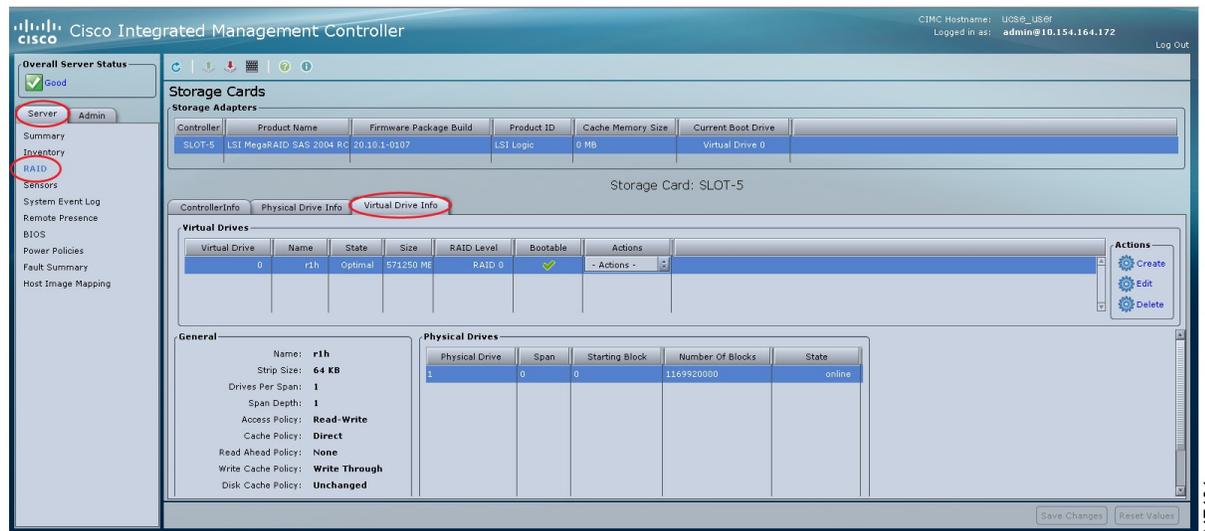
### 手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Server] タブの [RAID] をクリックします。次のいずれかを実行します。
  - [Configure Virtual Drive] ダイアログ ボックスが表示されない場合は、次の手順に進みます。

- [Configure Virtual Drive] ダイアログ ボックスが表示され、仮想ドライブが設定されていない場合は、ステップ 5 に示すようにフィールドを入力します。

ステップ 3 [Storage Card] 領域のタブ メニューで、[Virtual Drive Info] タブをクリックします。

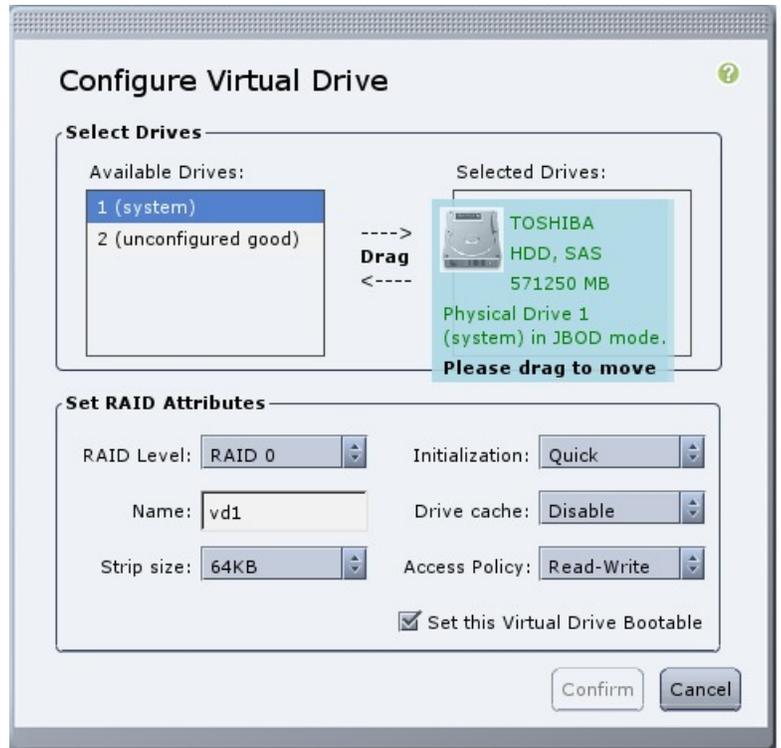
図 33 : [Virtual Drive Info] タブ



ステップ 4 [Virtual Drive Info] タブの [Actions] 領域で、[Create] をクリックします。

[Configure Virtual Drive] ダイアログボックスが表示されます。

図 34 : [Configure Virtual Drive] ダイアログボックス



ステップ 5 必要に応じて次のフィールドに値を入力します。

| 名前                      | 説明                                                                      |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| [Available Drives] テーブル | RAID 設定で使用できるドライブを表示します。<br>(注) ドライブを移動するには、ドライブをクリックして適切なテーブルにドラッグします。 |
| [Selected Drives] テーブル  | RAID 設定に選択されたドライブを表示します。<br>(注) ドライブを移動するには、ドライブをクリックして適切なテーブルにドラッグします。 |

| 名前                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [RAID Level] ドロップダウンリスト     | <p>RAID レベルのオプション。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [RAID 0] : ブロック ストライピング。</li> <li>• [RAID 1] : ミラーリング。</li> <li>• [RAID 5] : パリティを使用したブロック ストライピング。</li> </ul> <p>(注) シングル幅の E シリーズ サーバでは、RAID 0 および RAID 1 レベルがサポートされます。ダブル幅の E シリーズ サーバでは、RAID 0、RAID 1、および RAID 5 レベルがサポートされます。PCIe オプションを搭載したダブル幅の E シリーズ サーバは、RAID 0 および RAID 1 レベルをサポートします。</p>                                                        |
| [Name] フィールド                | <p>仮想ドライブの名前。</p> <p>最大 15 文字を入力します。数字、大文字、および小文字を使用できます。特殊文字はサポートされていません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [Strip Size] ドロップダウンリスト     | <p>ストリップ サイズのオプション。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 64 KB</li> <li>• 32KB</li> <li>• 16 KB</li> <li>• 8 KB</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [Initialization] ドロップダウンリスト | <p>コントローラによるドライブの初期化方法。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Quick] : コントローラはただちにドライブを初期設定します。これがデフォルトであり、推奨オプションです。</li> <li>• [Full] : コントローラは新しい設定を完全に初期化します。</li> </ul> <p>(注) ドライブのサイズによっては、[Full] 初期化は完了するまで数時間かかる場合があります。進行状況を確認するには、[General] 領域の [Initialize Progress] フィールドと [Initialize Time Elapsed] フィールドを参照します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [None] : コントローラはドライブを初期化しません。</li> </ul> |

| 名前                                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Drive Cache] ドロップダウンリスト                   | <p>コントローラによるドライブキャッシングの処理方法。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Disable] : ドライブでのキャッシングはディセーブルになります。</li> </ul> <p>(注) これがデフォルトであり、推奨オプションです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Unchanged] : コントローラでは、ドライブで指定されたキャッシングポリシーを使用します。これがデフォルトであり、推奨オプションです。</li> <li>• [Enable] : ドライブでのキャッシングはイネーブルになります。このオプションは、データへのアクセス遅延を最小限に抑えます。</li> </ul> <p><b>注意</b> ドライブのキャッシュをイネーブルにすると、ハードディスクドライブに対するすべての保証が無効になります。この設定オプションはサポートされていません。このオプションは、自己の責任において使用してください。</p> |
| [Access Policy] ドロップダウンリスト                 | <p>ホストのアクセス権限を設定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Read-Write] : ホストはドライブにフルアクセスできます。</li> <li>• [Read Only] : ホストはドライブからデータの読み取りだけを実行できます。</li> <li>• [Blocked] : ホストはドライブにアクセスできません。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [Set this Virtual Drive Bootable] チェックボックス | <p>コントローラによるドライブのブート方法。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Enable] : コントローラはこのドライブをブート可能にします。</li> <li>• [Disable] : このドライブはブートできません。</li> </ul> <p>(注) オペレーティングシステムまたはハイパーバイザを RAID アレイにインストールする場合は、このチェックボックスをオンにすることをお勧めします。</p>                                                                                                                                                                                                                                               |

| 名前                                              | 説明                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Use the Remaining Drive as Hot Spare] チェックボックス | [Available Drives] テーブル内のドライブをホット スペア ドライブとして指定します。<br><br>(注) RAID 1 にのみ適用できます。このチェックボックスは、他の RAID レベルではグレーアウトされます。<br>ダブル幅の E シリーズ サーバに適用可能。 |

ステップ 6 RAID 設定を確認し、[Confirm] をクリックして変更を確定します。

## WebBIOS による RAID の設定



**重要** RAID 機能は E シリーズ サーバおよび SME シリーズ NCE に適用されます。RAID 機能は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。



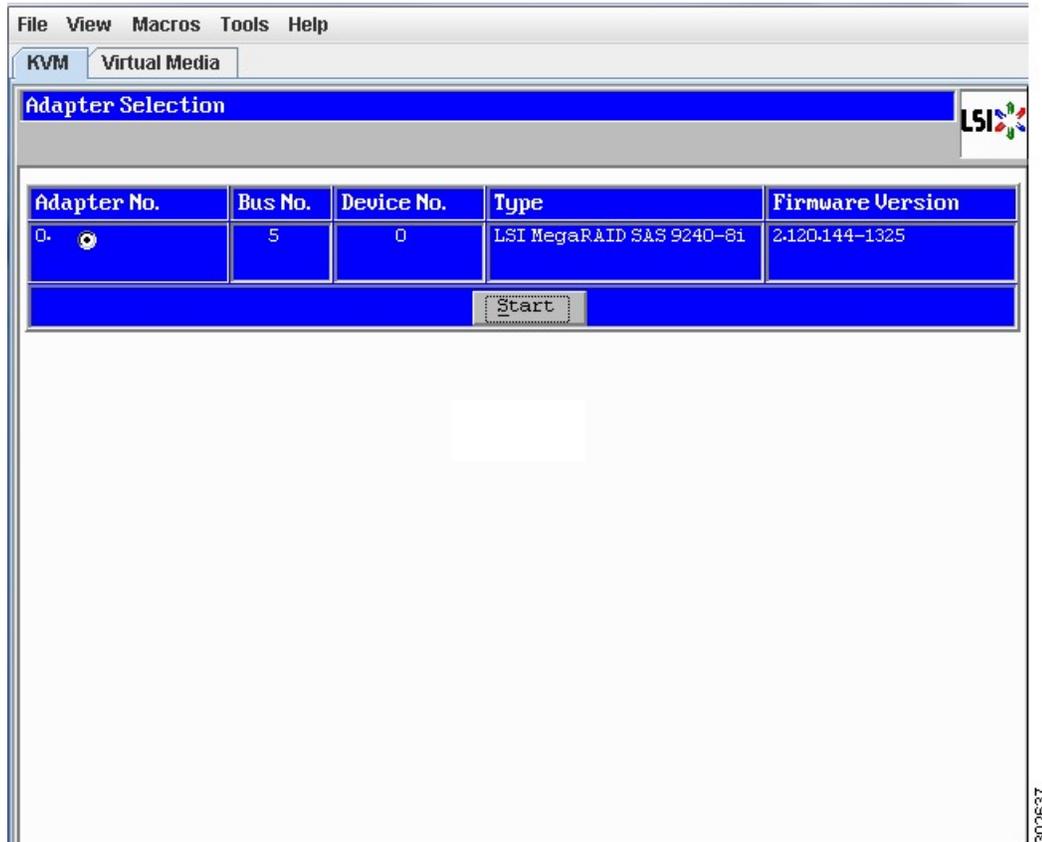
(注) WebBIOS を使用して M1 サーバと M2 サーバで RAID を設定します。MegaRAID コントローラを使用して M3 サーバで RAID を設定します。参照先 [MegaRAID コントローラによる RAID の設定](#)、(96 ページ)

### 手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] メニューをクリックします。
- ステップ 2 作業ウィンドウの [Host Image Mapping] タブをクリックします。
- ステップ 3 [Actions] 領域から、[Launch KVM Console] をクリックします。  
[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。
- ステップ 4 [Server Summary] ページから、[Power Cycle Server] をクリックしてサーバをリブートします。
- ステップ 5 ブートアップ中に、Ctrl キーを押し、続けて H を押して、WebBIOS にアクセスします。

LSI Logic の [Adapter Selection] ページが表示されます。このページでは RAID を設定できます。このページの詳細については、LSI Logic のマニュアルを参照してください。

図 35 : WebBIOS



## MegaRAID コントローラによる RAID の設定



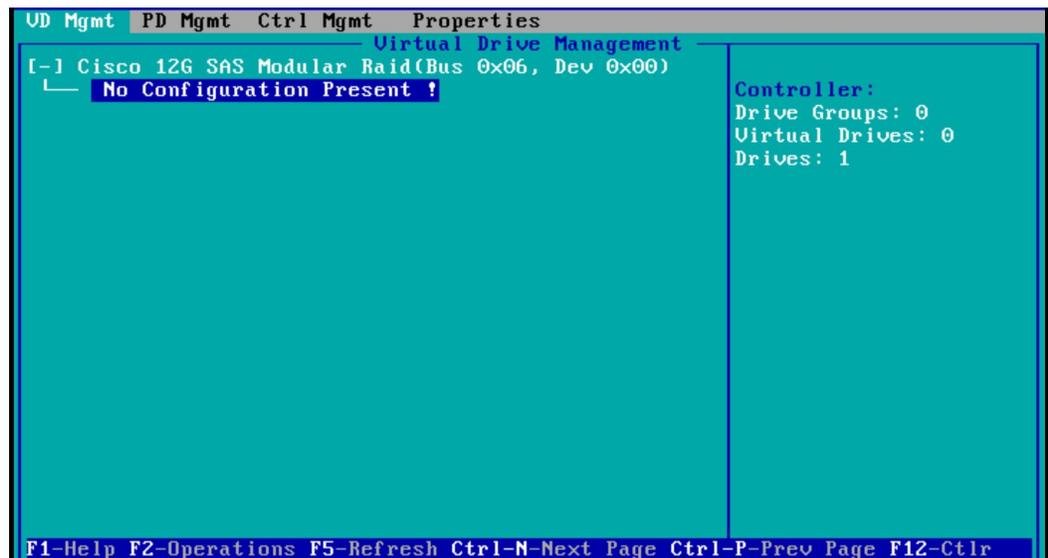
### 重要

RAID機能はEシリーズサーバおよびSMEシリーズNCEに適用されます。RAID機能はEHWIC EシリーズNCEおよびNIM EシリーズNCEには適用されません。

## 手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] メニューをクリックします。
- ステップ 2 作業ウィンドウの [Host Image Mapping] タブをクリックします。
- ステップ 3 [Actions] 領域から、[Launch KVM Console] をクリックします。  
[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。
- ステップ 4 [Server Summary] ページから、[Power Cycle Server] をクリックしてサーバをリブートします。
- ステップ 5 ブートアップ中に Ctrl キーを押し、R を押し、MegaRAID コントローラにアクセスします。  
[Virtual Drive Management] ページが表示され、このページで MegaRAID コントローラを設定できます。

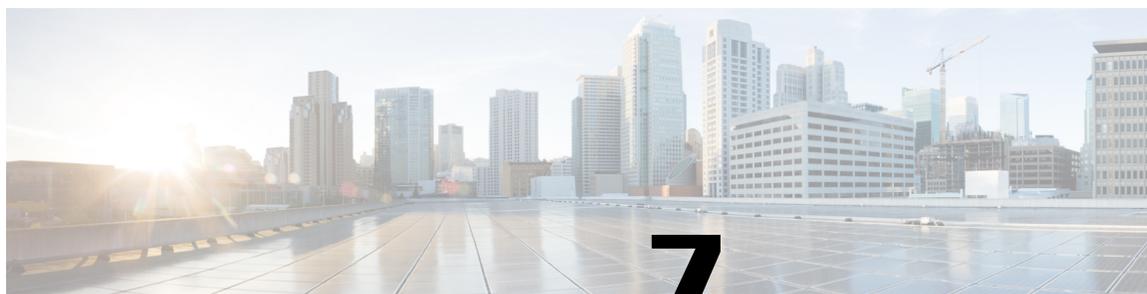
図 36: MegaRAID コントローラ



## 次の作業

E シリーズサーバまたは NCE オプション 1 (オペレーティングシステムまたはハイパーバイザが事前にインストールされていない E シリーズサーバまたは NCE) を購入した場合は、オペレーティングシステムをインストールします。オペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストール、(99 ページ) を参照してください。

■ 次の作業



## 第 7 章

# オペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストール



(注) E シリーズ サーバまたは NCE オプション 1 (オペレーティングシステムまたはハイパーバイザが事前にインストールされていない E シリーズ サーバまたは NCE) を購入した場合、オペレーティングシステムまたはハイパーバイザをインストールする必要があります。

この章は、次の項で構成されています。

- [オペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストール方法, 99 ページ](#)
- [KVM コンソール, 100 ページ](#)
- [PXE インストール サーバ, 103 ページ](#)
- [ホストイメージマッピング, 104 ページ](#)
- [VMware vSphere Hypervisor のダウンロードとインストールの基本的なワークフロー, 111 ページ](#)
- [サーバのブート順の設定, 114 ページ](#)
- [次の作業, 121 ページ](#)

## オペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストール方法

E シリーズ サーバおよび NCE は複数のオペレーティングシステムとハイパーバイザをサポートします。インストールされるプラットフォームに関係なく、次のいずれかのツールを使用してサーバにインストールできます。

- KVM コンソール

- PXE インストール サーバ
- ホスト イメージ マッピング



注意

仮想ドライブをマップするには 1 種類だけを使用する必要があります。たとえば、KVM コンソールまたは Host Image Mapping のいずれかを使用します。組み合わせて使用すると、サーバが未定義の状態になります。

## KVM コンソール

KVM コンソールは CIMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウスの直接接続をエミュレートします。KVM コンソールを使用すると、リモートの場合からサーバに接続できます。サーバに物理的に接続された CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブを使用する代わりに、KVM コンソールは仮想メディアを使用します。これは、仮想 CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブにマップされる実際のディスク ドライブまたはディスク イメージ ファイルです。次のいずれでも仮想ドライブにマップできます。

- コンピュータ上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- コンピュータ上のディスク イメージ ファイル (ISO または IMG ファイル)
- コンピュータ上の USB フラッシュ ドライブ

KVM コンソールを使用して、サーバにオペレーティング システムまたはハイパーバイザをインストールし、次の作業を行うことができます。

- ブートアップ中に F2 を押して、BIOS セットアップ メニューにアクセスします。
- ブートアップ中に F8 を押して、CIMC Configuration Utility にアクセスします。



(注) CIMC Configuration Utility は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。

- Cisco UCS M1 および M2 サーバの場合は、ブートアップ中に Ctrl+H を押し、WebBIOS にアクセスして RAID を設定します。

Cisco UCS M3 サーバの場合は、ブートアップ中に Ctrl+R を押し、MegaRAID コントローラにアクセスして RAID を設定します。



(注) RAID は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE ではサポートされていません。これらの SKU では、Ctrl+H および Ctrl+R は機能しません。

### KVM コンソールを起動するための Java 要件

KVM コンソールを起動するためには、システムにリリース 1.6 以降の Java をインストールしておく必要があります。

証明書が Java で取り消されたために KVM コンソールが起動しない場合は、Java の設定を変更する必要があります。次の手順を実行します。

- 1 Java コントロールパネルにアクセスします。
- 2 [Advanced] タブをクリックします。
- 3 [Perform certificate revocation on] で、[Do not check (not recommended)] ラジオ ボタンを選択します。詳細については、[http://www.java.com/en/download/help/revocation\\_options.xml](http://www.java.com/en/download/help/revocation_options.xml) を参照してください。

## KVMコンソールを使用したオペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストール

### はじめる前に

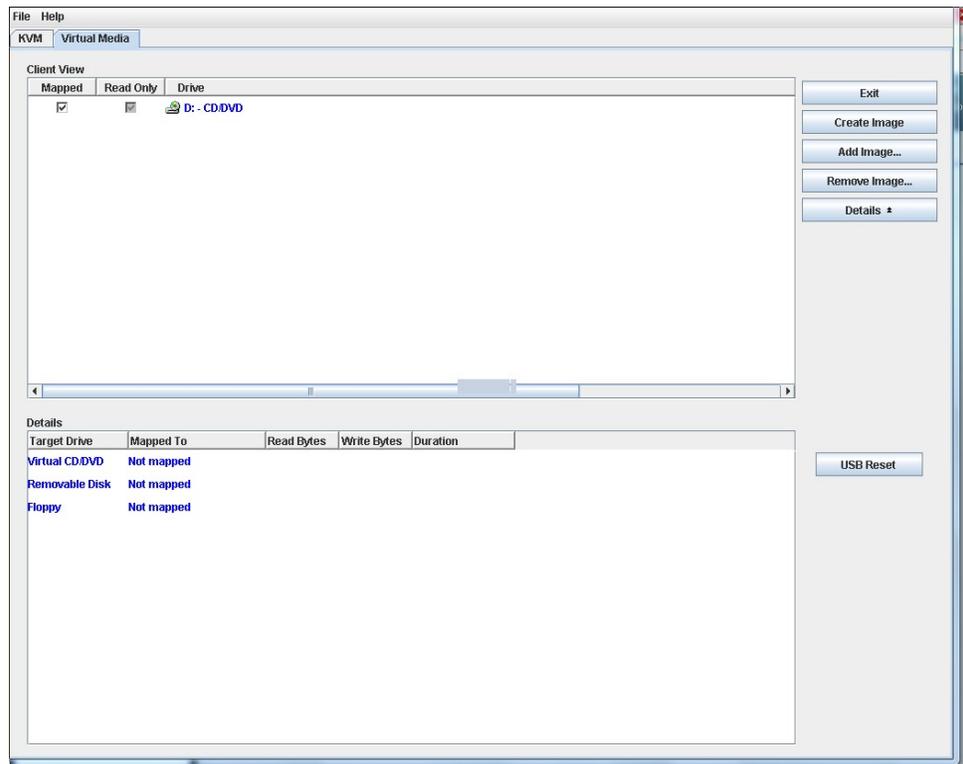
オペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストールディスクまたはディスクイメージファイルの場所を特定します。



- (注) VMware vSphere Hypervisor ではカスタマイズしたイメージが必要です。カスタマイズされたイメージをダウンロードするには、[カスタマイズされた VMware vSphere Hypervisor イメージのダウンロード](#)、(111 ページ) を参照してください。

### 手順

- ステップ 1 オペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストールディスクを CD/DVD ドライブにロードするか、ディスクイメージファイルをコンピュータにコピーします。
- ステップ 2 CIMC が開いていない場合は、CIMC GUI にログインします。
- ステップ 3 [Navigation] ペインの [Server] メニューをクリックします。
- ステップ 4 作業ウィンドウの [Host Image Mapping] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域から、[Launch KVM Console] をクリックします。  
[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。
- ステップ 6 KVM コンソールから、[Virtual Media] タブをクリックします。



**ステップ 7** [Virtual Media] タブで、次のいずれかの方法を使用して仮想メディアをマップします。

- オペレーティング システムまたはハイパーバイザのインストール ディスクが含まれている CD/DVD ドライブの [Mapped] チェックボックスをオンにします。
- [Add Image] をクリックし、オペレーティング システムまたはハイパーバイザのインストール ディスク イメージに移動してこれを選択します。[Open] をクリックしてディスク イメージをマウントし、マウントされたディスク イメージの [Mapped] チェックボックスをオンにします。

(注) インストールプロセスの実行中は、[Virtual Media] タブを開いたままにしておく必要があります。このタブを閉じると、すべての仮想メディアのマップが解除されます。

**ステップ 8** 仮想 CD/DVD ドライブがブート デバイスになるように、ブート順を設定します。

**ステップ 9** サーバをリブートします。

サーバを再起動すると、仮想 CD/DVD ドライブからインストールプロセスが開始します。残りのインストールプロセスについては、インストールしているプラットフォームのインストール ションガイドを参照してください。

**ステップ 10** オペレーティングシステムまたはハイパーバイザをインストールした後にディスク ドライブが表示されない場合は、ドライバをインストールする必要があります。ドライバのインストール手順については、該当するオペレーティング システムまたはハイパーバイザのマニュアルを参照してください。

Microsoft Windows オペレーティングシステムへのドライバのインストール手順については、[Microsoft Windows Server 用のドライバのインストール](#)、(107 ページ) を参照してください。

### 次の作業

インストールが完了したら、仮想メディアのブート順を元の設定にリセットします。

## PXE インストール サーバ

Preboot Execution Environment (PXE) インストール サーバを使用すると、クライアントはリモートの場所からオペレーティングシステムまたはハイパーバイザをブートおよびインストールできます。この方法を使用するには、PXE 環境が設定されていて、VLAN (通常は専用のプロビジョニング VLAN) で使用できるようになっている必要があります。さらに、サーバがネットワークからブートするように設定されている必要があります。サーバは、ブートすると、PXE 要求をネットワーク経由で送信します。PXE インストール サーバは、この要求に応答確認し、サーバにオペレーティングシステムまたはハイパーバイザをインストールするイベントのシーケンスを開始します。

PXE サーバは、インストールディスク、ディスクイメージ、またはスクリプトを使用して、オペレーティングシステムまたはハイパーバイザをインストールできます。また、独自のディスクイメージを使用して、プラットフォーム、追加コンポーネント、またはアプリケーションをインストールすることもできます。



(注) PXE インストールは、多数のサーバにプラットフォームをインストールする場合に効率のよい方法です。ただし、この方法を使用するには PXE 環境をセットアップする必要があることを考えると、他のインストール方法を使用する方が簡単な場合があります。

## PXE インストールサーバを使用したオペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストール

### はじめる前に

VLAN 経由でサーバに到達できることを確認します。



(注) VMware vSphere Hypervisor ではカスタマイズしたイメージが必要です。カスタマイズされたイメージをダウンロードするには、[カスタマイズされた VMware vSphere Hypervisor イメージのダウンロード](#)、(111 ページ) を参照してください。

## 手順

**ステップ 1** ブート順を [PXE] に設定します。

**ステップ 2** サーバをリブートします。

**注意** 共有 LOM インターフェイスを使用して CIMC にアクセスしている場合は、サーバのリブートプロセス中に CIMC GUI を使用しないでください。CIMC GUI を使用すると、イーサネットポートに設定されていた IP アドレスがブートエージェントによってオーバーライドされるため、PXE のインストール中に GUI の接続が解除されます。

VLAN で PXE インストールサーバを使用できる場合は、サーバが再起動するとインストールプロセスが開始します。通常、PXE インストールは自動化されており、追加のユーザ入力を必要としません。残りのインストールプロセスについては、インストールしているオペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストールガイドを参照してください。

## 次の作業

インストールが完了したら、LAN のブート順を元の設定にリセットします。

# ホストイメージマッピング

ホストイメージマッピング機能を使用すると、ホストイメージのダウンロード、マッピング、マッピング解除、または削除を行うことができます。Microsoft Windows、Linux、VMware などのホストイメージを、リモート FTP または HTTP サーバから CIMC 内部リポジトリにダウンロードしてから、E シリーズサーバまたは NCE 内の USB コントローラの仮想ドライブにマップします。イメージをマップした後は、イメージをマウントした仮想ドライブが最初のブートデバイスになるようにブート順序を設定してから、サーバをリブートします。ホストイメージはファイル拡張子として .iso または .img がなければなりません。

また、ホストイメージマッピング機能により、診断イメージをダウンロードし、マウントできます。診断イメージのファイル拡張子は必ず .diag になります。

## ホストイメージのマッピング

### はじめる前に

- admin 権限を持つユーザとして CIMC にログインします。
- 適切なサードパーティからホストイメージファイルを取得します。



(注) VMware vSphere Hypervisor ではカスタマイズしたイメージが必要です。カスタマイズされたイメージをダウンロードするには、[カスタマイズされた VMware vSphere Hypervisor イメージのダウンロード](#)、(111 ページ) を参照してください。

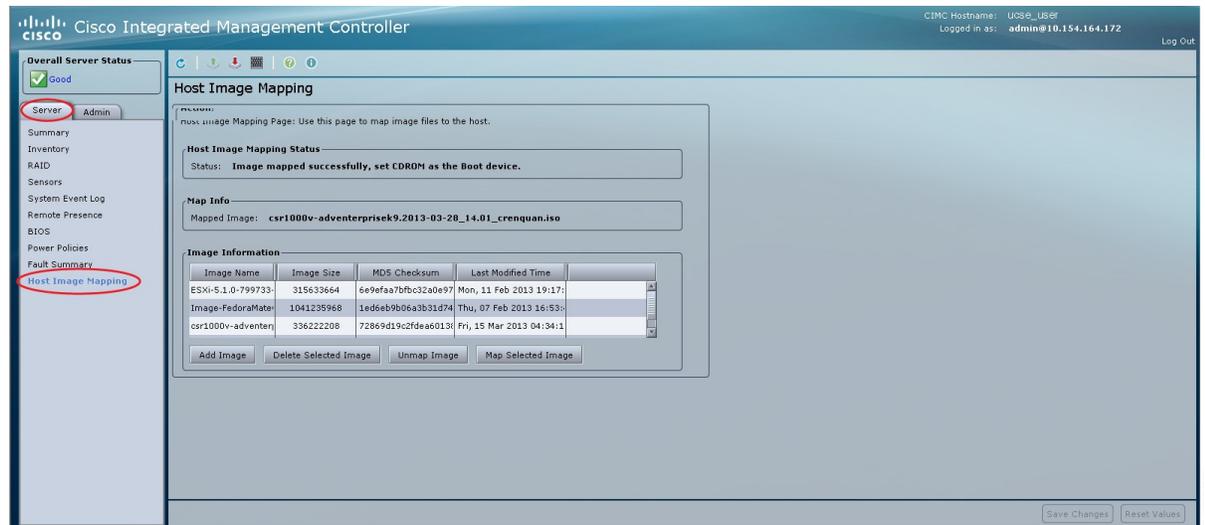


(注) アップデートがすでに処理中であるときにイメージアップデートを開始すると、どちらのアップデートも失敗します。

## 手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Server] メニューをクリックします。  
**ステップ 2** [Server] タブの [Host Image Mapping] をクリックします。

図 37: ホストイメージマッピング



- ステップ 3** [Host Image Mapping] ページで、[Add Image] をクリックします。  
 [Download Image] ダイアログボックスが開きます。次のフィールドに入力します。

| 名前                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Download Image From] ドロップダウン リスト        | <p>イメージが配置されているリモートサーバのタイプ。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• FTP</li> <li>• HTTP</li> </ul> <p>(注) 選択したリモートサーバによって、表示されるフィールドが変わります。</p>                                                                           |
| [FTP] または [HTTP Server IP Address] フィールド | リモート FTP または HTTP サーバの IP アドレス。                                                                                                                                                                                                            |
| [FTP] または [HTTP File Path] フィールド         | <p>リモート FTP または HTTP サーバのパスおよびファイル名。パスワードには、最大 80 文字を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホストイメージをインストールする場合、そのイメージのファイル拡張子は必ず .iso または .img になります。</li> <li>• 診断イメージをインストールする場合、そのイメージのファイル拡張子は必ず .diag になります。</li> </ul> |
| [Username] フィールド                         | <p>リモートサーバのユーザ名。</p> <p>ユーザ名は 1~20 文字の範囲で指定します。</p> <p>(注) ユーザ名を設定しない場合は、ユーザ名として <b>anonymous</b> を入力し、パスワードとして任意の文字を入力します。</p>                                                                                                            |
| [Password] フィールド                         | <p>ユーザ名のパスワード。</p> <p>パスワードは 1~20 文字の範囲で指定します。</p> <p>(注) ユーザ名を設定しない場合は、ユーザ名として <b>anonymous</b> を入力し、パスワードとして任意の文字を入力します。</p>                                                                                                             |

**ステップ 4** [Download] をクリックします。  
[Host Image Mapping] ページが開きます。[Host Image Mapping Status] 領域で、イメージダウンロードのステータスを表示できます。イメージが正常にダウンロードされ、処理された後、ページがリフレッシュされます。ページがリフレッシュされた後、新しいイメージが [Image Information] 領域に表示されます。

**ステップ 5** [Image Information] 領域で、マップするイメージを選択し、[Map Selected Image] をクリックします。

イメージがマップされ、USB コントローラの仮想ドライブにマウントされます。仮想ドライブには、次のいずれかを使用できます。

- HDD : ハードディスク ドライブ
- FDD : フロッピー ディスク ドライブ
- CD/DVD : ブート可能 CD-ROM または DVD ドライブ

**ステップ 6** イメージがマウントされている仮想ドライブが最初のブートデバイスになるように、ブート順を設定します。

ヒント イメージがどの仮想ドライブにマウントされているか確認するには、[Host Image Mapping] ページの [Host Image Update Status] 領域を参照してください。

**ステップ 7** サーバをリブートします。

**ステップ 8** イメージにアンサーファイルが含まれている場合、オペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストールは自動化され、イメージがインストールされます。そうでない場合は、インストールウィザードが表示されます。ウィザードの手順に従って、イメージをインストールします。

**ステップ 9** オペレーティングシステムまたはハイパーバイザをインストールした後にディスクドライブが表示されない場合は、ドライバをインストールする必要があります。ドライバのインストール手順については、該当するオペレーティングシステムまたはハイパーバイザのマニュアルを参照してください。

Microsoft Windows オペレーティングシステムへのドライバのインストール手順については、[Microsoft Windows Server 用のドライバのインストール](#)、(107 ページ) を参照してください。

### 次の作業

- インストールが完了したら、仮想メディアのブート順を元の設定にリセットします。
- ホストイメージのマッピングを解除します。[ホストイメージのマッピング解除](#)、(110 ページ) を参照してください。

## Microsoft Windows Server 用のドライバのインストール



(注) E シリーズ サーバまたは NCE オプション 1 (オペレーティングシステムまたはハイパーバイザが事前にインストールされていない E シリーズ サーバまたは NCE) を購入し、Microsoft Windows Server の自身のバージョンをインストールする場合は、ドライバをインストールする必要があります。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでは、次のドライバをインストールする必要があります。

- Windows 2008 R2 用のオンボード ネットワーク ドライバ

- Windows 2008 R2 用の LSI ドライバ (オンボード ハードウェア RAID コントローラ)
- Windows 2008 R2 用の Intel ドライバ
- [Windows 用の Intel サーバチップセット ドライバ](#)
- [Windows Server 2012 R2 用の Intel ネットワーク アダプタ ドライバ](#)



(注) 「Windows Server 2012 R2 用の Intel ネットワーク アダプタ ドライバ」ドライバは、次のサーバにのみ適用できます。

- UCS-E160S-M3 サーバ
- UCS-EN140N-M2 サーバ
- UCS-EN120E-M2 サーバ



(注) 追加ドライバは Windows 2012 には必要ではありません。

10 ギガビット アドオン カードを購入した場合は、Windows 2008 R2 用の 10G PCIe ネットワーク ドライバもインストールする必要があります。

## 手順

- ステップ 1** ドライバを Cisco.com からダウンロードします。 [シスコからのソフトウェアの取得](#)、(108 ページ) を参照してください。
- ステップ 2** ドライバ ファイルを USB フラッシュ ドライブにコピーします。
- ステップ 3** 使用する Microsoft Windows Server をインストールします。インストール プロセスの途中で、LSI ドライバを要求されます。
- ステップ 4** USB フラッシュ ドライブを E シリーズ サーバの USB スロットに差し込み、LSI ドライバをインストールします。  
この手順は E シリーズ サーバおよび S M E シリーズ NCE に適用されます。この手順は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。
- ステップ 5** Microsoft Windows Server のインストールが完了したら、オンボード ネットワーク ドライバ (Broadcom) と Intel ドライバをインストールします。

## シスコからのソフトウェアの取得

ドライバ、BIOS と CIMC のファームウェア、および診断イメージをダウンロードするには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1** <http://www.cisco.com/> を参照します。
- ステップ 2** まだログインしていない場合は、ページの右上隅にある [Log In] をクリックし、Cisco.com の資格情報を使用してログインします。
- ステップ 3** 上部のメニューバーで、[Support] をクリックします。  
ロールダウンメニューが表示されます。
- ステップ 4** [Downloads] (中央) ペインから、[All Downloads] (右下隅) をクリックします。  
[Download Software] ページが表示されます。
- ステップ 5** 左ペインから、[Products] をクリックします。
- ステップ 6** 中央ペインから、[Unified Computing and Servers] をクリックします。
- ステップ 7** 右ペインから、[Cisco UCS E-Series Software] をクリックします。
- ステップ 8** 右ペインから、ダウンロードするソフトウェアのサーバモデルの名前をクリックします。  
[Download Software] ページは次のカテゴリで表示されます。
- [Unified Computing System (UCSE) Server Drivers] : ドライバが含まれます。
  - [Unified Computing System (UCSE) Server Firmware] : Host Upgrade Utility と BIOS、CIMC、および PLD ファームウェア イメージが含まれます。
  - [Unified Computing System (UCSE) Utilites] : 次の診断イメージが含まれています。
- ステップ 9** 適切なソフトウェア カテゴリ リンクをクリックします。
- ステップ 10** ダウンロードするソフトウェア イメージに関連付けられている [Download] ボタンをクリックします。  
[End User License Agreement] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 11** (任意) 複数のソフトウェア イメージをダウンロードするには、次を実行します。
- a) ダウンロードするソフトウェア イメージに関連付けられている [Add to cart] ボタンをクリックします。
  - b) 右上にある [Download Cart] ボタンをクリックします。  
カートに追加したすべてのイメージが表示されます。
  - c) 右下隅にある [Download All] をクリックして、すべてのイメージをダウンロードします。  
[End User License Agreement] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 12** [Accept License Agreement] をクリックします。
- ステップ 13** 必要に応じて、次のいずれかを実行します。
- ソフトウェア イメージ ファイルをローカル ドライブに保存します。
  - ソフトウェア イメージを TFTP サーバからインストールする場合は、使用する TFTP サーバにファイルをコピーします。

サーバは、TFTP サーバ上の宛先フォルダに対する読み取り権限を持っていることが必要です。

### 次の作業

ソフトウェア イメージをインストールします。

## ホスト イメージのマッピング解除

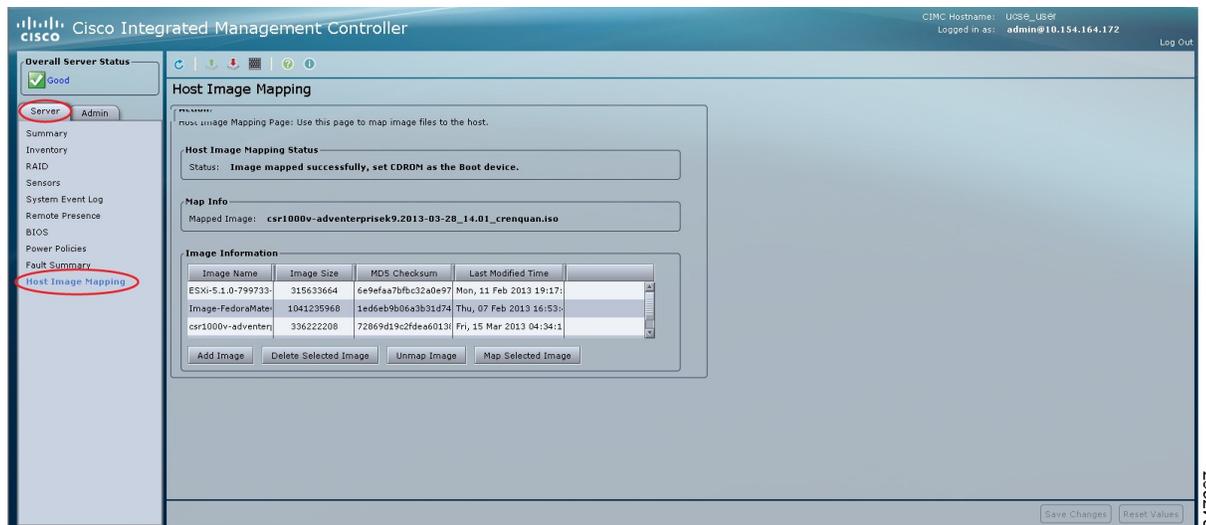
### はじめる前に

admin 権限を持つユーザとして CIMC にログインします。

### 手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Server] メニューをクリックします。  
**ステップ 2** [Server] タブの [Host Image Mapping] をクリックします。

図 38 : ホストイメージマッピング



- ステップ 3** [Unmap Image] をクリックします。  
 USB コントローラの仮想ドライブから、マップされたイメージがアンマウントされます。

# VMware vSphere Hypervisor のダウンロードとインストールの基本的なワークフロー



注意

VMware FL-SRE-V-HOST ライセンスを使用する場合（VMware vSphere Hypervisor 5.X に相当）、使用している RAM が 32 GB 以下であることを確認してください。RAM が 32 GB よりも大きい場合はエラーメッセージが表示され、ライセンスを適用することができません。48 GB の RAM を使用するには、ライセンスを FL-SRE-V-HOSTVC にアップグレードします。

- 1 カスタマイズした VMware vSphere Hypervisor イメージをダウンロードします。
- 2 VMware vSphere Hypervisor のイメージをインストールします。
- 3 VMware vSphere Hypervisor にスタティック IP アドレスを割り当てます。
- 4 vSphere Client をダウンロードし、インストールします。

## カスタマイズされた VMware vSphere Hypervisor イメージのダウンロード

### 手順

- ステップ 1 <https://my.vmware.com/web/vmware/login> にアクセスします。  
VMware ログイン ページが表示されます。
- ステップ 2 自分の VMware クレデンシャルを入力し、[Log In] をクリックします。  
VMware のアカウントがない場合は、[Register] をクリックして無料アカウントを作成します。
- ステップ 3 [Downloads] をクリックし、ドロップダウンリストから [All Products] を選択します。
- ステップ 4 必要に応じて、次のいずれかを実行します。
  - VMware vSphere Hypervisor 5.1 イメージをダウンロードするには、[Search] フィールドで ESXi-5.1.0-799733-custom-Cisco-2.1.0.3.iso と入力し、[Search] アイコンをクリックします。  
[Search Results] から [VMware vSphere] > [Drivers & Tools] > [Cisco Custom Image for ESXi 5.1.0 GA Install CD] をクリックし、[Download] をクリックします。
  - VMware vSphere Hypervisor 5.5 イメージをダウンロードするには、[Search] フィールドで ESXi-5.5.0-1331820-custom-Cisco-5.5.0.1.iso と入力し、[Search] アイコンをクリックします。  
[Search Results] から [VMware vSphere] > [Drivers & Tools] > [CISCO Custom Image for ESXi 5.5.0 GA Install CD] をクリックし、[Download] をクリックします。

## 次の作業

VMware vSphere Hypervisor のイメージをインストールします。

# VMware vSphere Hypervisor へのスタティック IP アドレスの割り当て

スタティック IP アドレスを VMware vSphere Hypervisor に割り当てるには、次の手順を実行します。

## はじめる前に

- カスタマイズした VMware vSphere Hypervisor イメージをダウンロードします。 [カスタマイズされた VMware vSphere Hypervisor イメージのダウンロード](#)、(111 ページ) を参照してください。



(注) カスタマイズしたイメージをダウンロードするには、VMware にアカウントが必要です。

- イメージを E シリーズサーバまたは NCE にインストールします。インストール手順については、[ホストイメージのマッピング](#)、(104 ページ) を参照してください。

## 手順

- ステップ 1 Web ブラウザで、最初のセットアップ時に CIMC にアクセスするために設定した IP アドレスを入力して、CIMC にログインします。  
CIMC のホーム ページである [Server Summary] ページが表示されます。
- ステップ 2 [Server Summary] ページの [Actions] 領域にある [Launch KVM Console] アイコンをクリックします。  
[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。
- ステップ 3 KVM コンソールから、[KVM] タブをクリックし、次の手順で IP アドレスを設定します。
  - a) F2 を押して VMware vSphere Hypervisor の DCUI カスタマイズ メニューにアクセスします。  
[DCUI] ログイン ページが表示されます。
  - b) [DCUI] にログインします。  
[System Customization] ページが表示されます。
  - c) [System Customization] ページの [Configure Management Network] をクリックします。  
[Configure Management Network] ページが表示されます。このページには、[Network Adapter] などいくつかのメニュー オプションがあります。[Network Adapter] メニュー オプションを使用すると、既存のネットワークアダプタとアクティブなネットワークアダプタを表示できます。

- (注) デフォルトでは、ネットワークアダプタ `vmnic0` がアクティブです。このアダプタがアクティブであることを確認します。
- d) [Configure Management Network] ページの [IP Configuration] メニュー オプションをクリックします。  
スタティック IP アドレスを割り当てるには、次を実行します。
- [IP Configuration] ダイアログボックスで、スタティック IP アドレスを使用することを指定するオプション ボタンをオンにします。
  - 該当するフィールドに IP アドレス、ネットワーク マスク、およびゲートウェイ IP アドレスを入力し、Enter を押します。[Configure Management Network] ページが表示されます。
  - [Configure Management Network] ページで ESC キーを押します。[Configure Management Network Confirm] ダイアログボックスが表示されます。
  - `y` と入力して変更を受け入れ、管理ネットワークを再起動します。
- e) ルータ設定で、ルートを VMware vSphere Hypervisor ホスト IP アドレスに追加します。  
たとえば、ホスト IP アドレスが `192.168.1.25` で、`ucse` インターフェイスが `ucse 2/0` の場合、次のルートを追加します。
- ```
ip route 192.168.1.25 255.255.255.255 ucse2/0
```
- f) vSphere Client をインストールします。vSphere Client のダウンロードとインストール、(113 ページ) を参照してください。vSphere Client から、ホストの IP アドレスを使用して VMware vSphere Hypervisor にログインします。

vSphere Client のダウンロードとインストール

はじめる前に

- VMware vSphere Hypervisor には、必ずスタティック IP アドレスを割り当てます。VMware vSphere Hypervisor へのスタティック IP アドレスの割り当て、(112 ページ) を参照してください。
- ネットワーク接続があることを確認します。vSphere Client をダウンロードするには、インターネットへの接続が必要になります。



- (注) vSphere Client には、初めて使うユーザ向けのオンライン チュートリアルがあります。また、インライン コンテンツとしてセットアップ用のアシスタント機能が組み込まれています。このアシスタント機能を使用すると、簡単な手順に従って仮想インフラストラクチャを設定できます。経験豊富なユーザは、このインライン コンテンツのアシスタント機能を無効にすることができます。

手順

-
- ステップ 1** <https://hypervisor-ip-address> にアクセスします。VMware Web サイトに移動し、[Welcome] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Download vSphere Client] をクリックしてから、[Run] をクリックして、vSphere Client をダウンロードします。VMware vSphere Client がインストールされ、VMware vSphere Client へのショートカットアイコンがデスクトップに表示されます。
- ステップ 3** [VMware vSphere Client] アイコンをクリックして、ログイン ウィンドウを表示します。
- ステップ 4** VMware vSphere Hypervisor を管理するには、VMware vSphere Hypervisor の IP アドレスまたはホスト名と、ユーザ名およびパスワードを入力し、[Login] をクリックします。vSphere Client GUI が表示されます。
- (注) 事前にインストールされている VMware vSphere Hypervisor のデフォルトユーザ名は root です。この名前は変更できません。また、デフォルトパスワードは password です。ログイン後に、パスワードを変更することを推奨します。
-

サーバのブート順の設定

CIMC GUI または BIOS セットアップ メニューを使用して、サーバのブート順を設定できます。

CIMC GUI を使用したサーバのブート順の設定

はじめる前に

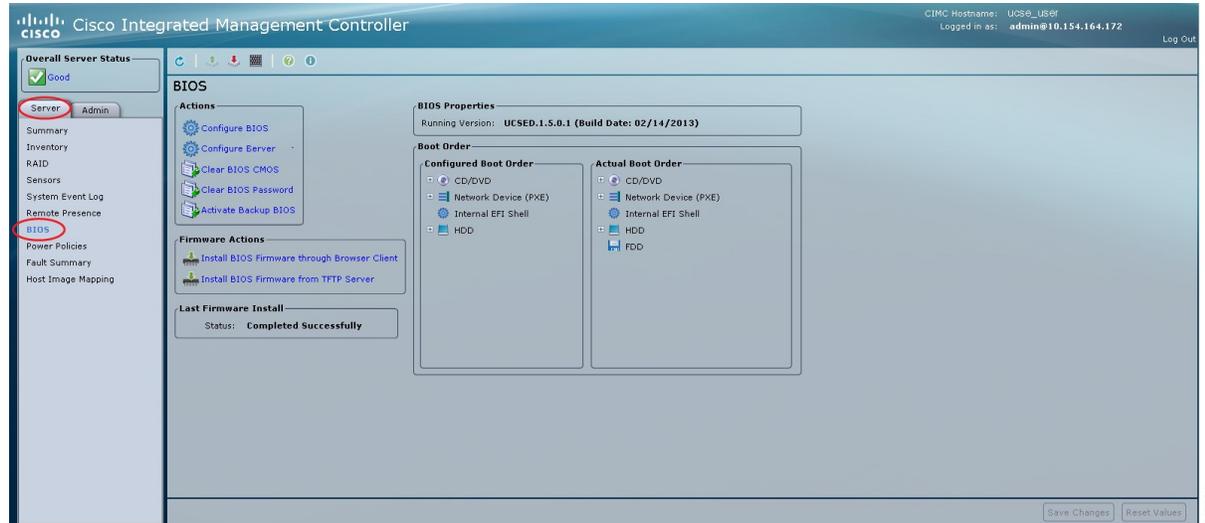
admin 権限を持つユーザとして CIMC にログインします。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] メニューをクリックします。

ステップ 2 [Server] タブの [BIOS] をクリックします。

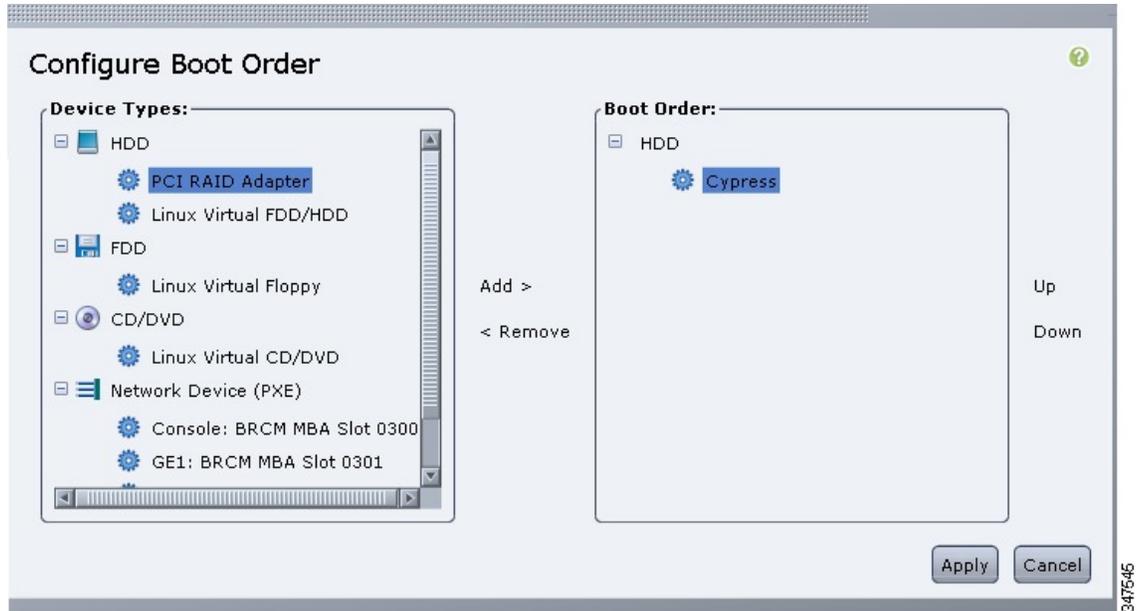
図 39 : BIOS



ステップ 3 [Actions] 領域で、[Configure Boot Order] をクリックします。

[Configure Boot Order] ダイアログボックスが表示されます。

図 40 : [Configure Boot Order] ダイアログボックス



ステップ 4 [Configure Boot Order] ダイアログボックスで、必要に応じて次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Device Types] テーブル	<p>サーバのブート オプション。次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HDD : ハード ディスク ドライブ。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ キプロス ◦ PCI RAID アダプタ ◦ Linux 仮想 FDD/HDD ◦ SSD ハードドライブ • FDD : フロッピー ディスク ドライブ。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ Linux 仮想フロッピー • CD/DVD : ブート可能 CD-ROM。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ Linux 仮想 CD/DVD • ネットワーク デバイス (PXE) : PXE ブート。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ コンソール ◦ GE1 ◦ GE2 ◦ GE3 ◦ TE2 ◦ TE3 <p>(注) PXE ブート オプションは、プラットフォームによって異なります。たとえば、M3サーバでは、GE2 と GE3 の代わりに、TE2 と TE3 を使用します。</p> • 内部 EFI シェル : 内部 Extensible Firmware Interface。
Add >	選択したデバイス タイプを [Boot Order] テーブルに移動します。
< Remove	選択したデバイス タイプを [Boot Order] テーブルから削除します。

名前	説明
[Boot Order] テーブル	このサーバがブートできるデバイスタイプが、ブートが試行される順番に表示されます。
Up	選択したデバイス タイプを [Boot Order] テーブルで高いプライオリティに移動します。
Down	選択したデバイス タイプを [Boot Order] テーブルで低いプライオリティに移動します。

- ステップ 5** [Apply] をクリックします。
サーバに接続しているデバイスによっては、実際のブート順に追加のデバイス タイプが付加される場合があります。

次の作業

サーバを再起動して、新しいブート順でブートします。

BIOS セットアップメニューを使用したブート順の設定

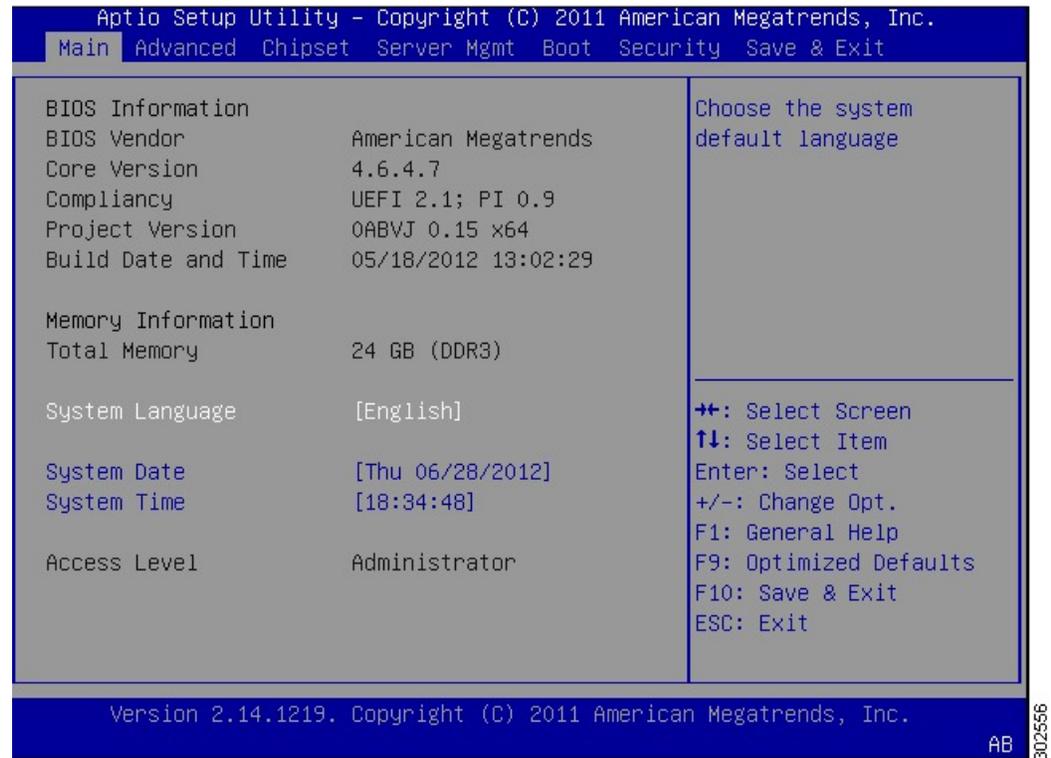
E シリーズ サーバまたは NCE に直接接続されている USB や外部 CD ROM ドライブなど、外部のブート可能なデバイスからサーバをブートするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Server] メニューをクリックします。
- ステップ 2** 作業ウィンドウの [Host Image Mapping] タブをクリックします。
- ステップ 3** [Actions] 領域から、[Launch KVM Console] をクリックします。
[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。
- ステップ 4** [Server Summary] ページから、[Power Cycle Server] をクリックしてサーバをリブートします。
- ステップ 5** プロンプトが表示されたら、ブートアップが完了する前に F2 を押して BIOS セットアップメニューにアクセスします。

[Aptio Setup Utility] が表示されます。このユーティリティから、BIOS セットアップメニューのオプションを利用できます。

図 41: BIOS セットアップメニュー



ステップ 6 [Boot] タブをクリックします。

ステップ 7 [Boot Options Priority] 領域の下のページを一番下までスクロールします。次のブート オプション プライオリティが一覧表示されます。

- Floppy Drive BBS Priorities
- Network Device BBS Priorities
- Hard Drive BBS Priorities
- CD/DVD ROM Drive BBS Priorities

ステップ 8 キーボードの上矢印キーまたは下矢印キーを使用して、適切なオプションを強調表示します。

ステップ 9 Enter を押して、強調表示されているフィールドを選択します。

ステップ 10 [Boot Option 1] に適切なデバイスを選択します。

ステップ 11 F4 を押して変更を保存し、終了します。

BIOS セットアップの [Main] タブに、[Boot Option 1] として設定したデバイスが表示されます。

オペレーティングシステムおよびハイパーバイザのインストールの確認

CIMC から Microsoft Windows Server へのアクセス

はじめる前に

- CIMC アクセス用の CIMC IP アドレスを設定します。
- Microsoft Windows Server を E シリーズ サーバにインストールします。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] メニューをクリックします。
 - ステップ 2 作業ウィンドウの [Host Image Mapping] タブをクリックします。
 - ステップ 3 [Server Summary] ページの [Actions] 領域にある [Launch KVM Console] アイコンをクリックします。
[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。
 - ステップ 4 KVM コンソールから、インストール済みの Microsoft Windows Server オペレーティングシステムにアクセスします。
-

CIMC から VMware vSphere Hypervisor へのアクセス

はじめる前に

- CIMC アクセス用の CIMC IP アドレスを設定します。
- VMware vSphere Hypervisor を E シリーズ サーバにインストールします。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] メニューをクリックします。
- ステップ 2 作業ウィンドウの [Host Image Mapping] タブをクリックします。
- ステップ 3 [Server Summary] ページの [Actions] 領域にある [Launch KVM Console] アイコンをクリックします。
[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。
- ステップ 4 KVM コンソールの [KVM] タブをクリックします。

VMware vSphere Hypervisor の Direct Console User Interface (DCUI) が表示されます。VMware vSphere Hypervisor で、ホストに IP アドレスを割り当てている場合、その IP アドレスは [DCUI] ページに表示されます。または、スタティック IP アドレスを指定できます。[VMware vSphere Hypervisor へのスタティック IP アドレスの割り当て](#)、(112 ページ) を参照してください。

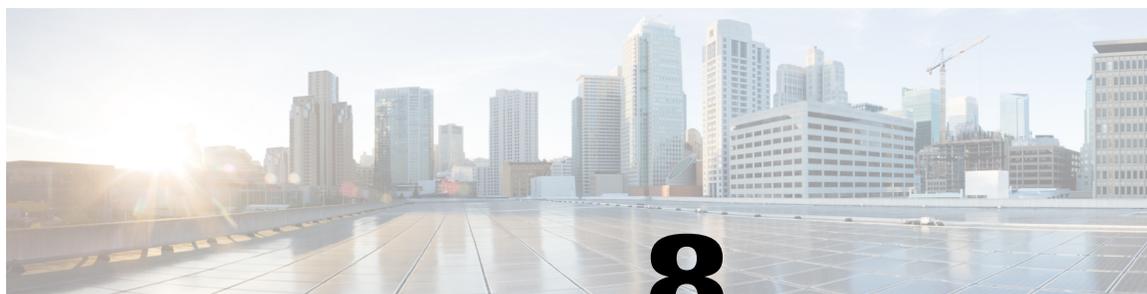
ステップ 5 vSphere Client がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合はインストールします。[vSphere Client のダウンロードとインストール](#)、(113 ページ) を参照してください。

ステップ 6 vSphere Client から、VMware vSphere Hypervisor にログインします。ログインするには、VMware vSphere Hypervisor から割り当てられた IP アドレス、またはステップ 4 で指定したスタティック IP アドレスを使用します。

(注) 事前にインストールされている VMware vSphere Hypervisor のデフォルトユーザ名は root です。この名前は変更できません。また、デフォルトパスワードは password です。ログイン後に、パスワードを変更することを推奨します。

次の作業

ルータとサーバ間の接続を設定します。[ルータと E シリーズサーバまたは NCE 間の接続の設定](#)、(123 ページ) を参照してください。



第 8 章

ルータと E シリーズ サーバまたは NCE 間の接続の設定

ルータを経由するトラフィックにするかどうかを応じて、次のいずれかを実行します。

- アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にしない場合、サーバのホストオペレーティングシステムを使用して E シリーズサーバまたは NCE の外部インターフェイスを設定します。
- アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックをルータ経由にする場合、この章に記載されている手順を使用して、ルータと E シリーズサーバまたは NCE 間の内部接続を設定します。

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco ISR G2 と E シリーズサーバ間の内部接続の設定](#), 123 ページ
- [Cisco ISR 4000 シリーズと E シリーズサーバ間の内部接続の設定](#), 127 ページ
- [Cisco ISR G2 と EHWIC E シリーズ NCE 間の内部接続の設定](#), 134 ページ
- [Cisco ISR 4000 シリーズと NIM E シリーズ NCE 間の内部接続の設定](#), 138 ページ
- [ネットワークインターフェイスマッピングの概要](#), 145 ページ
- [Microsoft Windows、Linux、および VMware vSphere Hypervisor の MAC アドレスの決定](#), 148 ページ

Cisco ISR G2 と E シリーズサーバ間の内部接続の設定

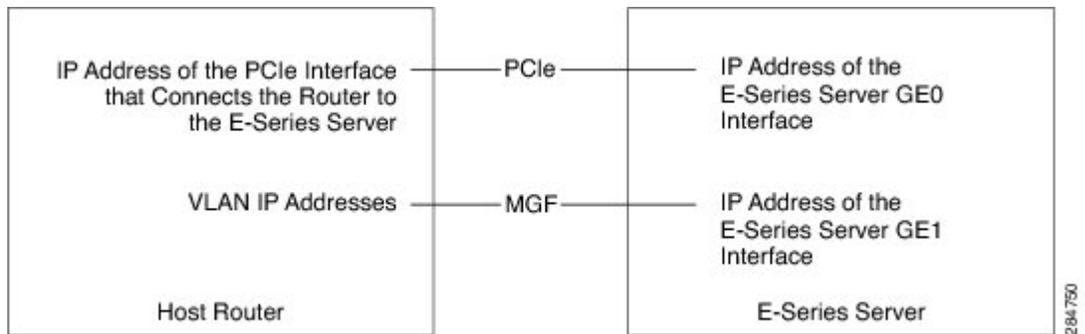
アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックを Cisco ISR G2 経由にするには、次の設定を使用します。Cisco ISR G2 と E シリーズサーバ間の内部接続を設定するには、これらの IP アドレスを設定する必要があります。

- トラフィックを PCIe 接続経由にするには（次の図を参照）、次のように設定します。

- ルータを E シリーズ サーバの GE0 インターフェイスに接続するルータの内部 PCIe インターフェイスの IP アドレス。
- E シリーズ サーバの GE0 インターフェイスの IP アドレス。
- トラフィックを MGF 接続経路にするには (次の図を参照)、次のように設定します。
 - ルータの内部 MGF VLAN インターフェイスの IP アドレス。
 - E シリーズ サーバの GE1 インターフェイスの IP アドレス。

次の図は、ルータと E シリーズ サーバ間の内部接続を示しています。

図 42 : Cisco ISR G2 と E シリーズ サーバ間の内部接続



手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface ucse slot/0	ルータの PCIe slot/0 インターフェイスの インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • Router (config-if)# ip address router-to-e-series-server-interface-ip-address subnet-mask • Router (config-if)# ip unnumbered type number 	ip address コマンドで、ルータを E シリーズ サーバの GE0 インターフェイスに接続する内部 PCIe インターフェイスの IP アドレスを指定します。上の図を参照してください。 または

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(任意) <code>ip unnumbered</code> コマンドは、インターフェイスに明示的な IP アドレスを割り当てずに、そのインターフェイス上での IP 処理をイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスのタイプ。 • <i>number</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスの番号。 <p>(注) アンナンバードインターフェイスは、一意である必要があります。番号付けされていない別のインターフェイスは指定できません。</p> <p>注意 <code>ip unnumbered</code> コマンドでは、デバイス間のポイントツーポイントインターフェイスが作成されます。ブロードキャストはサポートされません。</p>
ステップ 5	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 6	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	サーバのオペレーティングシステムを使用して E シリーズサーバの GE0 インターフェイスを設定します。上の図を参照してください。	—
ステップ 8	Router (config)# interface ucse slot/1	ルータの MGF <i>slot/1</i> VLAN インターフェイスのインターフェイスコンフィギュレーション モードを開始します。上の図を参照してください。
ステップ 9	Router(config-if)# switchport mode trunk	ポートを永続的なトランキング モードにします。デフォルトの設定は、アクセスモードです。
ステップ 10	Router (config-if)# [switchport trunk allowed vlan <i>vlan-numbers</i>]	(任意) 指定した VLAN 上でのトランキングを許可します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • <i>vlan-numbers</i> : トランキングを許可する VLAN 数。
ステップ 11	Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 12	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	Router (config)# interface vlan <i>vlan-number</i>	指定した VLAN 番号のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 14	Router (config-if)# ip address <i>vlan-ip-address subnet-mask</i>	<p>VLAN の IP アドレスを指定します。上の図を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>vlan-ip-address</i> : VLAN の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスにアペンドするサブネット マスク。
ステップ 15	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 16	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 17	サーバのオペレーティングシステムを使用して E シリーズ サーバの GE1 インターフェイスを設定します。上の図を参照してください。	—

次の例は、ルータと E シリーズ サーバ間の内部接続を設定する方法を示しています。



(注) この設定例の IP アドレスは参照用に示しただけなので、実際には有効でない可能性があります。

```
Router> enable
Router# configure terminal

Router(config)# interface ucse 1/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

Use the server's operating system to configure the E-Series Server's GE0 interface

```
Router(config)# interface ucse 1/1
Router(config-if)# switchport mode trunk
Router(config-if)# exit
```

```
Router# configure terminal
Router(config)# interface vlan 1
Router(config-if)# ip address 20.0.0.1 255.255.255.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

Use the server's operating system to configure the E-Series Server's GE1 interface.

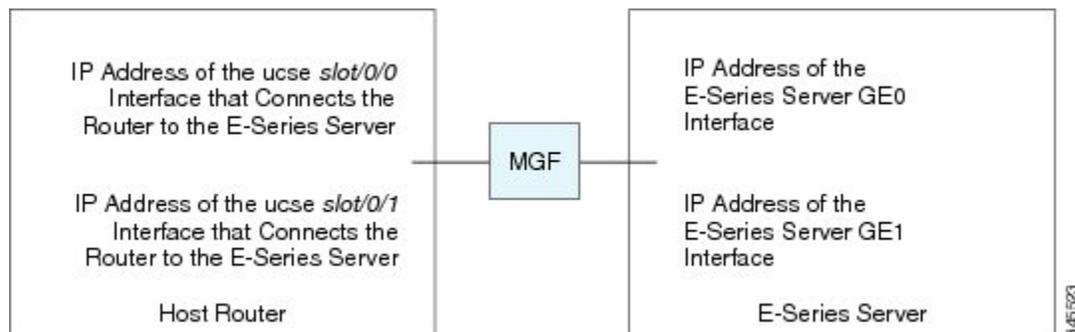
Cisco ISR 4000 シリーズと E シリーズ サーバ間の内部接続の設定

アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックを Cisco ISR 4000 シリーズ経由にする場合はこの設定を使用します。Cisco ISR 4000 シリーズと E シリーズサーバ間に内部接続を設定するには、これらの IP アドレスを設定する必要があります。

- ルータの `ucse slot/0/0` と E シリーズサーバの内部 GE0 インターフェイスを経由するトラフィック（次の図を参照）では、次のように設定します。
 - ルータを E シリーズサーバの GE0 インターフェイスに接続する、ルータの `ucse slot/0/0` インターフェイスの IP アドレス。
 - E シリーズサーバの GE0 インターフェイスの IP アドレス。
- ルータの `ucse slot/0/1` と E シリーズサーバの内部 GE1 インターフェイスを経由するトラフィック（次の図を参照）では、次のように設定します。
 - ルータの `ucse slot/0/1` インターフェイスの IP アドレス。
 - E シリーズサーバの GE1 インターフェイスの IP アドレス。

次の図は、ルータと E シリーズサーバ間の内部接続を示しています。

図 43 : Cisco ISR 4000 シリーズと E シリーズサーバ間の内部接続



手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface ucse slot/0/0	ルータの ucse slot/0/0 インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • Router (config-if)# ip address <i>router-to-e-series-server-interface-ip-address</i> <i>subnet-mask</i> • Router (config-if)# ip unnumbered type <i>number</i> 	ルータを E シリーズ サーバの GE0 インターフェイスに接続する、ルータの ucse slot 0/0 インターフェイスの IP アドレスを指定します。上の図を参照してください。 または (任意) ip unnumbered コマンドは、インターフェイスに明示的な IP アドレスを割り当てずに、そのインターフェイス上での IP 処理をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスのタイプ。 • <i>number</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスの番号。 (注) アンナンバードインターフェイスは、一意である必要があります。番号付けされていない別のインターフェイスは指定できません。 注意 ip unnumbered コマンドでは、デバイス間のポイントツーポイントインターフェイスが作成されます。ブロードキャストはサポートされません。
ステップ 5	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 7	サーバのオペレーティングシステムを使用して E シリーズサーバの GE0 インターフェイスを設定します。上の図を参照してください。	—
ステップ 8	Router (config)# interface ucse slot/0/1	ルータの ucse slot/0/1 インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。上の図を参照してください。
ステップ 9	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 10	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 11	サーバのオペレーティングシステムを使用して E シリーズサーバの GE1 インターフェイスを設定します。上の図を参照してください。	—

次の例は、ルータと E シリーズ サーバ間の内部接続を設定する方法を示しています。



(注) この設定例の IP アドレスは参照用に示しただけなので、実際には有効でない可能性があります。

```
Router> enable
Router# configure terminal

Router(config)# interface ucse 1/0/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

Use the server's operating system to configure the E-Series Server's GE0 interface.

```
Router(config)# interface ucse 1/0/1
Router(config-if)# ip address 11.0.0.1 255.255.255.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

Use the server's operating system to configure the E-Series Server's GE1 interface.

ネイティブ VLAN による E シリーズ サーバと Cisco ISR 4000 シリーズ間のイーサネット仮想回線の作成

選択したデータをカプセル化し、E シリーズ サーバにインストールされたオペレーティング システムまたはインストールされたハイパーバイザで作成された仮想マシンに転送するためにネイティブ VLAN を追加している場合は、この手順を使用します。

はじめる前に

Cisco ISR 4000 シリーズ と E シリーズ サーバ間の内部接続を設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface ucse slot/0/0	ルータの ucse slot/0/0 インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-if)# service instance idethernet	インターフェイスでイーサネット サービス インスタンスを設定し、イーサネット サービス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	Router (config-if-srv)# encapsulation encapsulation-type vlan-id	カプセル化タイプを定義します。
ステップ 6	Router (config-if-srv)# bridge-domain bridge-id	ブリッジ ドメインを設定します。
ステップ 7	Router (config-if-srv)# exit	イーサネット サービス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 8	Router (config-if)# interface BDI bridge-id	ブリッジ ドメイン インターフェイスを入力します。
ステップ 9	Router (config-if)# ip address bdi-interface-ip-address	BDI インターフェイスの IP アドレスを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 11	Router(config-if)# end	ホスト ルータのグローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 12	サーバのオペレーティング システムを使用して E シリーズ サーバの GE0 インターフェイスを設定します。	—

この例は、ネイティブ VLAN を使用して E シリーズ サーバと Cisco ISR 4000 シリーズ 間でイーサネット仮想回線を作成する方法を示しています。



(注) この設定例の IP アドレスは参照用です。

```
Router> enable
Router# configure terminal

Router(config)# interface ucse 1/0/0
Router(config-if)# service instance 1 ethernet
Router(config-if-srv)# encapsulation untagged
Router(config-if-srv)# bridge-domain 1
Router(config-if-srv)# exit
Router(config-if)# exit

Router(config-if)# interface BDI 1
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

Use the server's operating system to configure the E-Series Server's GE0 interface.

非ネイティブ VLAN による E シリーズ サーバと Cisco ISR 4000 シリーズ間のイーサネット仮想回線の作成

選択したデータをカプセル化し、E シリーズ サーバにインストールされたオペレーティング システムまたはインストールされたハイパーバイザで作成された仮想マシンに転送するために非ネイティブ VLAN を追加している場合は、この手順を使用します。

はじめる前に

E シリーズ サーバ と Cisco ISR 4000 シリーズ間の内部接続を設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホストルータでグローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface ucse slot/0/0	ルータの <i>ucse slot/0/0</i> インターフェイスのインターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	Router(config-if)# no ip address	IP アドレスを削除するか、IP 処理をディセーブルにします。
ステップ 5	Router(config-if)# no negotiation auto	インターフェイスの自動ネゴシエーションを無効にします。
ステップ 6	Router(config-if)# switchport mode trunk	ポートを永続的なトランキング モードにします。
ステップ 7	Router (config-if)# service instance idethernet	インターフェイスでイーサネット サービス インスタンスを設定し、イーサネット サービス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	Router (config-if-srv)# encapsulation dot1q encapsulation-type vlan-id	カプセル化タイプを定義します。
ステップ 9	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> Router (config-if-srv)# rewrite egress tag push dot1q encapsulation-type vlan-id Router (config-if-srv)# rewrite ingress tag pop 1 symmetric encapsulation-type vlan-id 	<ul style="list-style-type: none"> rewrite egress tag push dot1q コマンドは、カプセル化の調整がサービス インスタンスの終端となるフレーム上で実行されるように指定します。 rewrite ingress tag pop 1 symmetric コマンドは、カプセル化の調整がサービス インスタンスの始端となるフレーム上で実行されるように指定します。
ステップ 10	Router (config-if-srv)# bridge-domain bridge-id	ブリッジ ドメインを設定します。
ステップ 11	Router (config-if-srv)# exit	イーサネット サービス コンフィギュレーション モードを終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 12	Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 13	Router (config)# interface BDI <i>bridge-id</i>	ブリッジ ドメイン インターフェイスを入力します。
ステップ 14	Router (config-if)# ip address <i>bdi-interface-ip-address</i>	BDI インターフェイスの IP アドレスを指定します。
ステップ 15	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 16	Router(config-if)# end	ホストルータのグローバルコンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 17	サーバのオペレーティング システムを使用して E シリーズ サーバの NIC インターフェイスを設定します。	—
ステップ 18	Router# ping server's-NIC-interface	E シリーズ サーバ の NIC インターフェイスとの接続が確立されているかどうかを示します。
ステップ 19	Router# show arp	Access Resolution Protocol (ARP) キャッシュを表示します。
ステップ 20	Router# show bridge-domain <i>bridge-id</i>	ブリッジ ドメインの情報を表示します。

次の例は、非ネイティブ VLAN を使用して E シリーズサーバと Cisco ISR 4000 シリーズ間でイーサネット仮想回線を作成する方法を示しています。



(注) この設定例の IP アドレスは参照用です。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# interface ucse 2/0/0
Router(config-if)# no ip address
Router(config-if)# no negotiation auto
Router(config-if)# switchport mode trunk
Router(config-if)# service instance 10 ethernet
Router(config-if-srv)# encapsulation dot1q 10
Router(config-if-srv)# rewrite egress tag push dot1q 10
Router(config-if-srv)# bridge-domain 10
Router(config-if-srv)# exit
Router(config-if)# exit

Router(config)# interface BDI10
```

```
Router(config-if)# ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

Use the server's operating system to configure the E シリーズ サーバ's NIC interface.

```
Router# ping 192.168.1.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 192.168.1.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/1/2 ms
```

```
Router# show arp
Protocol Address Age (min) Hardware Addr Type Interface
Internet 192.168.1.1 - 0022.bdfb.2783 ARPA BDI10
Internet 192.168.1.2 1 0022.bde6.07b4 ARPA BDI10
```

```
Router# show bridge-domain 10
Bridge-domain 10 (2 ports in all)
State: UP Mac learning: Enabled
Aging-Timer: 300 second(s)
BDI10 (up)
ucse2/0/0 service instance 10
MAC address Policy Tag Age Pseudoport
0022.BDE6.07B4 forward dynamic 246 ucse2/0/0.EFP10
0022.BDFB.2783 to_bdi static 0 BDI10
```



(注) rewrite コマンドの詳細については、<http://www.cisco.com/en/US/docs/ios-xml/ios/cether/command/ce-cr-book.html>を参照してください。

Cisco ISR G2 と EHWIC E シリーズ NCE 間の内部接続の設定

アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックを Cisco ISR G2 経由にするには、次の設定を使用します。Cisco ISR G2 と EHWIC E シリーズ NCE間の内部接続を設定するには、これらの IP アドレスを設定する必要があります。

- トラフィックを EHWIC 接続経由にするには（次の図を参照）、次のように設定します。
 - ルータを EHWIC E シリーズ NCEの GE0 インターフェイスに接続するルータの内部 EHWIC インターフェイスの IP アドレス。
 - EHWIC E シリーズ NCEの GE0 インターフェイスの IP アドレス。
- トラフィックを MGF 接続経由にするには（次の図を参照）、次のように設定します。

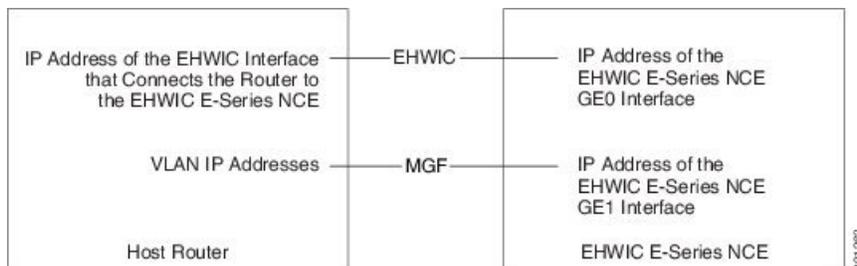


重要 MGF 接続オプションは、Cisco 1921 ISR G2 には適用されません。

- ルータの内部 MGF VLAN インターフェイスの IP アドレス。
- EHWIC E シリーズ NCEの GE1 インターフェイスの IP アドレス。

次の図は、ルータと EHWIC E シリーズ NCE間の内部接続を示しています。

図 44 : Cisco ISR G2 と EHWIC E シリーズ NCE 間の内部接続



手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface ucse0/subslot/0	ルータの EHWIC 0/subslot/0 インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • Router (config-if)# ip address router-to-e-series-server-interface-ip-address subnet-mask • Router (config-if)# ip unnumbered type number 	ip address コマンドで、ルータを EHWIC E シリーズ NCE の GE0 インターフェイスに接続する内部 PCIe インターフェイスの IP アドレスを指定します。上の図を参照してください。 または （任意）ip unnumbered コマンドは、インターフェイスに明示的な IP アドレスを割り当てずに、そのインターフェイス上での IP 処理をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスのタイプ。 • <i>number</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスの番号。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) アンナンバードインターフェイスは、一意である必要があります。番号付けされていない別のインターフェイスは指定できません。</p> <p>注意 <code>ip unnumbered</code> コマンドでは、デバイス間のポイントツーポイントインターフェイスが作成されます。ブロードキャストはサポートされません。</p>
ステップ 5	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 6	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	サーバのオペレーティングシステムを使用して EHWIC E シリーズ NCE の GE0 インターフェイスを設定します。上の図を参照してください。	—
ステップ 8	Router (config)# interface ucse0/subslot/1	<p>ルータの MGF 0/subslot/1 VLAN インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。上の図を参照してください。</p> <p>重要 この手順は、Cisco ISR 1921 には適用されません。</p>
ステップ 9	Router(config-if)# switchport mode trunk	ポートを永続的なトランキング モードにします。デフォルトの設定は、アクセス モードです。
ステップ 10	Router (config-if)# [switchport trunk allowed vlan vlan-numbers]	<p>(任意) 指定した VLAN 上でのトランキングを許可します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>vlan-numbers</code> : トランキングを許可する VLAN 数。
ステップ 11	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 12	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 13	Router (config)# interface vlan <i>vlan-number</i>	指定した VLAN 番号のインターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 14	Router (config-if)# ip address <i>vlan-ip-address subnet-mask</i>	VLAN の IP アドレスを指定します。上の図を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>vlan-ip-address</i> : VLAN の IP アドレス。 • <i>subnet-mask</i> : IP アドレスにアペンドするサブネットマスク。
ステップ 15	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 16	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 17	サーバのオペレーティングシステムを使用して EHWIC E シリーズ NCE の GE1 インターフェイスを設定します。上の図を参照してください。	重要 この手順は、Cisco 1921 ISR G2 には適用されません。

次の例は、ルータと EHWIC E シリーズ NCE 間の内部接続を設定する方法を示しています。



(注) この設定例の IP アドレスは参照用に示しただけなので、実際には有効でない可能性があります。

```
Router> enable
Router# configure terminal
```

```
Router(config)# interface ucse 0/1/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

Use the server's operating system to configure the E-Series Server's GE0 interface

```
Router(config)# interface ucse 0/1/1
Router(config-if)# switchport mode trunk
Router(config-if)# end
```

```
Router# configure terminal
Router(config)# interface vlan 1
Router(config-if)# ip address 20.0.0.1 255.255.255.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

Use the server's operating system to configure the E-Series Server's GE1 interface.

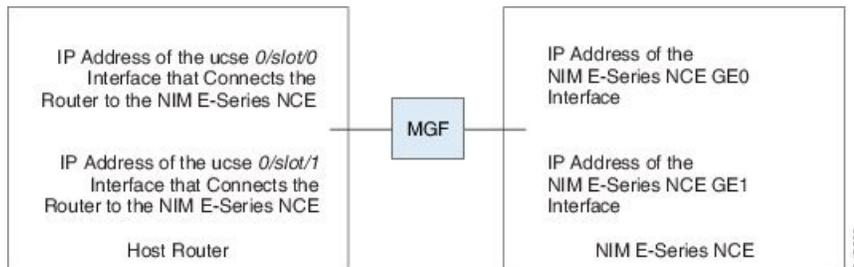
Cisco ISR 4000 シリーズと NIM E シリーズ NCE 間の内部接続の設定

アプリケーションまたはオペレーティングシステムに対するトラフィックを Cisco ISR 4000 シリーズ経由にする場合はこの設定を使用します。Cisco ISR 4000 シリーズと NIM E シリーズ NCE間に内部接続を設定するには、これらの IP アドレスを設定する必要があります。

- ルータの `ucse 0/subslot/0` とサーバの内部 GE0 インターフェイスを経由するトラフィック（次の図を参照）では、次のように設定します。
 - ルータをサーバの GE0 インターフェイスに接続する、ルータの `ucse 0/subslot/0` インターフェイスの IP アドレス。
 - サーバの GE0 インターフェイスの IP アドレス。
- ルータの `ucse 0/subslot/1` とサーバの内部 GE1 インターフェイスを経由するトラフィック（次の図を参照）では、次のように設定します。
 - ルータの `ucse 0/subslot/1` インターフェイスの IP アドレス。
 - サーバの GE1 インターフェイスの IP アドレス。

次の図は、ルータとサーバ間の内部接続を示しています。

図 45: Cisco ISR 4000 シリーズと NIM E シリーズ NCE間の内部接続



手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	Router (config)# interface ucse 0/subslot/0	ルータの ucse 0/subslot/0 インターフェイスのインターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • Router (config-if)# ip address <i>router-to-e-series-server-interface-ip-address</i> <i>subnet-mask</i> • Router (config-if)# ip unnumbered type <i>number</i> 	ルータをサーバの GE0 インターフェイスに接続する、ルータの ucse 0/subslot/0 インターフェイスの IP アドレスを指定します。上の図を参照してください。 または (任意) ip unnumbered コマンドは、インターフェイスに明示的な IP アドレスを割り当てずに、そのインターフェイス上での IP 処理をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスのタイプ。 • <i>number</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスの番号。 (注) アンナンバードインターフェイスは、一意である必要があります。番号付けされていない別のインターフェイスは指定できません。 注意 ip unnumbered コマンドでは、デバイス間のポイントツーポイントインターフェイスが作成されます。ブロードキャストはサポートされません。
ステップ 5	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 6	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 7	サーバのオペレーティングシステムを使用してサーバの GE0 インターフェイスを設定します。上の図を参照してください。	—

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	Router (config)# interface ucse 0/subslot/1	ルータの ucse 0/subslot/1 インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 10	Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 11	サーバのオペレーティングシステムを使用してサーバの GE1 インターフェイスを設定します。上の図を参照してください。	—

次の例は、ルータと NIM E シリーズ NCE間の内部接続を設定する方法を示しています。



(注) この設定例の IP アドレスは参照用に示しただけなので、実際には有効でない可能性があります。

```
Router> enable
Router# configure terminal

Router(config)# interface ucse 0/1/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end

Use the server's operating system to configure the NIM E-Series NCE's GE0 interface.

Router(config)# interface ucse 0/1/1
Router(config-if)# ip address 11.0.0.1 255.255.255.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end

Use the server's operating system to configure the NIM E-Series NCE's GE1 interface.
```

ネイティブ VLAN による NIM E シリーズ NCE と Cisco ISR 4000 シリーズ間のイーサネット仮想回線の作成

選択したデータをカプセル化し、E シリーズ サーバにインストールされたオペレーティングシステムまたはインストールされたハイパーバイザで作成された仮想マシンに転送するためにネイティブ VLAN を追加している場合は、この手順を使用します。

はじめる前に

Cisco ISR 4000 シリーズ と NIM E シリーズ NCE間の内部接続を設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface ucse 0/subslot/0	ルータの 0/subslot/0 インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router (config-if)# service instance idethernet	インターフェイスでイーサネット サービス インスタンスを設定し、イーサネット サービス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	Router (config-if-srv)# encapsulation encapsulation-type vlan-id	カプセル化タイプを定義します。
ステップ 6	Router (config-if-srv)# bridge-domain bridge-id	ブリッジ ドメインを設定します。
ステップ 7	Router (config-if-srv)# exit	イーサネット サービス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 8	Router (config-if)# interface BDI bridge-id	ブリッジドメインインターフェイスを入力します。
ステップ 9	Router (config-if)# ip address bdi-interface-ip-address	BDI インターフェイスの IP アドレスを指定します。
ステップ 10	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。
ステップ 11	Router(config-if)# end	ホスト ルータのグローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 12	サーバのオペレーティング システムを使用して NIM E シリーズ NCEの GE0 インターフェイスを設定します。	—

この例は、ネイティブ VLAN を使用して NIM E シリーズ NCE と Cisco ISR 4000 シリーズ間でイーサネット仮想回線を作成する方法を示しています。



(注) この設定例の IP アドレスは参照用です。

```
Router> enable
Router# configure terminal

Router(config)# interface ucse 0/1/0
Router(config-if)# service instance 1 ethernet
Router(config-if-srv)# encapsulation untagged
Router(config-if-srv)# bridge-domain 1
Router(config-if-srv)# exit
Router(config-if)# exit

Router(config-if)# interface BDI 1
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

Use the server's operating system to configure the NIM E-Series NCE's GE0 interface.

非ネイティブ VLAN による NIM E シリーズ NCE と Cisco ISR 4000 シリーズ間のイーサネット仮想回線の作成

選択したデータをカプセル化し、NIM E シリーズ NCE にインストールされたオペレーティングシステムまたはインストールされたハイパーバイザで作成された仮想マシンに転送するために非ネイティブ VLAN を追加している場合は、この手順を使用します。

はじめる前に

Cisco ISR 4000 シリーズと NIM E シリーズ NCE間の内部接続を設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	Router# configure terminal	ホスト ルータでグローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# interface ucse 0/subslot0	ルータの ucse 0/subslot0 インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	Router(config-if)# no ip address	IP アドレスを削除するか、IP 処理をディセーブルにします。
ステップ 5	Router(config-if)# no negotiation auto	インターフェイスの自動ネゴシエーションを無効にします。
ステップ 6	Router(config-if)# switchport mode trunk	ポートを永続的なトランキング モードにします。
ステップ 7	Router (config-if)# service instance idethernet	インターフェイスでイーサネット サービス インスタンスを設定し、イーサネット サービス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	Router (config-if-srv)# encapsulation dot1q encapsulation-type vlan-id	カプセル化タイプを定義します。
ステップ 9	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> Router (config-if-srv)# rewrite egress tag push dot1q encapsulation-type vlan-id Router (config-if-srv)# rewrite ingress tag pop 1 symmetric encapsulation-type vlan-id 	<ul style="list-style-type: none"> rewrite egress tag push dot1q コマンドは、カプセル化の調整がサービス インスタンスの終端となるフレーム上で実行されるように指定します。 rewrite ingress tag pop 1 symmetric コマンドは、カプセル化の調整がサービス インスタンスの始端となるフレーム上で実行されるように指定します。
ステップ 10	Router (config-if-srv)# bridge-domain bridge-id	ブリッジ ドメインを設定します。
ステップ 11	Router (config-if-srv)# exit	イーサネット サービス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 12	Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 13	Router (config)# interface BDI bridge-id	ブリッジ ドメイン インターフェイスを入力します。
ステップ 14	Router (config-if)# ip address bdi-interface-ip-address	BDI インターフェイスの IP アドレスを指定します。
ステップ 15	Router(config-if)# no shut	インターフェイスが管理上のアップ状態になります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 16	Router(config-if)# end	ホストルータのグローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 17	サーバのオペレーティング システムを使用して NIM E シリーズ NCE の NIC インターフェイスを設定します。	—
ステップ 18	Router# ping server's-NIC-interface	NIM E シリーズ NCE の NIC インターフェイスとの接続が確立されているかどうかを示します。
ステップ 19	Router# show arp	Access Resolution Protocol (ARP) キャッシュを表示します。
ステップ 20	Router# show bridge-domain bridge-id	ブリッジドメインの情報を表示します。

次の例は、非ネイティブ VLAN を使用して NIM E シリーズ NCE と Cisco ISR 4000 シリーズ間でイーサネット仮想回線を作成する方法を示しています。



(注) この設定例の IP アドレスは参照用です。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# interface ucse 0/1/0
Router(config-if)# no ip address
Router(config-if)# no negotiation auto
Router(config-if)# switchport mode trunk
Router(config-if)# service instance 10 ethernet
Router(config-if-srv)# encapsulation dot1q 10
Router(config-if-srv)# rewrite egress tag push dot1q 10
Router(config-if-srv)# bridge-domain 10
Router(config-if-srv)# exit
Router(config-if)# exit
```

```
Router(config)# interface BDI10
Router(config-if)# ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
Router(config-if)# no shut
Router(config-if)# end
```

Use the server's operating system to configure the NIM E シリーズ NCE's NIC interface.

```
Router# ping 192.168.1.2
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 192.168.1.2, timeout is 2 seconds:
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/1/2 ms
```

```
Router# show arp
Protocol Address Age (min) Hardware Addr Type Interface
Internet 192.168.1.1 - 0022.bdfb.2783 ARPA BDI10
Internet 192.168.1.2 1 0022.bde6.07b4 ARPA BDI10
```

```

Router# show bridge-domain 10
Bridge-domain 10 (2 ports in all)
State: UP                               Mac learning: Enabled
Aging-Timer: 300 second(s)
  BDI10 (up)
  ucse2/0/0 service instance 10
MAC address      Policy Tag      Age Pseudoport
0022.BDE6.07B4 forward dynamic 246 ucse2/0/0.EFP10
0022.BDFB.2783 to_bdi static 0 BDI10

```



(注) rewrite コマンドの詳細については、<http://www.cisco.com/en/US/docs/ios-xml/ios/cether/command/ce-cr-book.html>を参照してください。

ネットワーク インターフェイス マッピングの概要

このセクションでは、次のデバイスのネットワーク インターフェイス マッピングを決定する方法について説明します。

- E シリーズ サーバの GE0、GE1、GE2、および GE3 インターフェイス : Cisco ISR G2
- E シリーズ サーバの GE0、GE1、GE2、および GE3 インターフェイス : Cisco ISR 4000 シリーズ
- EHWIC E シリーズ NCEの GE0、GE1、および GE2 インターフェイス : Cisco ISR G2
- NIM E シリーズ NCEの GE0、GE1、および GE2 インターフェイス : Cisco ISR 4000 シリーズ
- NetXtreme II 1 Gigabit Server (PCIe カード)
- NetXtreme II 10 Gigabit Server (PCIe カード)

E シリーズ サーバの GE0、GE1、GE2、および GE3 インターフェイス用のネットワーク インターフェイス マッピングの決定 : Cisco ISR G2

ネットワーク インターフェイスの MAC アドレスを見ると、E シリーズ サーバのポートの番号付けを決定できます。次の点に注意してください。

- 番号が最も小さい MAC アドレスは、E シリーズ サーバの GE0 インターフェイスに対応します。
- 2 番目に小さい MAC アドレスは、E シリーズ サーバの GE1 インターフェイスです。
- 3 番目に小さい MAC アドレスは、E シリーズ サーバの GE2 インターフェイスです。
- 4 番目に小さい MAC アドレスは、E シリーズ サーバの GE3 インターフェイスです。



- (注) インターフェイスの MAC アドレスを決定するには、[Microsoft Windows、Linux、および VMware vSphere Hypervisor の MAC アドレスの決定](#)、(148 ページ)、または適切なプラットフォームのドキュメントを参照してください。

E シリーズ サーバの GE0、GE1、GE2、および GE3 インターフェイスのネットワーク インターフェイス マッピングの決定 : Cisco ISR 4000 シリーズ

ネットワーク インターフェイスの MAC アドレスを見ると、E シリーズ サーバのポートの番号付けを決定できます。次の点に注意してください。

- 番号が最も小さい MAC アドレスは、E シリーズ サーバの GE0 インターフェイスに対応します。
- 2 番目に小さい MAC アドレスは、E シリーズ サーバの GE1 インターフェイスです。
- 3 番目に小さい MAC アドレスは、E シリーズ サーバの GE2 インターフェイスです。
- 4 番目に小さい MAC アドレスは、E シリーズ サーバの GE3 インターフェイスです。



- (注) インターフェイスの MAC アドレスを決定するには、[Microsoft Windows、Linux、および VMware vSphere Hypervisor の MAC アドレスの決定](#)、(148 ページ)、または適切なプラットフォームのドキュメントを参照してください。

EHWIC E シリーズ NCE の GE0、GE1、GE2 インターフェイス用のネットワーク インターフェイス マッピングの決定 : Cisco ISR G2

ネットワーク インターフェイスの MAC アドレスを見ると、EHWIC E シリーズ NCE のポートの番号付けを決定できます。次の点に注意してください。

- 番号が最も小さい MAC アドレスは、EHWIC E シリーズ NCE の GE0 インターフェイスに対応します。
- 2 番目に小さい MAC アドレスは、EHWIC E シリーズ NCE の GE1 インターフェイスです。
- 3 番目に小さい MAC アドレスは、EHWIC E シリーズ NCE の GE2 インターフェイスです。



- (注) インターフェイスの MAC アドレスを決定するには、[Microsoft Windows、Linux、および VMware vSphere Hypervisor の MAC アドレスの決定](#)、(148 ページ)、または適切なプラットフォームのドキュメントを参照してください。

NIM E シリーズ NCE の GE0、GE1、および GE2 インターフェイスのネットワーク インターフェイス マッピングの決定 : Cisco ISR 4000 シリーズ

ネットワーク インターフェイスの MAC アドレスを見ると、NIM E シリーズ NCE のポートの番号付けを決定できます。次の点に注意してください。

- 番号が最も小さい MAC アドレスは、NIM E シリーズ NCE の GE0 インターフェイスに対応します。
- 2 番目に小さい MAC アドレスは、NIM E シリーズ NCE の GE1 インターフェイスです。
- 3 番目に小さい MAC アドレスは、NIM E シリーズ NCE の GE2 インターフェイスです。



- (注) インターフェイスの MAC アドレスを決定するには、[Microsoft Windows、Linux、および VMware vSphere Hypervisor の MAC アドレスの決定 \(148 ページ\)](#)、または適切なプラットフォームのドキュメントを参照してください。

NetXtreme II 1 Gigabit Server のインターフェイス名とポート マッピングの決定

NetXtreme II 1 Gigabit Server (PCIe カード) のインターフェイス名とポート番号のマッピングを決定するには、次の操作を実行します。

- 1 ネットワーク ケーブルを使用して外部ネットワーク デバイスに PCIe カードのポート 0 を接続します。
- 2 ホスト オペレーティング システムからインターフェイスのステータスをチェックし、接続されているインターフェイスを確認します。
- 3 ポート 1、2、3 に対して手順 2 を繰り返します。



- (注) インターフェイスのステータスを確認する方法については、適切なオペレーティング システムのドキュメントを参照してください。

NetXtreme II 10 Gigabit Server のインターフェイス名とポート マッピングの決定



- (注) NetXtreme II 10 Gigabit Server (PCIe カード) では 1 つのポートのみイーネブルになっています。

NetXtreme II 10 Gigabit Server (PCIe カード) のインターフェイス名とポート番号のマッピングを決定するには、次の操作を実行します。

- 1 ネットワーク ケーブルを使用して外部ネットワーク デバイスに PCIe カードのポート 0 を接続します。

- 2 ホストオペレーティングシステムからインターフェイスのステータスをチェックし、接続されているインターフェイスを確認します。



(注) インターフェイスのステータスを確認する方法については、適切なオペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

Microsoft Windows、Linux、および VMware vSphere Hypervisor の MAC アドレスの決定

Microsoft Windows オペレーティングシステムの MAC アドレスの決定

Microsoft Windows オペレーティングシステムのインターフェイスの MAC アドレスを決定するには、コマンドウィンドウを開き、`ipconfig /all` コマンドを入力します。

Linux オペレーティングシステムの MAC アドレスの決定

Linux オペレーティングシステムでインターフェイスの MAC アドレスを決定するには、ターミナルウィンドウを開き、`ifconfig -a` コマンドを入力してすべてのインターフェイスの MAC アドレスを表示するか、`ifconfig interface-name` コマンドを入力して特定のインターフェイスの MAC アドレスを表示します。

VMware vSphere Hypervisor の MAC アドレスの決定

VMware vSphere Hypervisor のインターフェイスの MAC アドレスを決定するには、次の操作を実行します。

- 1 Web ブラウザで、最初のセットアップ時に CIMC にアクセスするために設定した IP アドレスを入力して、CIMC にログインします。
CIMC のホーム ページである [Server Summary] ページが表示されます。
- 2 [Server Summary] ページの [Actions] 領域にある [Launch KVM Console] アイコンをクリックします。
[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。
- 3 [KVM Console] で [KVM] タブをクリックし、次の操作を実行します。
 - F2 を押して VMware vSphere Hypervisor の DCUI カスタマイズメニューにアクセスします。[DCUI] ログイン ページが表示されます。
 - [DCUI] にログインします。[System Customization] ページが表示されます。
 - [System Customization] ページの [Configure Management Network] をクリックします。

[Configure Management Network] ページが表示されます。このページには、[Network Adapter] などいくつかのメニュー オプションがあります。[Network Adapter] メニュー オプションを使用すると、インターフェイスの MAC アドレスを表示できます。

UCS E シリーズ M3 サーバ : ESXi VMNIC インターフェイス番号の順序変更 (サーバの最も小さい MAC アドレスから順に)

Cisco UCS E シリーズ M3 サーバでは、VMware vSphere Hypervisor DCUI VMNIC インターフェイスの順序付けが、サーバの最も小さい MAC アドレスにマッピングされません。M3 サーバに ESXi をインストールすると、デフォルトの DCUI VMNIC インターフェイスの順序付けとサーバの NIC インターフェイスのマッピングは次のようになります。

~ Name	MAC Address	UCS-E160S-M3 NIC	Description
vmnic0 10GBASE-T	a8:9d:21:fc:61:12	TE2	Intel(R) Ethernet Connection X552/X557-AT
vmnic1 10GBASE-T	a8:9d:21:fc:61:13	TE3	Intel(R) Ethernet Connection X552/X557-AT
vmnic2 Ethernet	a8:9d:21:fc:61:10	GE0	Broadcom Corporation NetXtreme BCM5719 Gigabit Ethernet
vmnic3 Ethernet	a8:9d:21:fc:61:11	GE1	Broadcom Corporation NetXtreme BCM5719 Gigabit Ethernet

VMNIC インターフェイスの順序付けがサーバの最も小さい MAC アドレスから開始されるようにするには、次の手順に従います。

- 1 ESXi で SSH とシェル アクセスを有効にします。
- 2 SSH で ESXi にログインします。
- 3 `esxcli network nic list` コマンドを使用して、VMNIC 番号とその対応する MAC アドレスを表示します。
- 4 `localcli --plugin-dir /usr/lib/vmware/esxcli/int/deviceInternal alias list` コマンドを使用して、バスアドレスと VMNIC 番号マッピングを表示します。
- 5 `localcli` コマンドを使用して、VMNIC 番号を最も小さい MAC アドレスを持つバスアドレスに再マップします。
- 6 ESXi を再起動します。
- 7 SSH で ESXi にログインして変更を確認します。

次の例は、VMNIC 番号とその MAC アドレスを表示する方法を示しています。

```
~ # esxcli network nic list
Name      PCI Device      Driver  Link  Speed  Duplex  MAC Address      MTU  Description
-----
vmnic0    0000:004:00.0   ixgbe  Up    1000   Full    a8:9d:21:fc:61:12  1500 Intel(R)
Ethernet Connection X552/X557-AT 10GBASE-T
vmnic1    0000:004:00.1   ixgbe  Up    1000   Full    a8:9d:21:fc:61:13  1500 Intel(R)
Ethernet Connection X552/X557-AT 10GBASE-T
vmnic2    0000:008:00.0   tg3    Up    1000   Full    a8:9d:21:fc:61:10  1500 Broadcom
Corporation NetXtreme BCM5719 Gigabit Ethernet
vmnic3    0000:008:00.1   tg3    Up    1000   Full    a8:9d:21:fc:61:11  1500 Broadcom
Corporation NetXtreme BCM5719 Gigabit Ethernet
```

次の例は、バスアドレスと VMNIC 名のマッピングを表示する方法を示しています。

```
~ # localcli --plugin-dir /usr/lib/vmware/esxcli/int/ deviceInternal alias list
Bus type  Bus address      Alias
-----
pci       p0000:06:00.0    vmhba0
pci       p0000:08:00.0    vmnic2
pci       p0000:08:00.1    vmnic3
pci       p0000:04:00.1    vmnic1
pci       p0000:04:00.0    vmnic0
logical   pci#p0000:06:00.0#0 vmhba0
```

次の例は、VMNIC 番号を、最も小さい MAC アドレスを持つバスアドレスに再マップする方法を示しています。

```
~ # localcli --plugin-dir /usr/lib/vmware/esxcli/int/ deviceInternal alias store --alias
vmnic0 --bus-address p0000:08:00.0 --bus-type pci
~ # localcli --plugin-dir /usr/lib/vmware/esxcli/int/ deviceInternal alias store --alias
vmnic1 --bus-address p0000:08:00.1 --bus-type pci
~ # localcli --plugin-dir /usr/lib/vmware/esxcli/int/ deviceInternal alias store --alias
vmnic2 --bus-address p0000:04:00.0 --bus-type pci
~ # localcli --plugin-dir /usr/lib/vmware/esxcli/int/ deviceInternal alias store --alias
vmnic3 --bus-address p0000:04:00.1 --bus-type pci
~ # reboot
```

次の例は、再起動後に VMNIC のインターフェイスの順序がどのように表示されるかを示しています。VMNIC インターフェイス番号は、最も小さい MAC アドレスが先頭になります。

```
~ # esxcli network nic list
Name      PCI Device      Driver  Link  Speed  Duplex  MAC Address      MTU  Description
-----
vmnic0    0000:008:00.0   tg3     Up    1000   Full    a8:9d:21:fc:61:10 1500  Broadcom
Corporation NetXtreme BCM5719 Gigabit Ethernet
vmnic1    0000:008:00.1   tg3     Up    1000   Full    a8:9d:21:fc:61:11 1500  Broadcom
Corporation NetXtreme BCM5719 Gigabit Ethernet
vmnic2    0000:004:00.0   ixgbe   Up    1000   Full    a8:9d:21:fc:61:12 1500  Intel(R)
Ethernet Connection X552/X557-AT 10GBASE-T
vmnic3    0000:004:00.1   ixgbe   Up    1000   Full    a8:9d:21:fc:61:13 1500  Intel(R)
Ethernet Connection X552/X557-AT 10GBASE-T
~ # localcli --plugin-dir /usr/lib/vmware/esxcli/int/ deviceInternal alias list
Bus type  Bus address      Alias
-----
pci       p0000:06:00.0    vmhba0
pci       p0000:08:00.0    vmnic0
pci       p0000:08:00.1    vmnic1
pci       p0000:04:00.1    vmnic3
pci       p0000:04:00.0    vmnic2
logical   pci#p0000:06:00.0#0 vmhba0
~ #
```



第 9 章

ファームウェアのアップグレード

この章は、次の項で構成されています。

- [ファームウェアのアップグレードのオプション](#), 151 ページ
- [Cisco Host Upgrade Utility の概要](#), 152 ページ
- [HUU を使用するために必要な CIMC および BIOS ファームウェアの最小リリース](#), 153 ページ
- [HUU ISO イメージで使用できる CIMC および BIOS ファームウェア リリース](#), 153 ページ
- [HUU ユーザ インターフェイスについて](#), 155 ページ
- [ファームウェアのアップグレード](#), 157 ページ
- [トラブルシューティング](#), 161 ページ

ファームウェアのアップグレードのオプション

ファームウェア コンポーネントは、Cisco Host Upgrade Utility (HUU) を使用してアップグレードすることも手動でアップグレードすることもできます。

- HUU : すべてのファームウェア コンポーネントのアップグレードに CIMC および BIOS ファームウェアを含む HUU ISO ファイルを使用することを推奨します。



(注) HUU を使用して Programmable Logic Devices (PLD) ファームウェアをアップグレードすることはできません。PLD ファームウェアをアップグレードするには Cisco IOS CLI を使用する必要があります。詳細については、『*CLI Configuration Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine*』の「Upgrading Programmable Logic Devices Firmware on the E-Series EHWIC NCE」の項を参照してください。

- 手動によるアップグレード：BIOS および CIMC のファームウェアを手動でアップグレードするには、シスコからファームウェアを取得し、CIMC GUI または CIMC CLI を使ってアップグレードする必要があります。ファームウェアのアップグレード後、システムを再起動します。

シスコからファームウェアを取得する手順、および CIMC と BIOS のファームウェア インストール手順については、使用している CIMC のバージョンの設定ガイドの「ファームウェア管理」の章を参照してください。構成ガイドは次の URL で入手できます。http://www.cisco.com/en/US/products/ps12629/products_installation_and_configuration_guides_list.html

Cisco Host Upgrade Utility の概要

Cisco Host Upgrade Utility (HUU) は Cisco UCS E-Series Servers (E シリーズ サーバ) および Cisco UCS E シリーズ ネットワーク コンピュート エンジン (NCE) のファームウェアのアップグレードに使用するツールです。HUU は Web ベースの GUI を使用して、すべてまたは特定のファームウェア コンポーネントを選択してアップグレードできます。

次のファームウェア コンポーネントはアップグレードに使用可能です。

- Cisco Integrated Management Controller (CIMC)
- システム BIOS
- LAN On Motherboard (LOM)
- RAID コントローラ
- Broadcom PCI アダプタ
 - 5709 デュアルおよびクアドポート アダプタ
 - 57712 デュアルポート アダプタ
- LSI
 - LSI MegaRAID SAS 9240-4i



(注) Cisco UCS E シリーズサーバは、RAID_SD0_1 への HUU ログの保存はサポートしていません。

HUU を使用して Programmable Logic Devices (PLD) ファームウェアをアップグレードすることはできません。PLD ファームウェアをアップグレードするには Cisco IOS CLI を使用する必要があります。詳細については、『*CLI Configuration Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine*』の「Upgrading Programmable Logic Devices Firmware on the E-Series EHWIC NCE」の項を参照してください。

HUU を使用するために必要な CIMC および BIOS ファームウェアの最小リリース

HUU は、CIMC のリリース 2.1.0 以降のリリースでサポートされます。HUU を使用するには、CIMC および BIOS のファームウェアが、次の表に指定されているリリースにアップグレードされていることを確認します。



(注) HUU は CIMC リリース 1.0 および 1.0(2) ではサポートされていません。CIMC のリリースが古いサーバで HUU を使用しようとする、ファームウェアをアップグレードするように求めるエラーメッセージが表示されます。

次の表に、HUU を使用するために必要な CIMC と BIOS の最小リリースに関する情報を示します。

表 7: HUU を使用するために必要な CIMC および BIOS ファームウェアの最小リリース

CIMC の最小リリース	BIOS の最小リリース
2.1.0	1.5.0.2

HUU ISO イメージで使用できる CIMC および BIOS ファームウェア リリース

次の表に、個々の HUU ISO イメージをインストールする際にアップグレード可能な CIMC および BIOS ファームウェア リリースを示します。



(注) 互換性のある CIMC、BIOS、および HUU リリースに関する最新情報については、『*Getting Started Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine*』の「Upgrading Firmware」の章を参照してください。

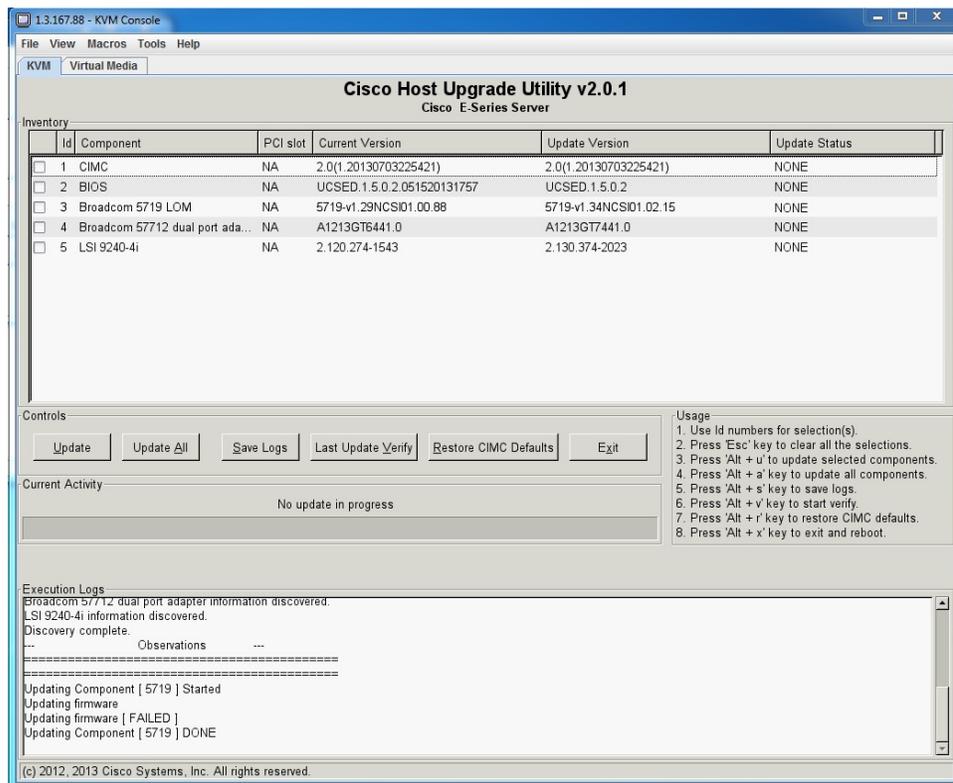
表 8: HUU ISO イメージで使用できる CIMC および BIOS ファームウェア リリース

HUU ISO イメージ	CIMC リリースを含む	BIOS リリースを含む
2.1.x	2.1.0	1.5.0.2

HUU ISO イメージ	CIMC リリースを含む	BIOS リリースを含む
2.3.1	2.3.1	1.5.0.2 2.5.0.1 : ダブル幅の E シリーズ サーバ (UCS-E160D-M2 と UCS-E180D-M2) にのみ適用可能。
2.4.1	2.4.1	2.5.0.1
3.0.1	3.0.1	<ul style="list-style-type: none"> • 1.5.0.3 : EHWIC E シリーズ NCE と NIM E シリーズ NCE (UCS-EN120E と UCS-EN140N-M2) に適用可能 (ビルド日 : 2015 年 5 月 4 日)。 • 1.5.0.2 : SM E シリーズ NCE (UCS-EN120S-M2) に適用可能 (ビルド日 : 2013 年 10 月 22 日)。 • 1.5.0.2 : シングル幅の E シリーズ サーバ (UCS-E140S-M1) に適用可能 (ビルド日 : 2013 年 5 月 15 日)。 • 1.5.0.3 : シングル幅の E シリーズ サーバ (UCS-E140S-M2) に適用可能 (ビルド日 : 2015 年 4 月 22 日)。 • 1.5.0.3 : すべてのダブル幅の E シリーズ サーバに適用可能 (ビルド日 : 2015 年 4 月 10 日)。

HUU ユーザ インターフェイスについて

図 46: HUU ユーザ インターフェイス



ユーザ インターフェイス名	説明
[Id] 列	[component] 列のシリアル番号が表示されます。
[component] 列	アップグレードに使用できるファームウェア コンポーネントを示します。
[PCI Slot] カラム	PCI アダプタ コンポーネントの PCI スロット情報が表示されます。
[Current Version] 列	リストされたコンポーネントごとに、インストールされている現在のファームウェアのバージョン番号を表示します。
[Update Version] 列	リストされたコンポーネントごとに、アップグレードに使用できるファームウェアのバージョン番号を表示します。

ユーザ インターフェイス名	説明
[Update Status] カラム	更新の進行中に、リストされたコンポーネントごとに更新の状態を表示します。
[Update] ボタン	選択したコンポーネントのファームウェアの更新を開始します。
[Update All] ボタン	すべてのコンポーネントのファームウェアの更新を開始します。
[Save Logs] ボタン	ログ ファイルを保存します。 ファームウェアの更新中にエラーが発生すると、エラーログを保存するよう求められます。接続された外部 USB にエラー ログを保存する場合は、[Save logs] ボタンをクリックします。このログは、エラーの原因の特定とトラブルシューティングに使用できます。
[Last Update Verify] ボタン	更新が成功したかどうかを確認します。 (注) 最新の更新を確認するには、[Exit] ボタンをクリックして HUU を再起動し、[Last Update Verify] ボタンをクリックします。
[Restore CIMC Defaults] ボタン	工場出荷時設定に CIMC 設定を復元します。
[Exit] ボタン	HUU を終了します。確認プロンプトで [Yes] をクリックし、終了します。 <ul style="list-style-type: none"> • CIMC を更新し、BIOS を更新しない場合は、[Exit] ボタンをクリックすると、CIMC はアクティブになりますが、CIMC と KVM への接続が切断されます。 • 更新用に LOM を選択しており、Shared LOM モードである場合は、[Exit] ボタンをクリックすると CIMC と KVM への接続が切断されます。
[Usage] 領域	特定のタスクの実行に使用できるキーボードショートカットを表示します。
[Current Activity] 領域	更新の状態を表示します。

ユーザインターフェイス名	説明
[Execution Logs] 領域	更新が進行中の間、アクティビティや状態のログを表示します。

ファームウェアのアップグレード

HUU を使用するための基本的なワークフロー

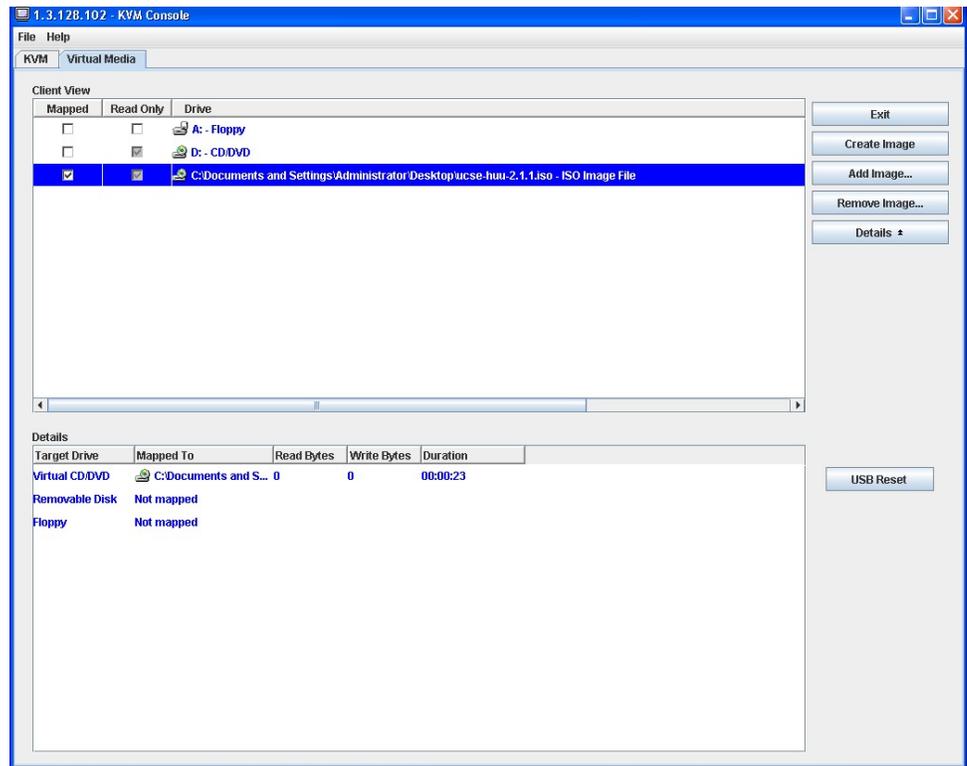
- 1 Cisco.com から HUU ISO イメージをダウンロードします。
- 2 KVM コンソールまたは CIMC CLI を使用して HUU ISO イメージをマッピングします。
- 3 仮想 CD/DVD ドライブがブート デバイスになるように、ブート順を設定します。
- 4 HUU GUI から、すべてまたは更新する特定のファームウェア コンポーネントを選択します。
- 5 ファームウェアの更新後、[Exit] をクリックして HUU を再起動します。
- 6 HUU ISO イメージのマッピングを解除します。
- 7 サーバをリブートします。

HUU によるファームウェアのアップグレード

手順

-
- ステップ 1 <http://www.cisco.com/> を参照します。
 - ステップ 2 まだログインしていない場合は、ページの右上隅にある [Log In] をクリックし、Cisco.com の資格情報を使用してログインします。
 - ステップ 3 上部のメニュー バーで、[Support] をクリックします。
ロールダウン メニューが表示されます。
 - ステップ 4 [Downloads] (中央) ペインから、[All Downloads] (右下隅) をクリックします。
[Download Software] ページが表示されます。
 - ステップ 5 左ペインから、[Products] をクリックします。
 - ステップ 6 中心のペインで、[Servers—Unified Computing] をクリックします。
 - ステップ 7 右ペインから、[Cisco UCS E-Series Software] をクリックします。
 - ステップ 8 右ペインから、ダウンロードするソフトウェアのサーバ モデルの名前をクリックします。
[Download Software] ページが表示されます。

- ステップ 9** [Unified Computing System (UCSE) Server Firmware] をクリックします。
- ステップ 10** Cisco UCS Host Upgrade Utility ISO イメージに関連付けられた [Download] ボタンをクリックし、PC にイメージをダウンロードします。
[End User License Agreement] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 11** [Accept License Agreement] をクリックします。
- ステップ 12** [Opening *ucse-server-platform-huu.iso*] ダイアログボックスが開きます。
ファイルを開くか、HUU ISO イメージの保存場所を参照し、[OK] をクリックします。
- ステップ 13** HUU ISO イメージをマッピングするには、KVM コンソールまたは CIMC CLI を使用します。
- KVM コンソールを使用するには、次を実行します。
 - 1 ブラウザを使用して、アップグレードするサーバの CIMC GUI に接続します。
 - 2 ブラウザのアドレス フィールドに、サーバの CIMC の IP アドレスを入力し、CIMC GUI にログインするためのユーザ名とパスワードを入力します。
 - 3 ツールバーの [Launch KVM Console] アイコンをクリックします。[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。
 - 4 KVM コンソールから、[Virtual Media] タブをクリックします。
 - 5 [Add Image] をクリックし、Host Upgrade Utility ISO に移動して選択し、[Open] をクリックしてイメージをマウントします。
 - 6 [Client View] 領域の [Mapped] 列で、マウントした ISO イメージのチェックボックスをオンにします。

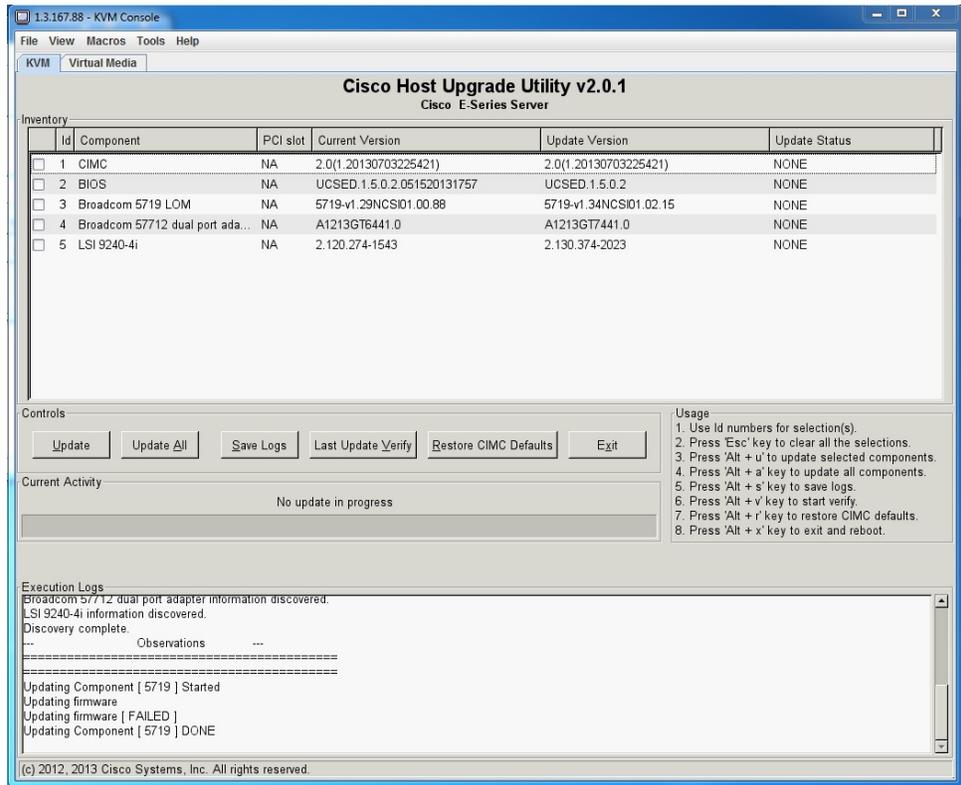


- CIMC CLI を使用するには、ISO イメージを FTP または TFTP サーバにダウンロードし、次のコマンドを使用します。

- 1 Server# scope host-image-mapping.
- 2 Server/host-image-mapping # download-image *protocol server-ip-address huu-ISO-filename*
- 3 Server/host-image-mapping # map-image *huu-ISO-filename*.

```
Server# scope host-image-mapping
Server/host-image-mapping # download-image ftp 10.20.34.56 2.1.1.iso
Username: anonymous
Password:
Image download has started.
Please check the status using "show detail".
Server/host-image-mapping # map-image 2.1.1.iso
```

- ステップ 14** イメージがマッピングされたら、仮想 CD/DVD ドライブが起動デバイスになるようにブート順序を設定します。
- ステップ 15** サーバをリブートします。
- ステップ 16** CIMC GUI から、ツールバーの [Launch KVM Console] アイコンをクリックします。HUU および [Cisco Software License Agreement] ページが表示されます。
- ステップ 17** [I agree] をクリックし、ライセンス使用条件に同意します。
Cisco Host Upgrade Utility GUI が表示され、更新に使用できるコンポーネントのリストが表示されます。



ステップ 18 次のいずれかを実行します。

- 表示されたすべてのコンポーネントを更新するには、[Update all] をクリックします。
- 特定のコンポーネントを更新するには、コンポーネントを選択し、[Update] をクリックします。

更新の状態が [Update Status] 列に表示されます。更新状態の詳細を照会するには、[Execution Logs] 領域を確認します。

(注) BIOS および CIMC ファームウェアを常に同時に更新することを推奨します。

ステップ 19 ファームウェアを更新したら、[Exit] をクリックし、確認プロンプトで [OK] をクリックします。HUU が再起動します。

- 重要**
- BIOS ファームウェアの更新を選択した場合、ホストの電源をオフにする必要があるため、最後に更新されます。CIMC GUI または CIMC CLI から BIOS 更新の進行状況を確認できます。BIOS の更新が完了したら、CIMC GUI または CIMC CLI を使用して手動でホストの電源をオンにする必要があります。
 - CIMC ファームウェアの更新を選択した場合、HUU GUI の [Exit] ボタンをクリックした後に、新しい CIMC ファームウェアが自動的にアクティブになります。ただし、BIOS ファームウェアと CIMC ファームウェアの更新を同時に選択した場合は、CIMC ファームウェアは自動的にアクティブになりません。CIMC GUI または CIMC CLI を使用して、手動で新しい CIMC ファームウェアをアクティブにする必要があります。
 - 新しい CIMC ファームウェアがアクティブになると、CIMC GUI、CIMC CLI、および仮想 KVM へのネットワーク接続が失われます。また、マッピングされていた HUU ISO イメージのマッピングが解除されます。HUU を実行するには、HUU ISO イメージを再度マッピングします。
 - LOM ファームウェアを更新した場合、CIMC GUI および仮想 KVM へのネットワーク接続が失われることがあります。

ステップ 20 HUU ISO イメージのマッピングを解除します。次のいずれかを実行します。

- CIMC GUI から、ツールバーの [Launch KVM Console] アイコンをクリックし、[Mapped] 列で、マッピングされた HUU ISO イメージのチェックボックスをオンにし、[Remove Image] をクリックします。
- CIMC CLI で `unmap-image` コマンドを使用します。
- `Server/host-image-mapping # unmap-image`

ステップ 21 サーバをリブートします。

トラブルシューティング

問題	ソリューション
更新して再起動した後に CIMC への接続は失われ、KVM セッションが終了します。	これは、ファームウェア更新後の期待される動作です。CIMC に再度ログインし、KVM セッションを再確立します。

問題	ソリューション
<p>エラー メッセージ： <i>PID, Board-Part-Number, Product-Part-Number</i> is not supported by this HUU image. HUU will not boot on this machine. Press any key to reboot the server.</p>	<p>このエラー メッセージは、HUU ISO イメージ がサーバでサポートされていない場合に表示さ れます。この問題を解決するには、サーバでサ ポートされる HUU ISO イメージを使用します。 HUU を使用するために必要な CIMC および BIOS ファームウェアの最小リリース、(153 ペー ジ) を参照してください。</p>
<p>Broadcom NCSI ファームウェアの更新に HUU を使ったあと、Broadcom ファームウェア更新 の警告プロンプトが CIMC GUI および CIMC CLI に、引き続き表示されます。</p>	<p>この問題を解決するには、E シリーズサーバの 電源を再投入して新しい Broadcom NCSI ファー ムウェアを有効にします。</p>



付録 A

設定上の違い

この付録は、次の項で構成されています。

- [Cisco SRE-V と E シリーズ サーバのルータ設定の違い : Cisco ISR G2, 163 ページ](#)
- [Cisco ISR G2 と Cisco ISR 4000 シリーズのルータ設定の違い, 164 ページ](#)
- [E シリーズ サーバと EHWIC E シリーズ NCE のルータ設定の違い : Cisco ISR G2, 165 ページ](#)
- [VMware vSphere Hypervisor の設定の違い, 166 ページ](#)

Cisco SRE-V と E シリーズ サーバのルータ設定の違い : Cisco ISR G2

次の表に、Cisco SRE-V および E シリーズ サーバ の設定の主な違いを例示します。

表 9: Cisco SRE-V と E シリーズ サーバのルータ設定の違い : Cisco ISR G2

Cisco SRE-V の設定	Cisco E シリーズ サーバの設定
<pre>interface GigabitEthernet0/0 ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 interface sm 1/0 ip unnumbered GigabitEthernet0/0 service-module ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 service-module ip default-gateway 10.0.0.1 interface SM1/1 switchport mode trunk ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 sm1/0</pre>	<pre>interface GigabitEthernet0/0 ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 interface ucse 1/0 ip unnumbered GigabitEthernet0/0 imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1 imc access-port shared-lom console interface ucse1/1 switchport mode trunk ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse1/0</pre>

次の違いに 注意してください。

- E シリーズ サーバ では、 `sm slot/port` コマンドは `ucse slot/port` コマンドに置き換えられています。
- E シリーズ サーバ では、 `service-module` キーワードは `imc` キーワードに置換されます。
- E シリーズ サーバ では、 `default gateway` コマンドは `imc ip address` コマンドと同じコマンドラインに属します。
- E シリーズ サーバ には異なる外部インターフェイスがあるため、 `imc access-port` コマンドを使用してアクセス ポートを指定する必要があります。
- E シリーズ サーバ では、専用インターフェイスを使用するか、マザーボード（共有 LOM）インターフェイス上の共有ローカルエリアネットワークのいずれかを使用し、CIMC アクセスを設定できます。管理ファームウェアにアクセスするための設定、[（25 ページ）](#)を参照してください。

上の例では、`imc access-port shared-lom console` コマンドはコンソール インターフェイスを使用して CIMC にアクセスします。ここで、

- `imc access-port` : E シリーズ サーバへの物理イーサネット接続。
- `shared-lom` : 共有 LOM。
- `console` : ルータ インターフェイス。

サーバへのセッションを実行するコマンドも変わりました。

- Cisco SRE-V は `service-module sm slot/0 session` コマンドをサーバへのセッションに使用します。
- E シリーズ サーバ は `ucse slotsession {imc | host}` コマンドをサーバへのセッションに使用します。

Cisco ISR G2 と Cisco ISR 4000 シリーズのルータ設定の違い

次の表に、Cisco ISR G2 の設定と Cisco ISR 4000 シリーズ の設定の主な違いを例示します。

表 10 : Cisco ISR G2 と Cisco ISR 4000 シリーズ のルータ設定の違い

Cisco ISR G2 設定	Cisco ISR 4000 シリーズ の設定
<pre>interface GigabitEthernet0/0 ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 interface ucse 1/0 ip unnumbered GigabitEthernet0/0 imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1 imc access-port shared-lom console interface ucse1/1 switchport mode trunk ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse1/0</pre>	<pre>interface GigabitEthernet 0/0/0 ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 ucse subslot 1/0 imc access-port shared-lom console imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1 interface ucse1/0/0 ip unnumbered GigabitEthernet0/0/0 no negotiation auto switchport mode trunk ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse1/0/0</pre>

次の違いに注意してください。

- Cisco ISR 4000 シリーズでは、`interface ucse slot/port` コマンドは `ucse subslot slot/subslot` コマンドと `interface ucse slot/subslot/port` コマンドに置き換えられています。
- Cisco ISR G2 では、専用インターフェイスまたはいずれかのマザーボード（共有 LOM）インターフェイス上の共有ローカルエリアネットワークを使用して、CIMC アクセスを設定できます。

Cisco ISR 4000 シリーズでは、管理インターフェイスまたはいずれかの NIC インターフェイスを使用して CIMC アクセスを設定できます。[管理ファームウェアにアクセスするための設定](#)、(25 ページ) を参照してください。

上記の例では、コマンドは、Eシリーズサーバの内部 GE0 NIC インターフェイスによる CIMC アクセスを設定します。

- `imc access-port` : CIMC アクセス ポートの設定。
- `ge0` : E シリーズサーバの内部 GE0 NIC インターフェイス。

サーバへのセッションを実行するコマンドも変わりました。

- Cisco ISR G2 は `ucse slot/session {imc | host}` コマンドをサーバへのセッションに使用します。
- Cisco ISR 4000 シリーズ では `hw-module subslot slot/0 session {imc | server}` コマンドをサーバへのセッションに使用します。

E シリーズサーバと EHWIC E シリーズ NCE のルータ設定の違い : Cisco ISR G2

次の表に、E シリーズサーバ設定と EHWIC E シリーズ NCE 設定の主な違いを例示します。

表 11: E シリーズ サーバと EHWIC E シリーズ NCE のルータ設定の違い

E シリーズ サーバ の設定	EHWIC E シリーズ NCE の設定
<pre>interface GigabitEthernet0/0 ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 interface ucse 1/0 ip unnumbered GigabitEthernet0/0 imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1 imc access-port shared-lom console interface ucse 1/1 switchport mode trunk ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse 1/0</pre>	<pre>interface GigabitEthernet0/0 ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 interface ucse 0/1/0 ip unnumbered GigabitEthernet0/0 imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1 imc access-port shared-lom console interface ucse 0/1/1 switchport mode trunk ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse 0/3/0</pre>

次の違いに注意してください。

- EHWIC E シリーズ NCE では、`interface ucse slot/port` コマンドは `interface ucse 0/subslot/port` コマンドに置き換えられています。
- EHWIC E シリーズ NCE では、`ip route cimc-ip-address subnet-mask ucse slot/port` コマンドは `ip route cimc-ip-address subnet-mask ucse 0/subslot/port` コマンドに置き換えられています。
- Cisco IOS Release 15.4(3)M では、E シリーズ サーバ と NCE の両方について、すべての `ucse slot x` コマンドが `ucse subslot slot/subslot x` コマンドに置き換えられています。

VMware vSphere Hypervisor の設定の違い

Cisco SRE-V では、VMware vSphere Hypervisor ホストの IP アドレスはサービス モジュールの IP アドレスと同じです。たとえば、Cisco SRE-V では、**service-module ip address 10.0.0.2**（表を参照）も VMware vSphere Hypervisor ホストに割り当てられます。

表 12: Cisco SRE-V と E シリーズ サーバのルータ設定の違い: ISR G2

Cisco SRE-V の設定	Cisco E シリーズ サーバ の設定
<pre>interface GigabitEthernet0/0 ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 interface sm 1/0 ip unnumbered GigabitEthernet0/0 service-module ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 service-module ip default-gateway 10.0.0.1 interface SM1/1 switchport mode trunk ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 sm1/0</pre>	<pre>interface GigabitEthernet0/0 ip address 10.0.0.1 255.0.0.0 interface ucse 1/0 ip unnumbered GigabitEthernet0/0 imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1 imc access-port shared-lom console interface ucse1/1 switchport mode trunk ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 ucse1/0</pre>

ただし、E シリーズ サーバでは、IMC IP アドレス（同じく 10.0.0.2、上の例を参照）は CIMC アクセス用として予約されています。Web ブラウザにこの IP アドレス（10.0.0.2）を入力し、CIMC の GUI にアクセスします。

E シリーズ サーバでは、VMware vSphere Hypervisor が DHCP を使用してホストに IP アドレスを割り当てるか、またはユーザが VMware vSphere Hypervisor ホストにスタティック IP アドレスを割り当てることができます。[VMware vSphere Hypervisor へのスタティック IP アドレスの割り当て](#)、[\(112 ページ\)](#) を参照してください。



付録

B

Cisco IOS ソフトウェアコマンドリファレンス : Cisco ISR G2

この付録では、Cisco ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバおよび NCE で導入された新しい Cisco IOS コマンドについて説明します。



(注)

Cisco IOS コマンドは、最初の発行後に更新される場合があります。更新内容については、『*Cisco IOS Interface and Hardware Component Command Reference*』（<http://www.cisco.com/en/US/docs/ios-xml/ios/interface/command/ir-cr-book.html>）で確認してください。

この付録は、次の項で構成されています。

- [imc ip address default-gateway, 170 ページ](#)
- [imc ip address dhcp, 171 ページ](#)
- [imc vlan, 171 ページ](#)
- [ucse cmos-reset, 172 ページ](#)
- [ucse password-reset, 173 ページ](#)
- [ucse session, 175 ページ](#)
- [ucse shutdown, 177 ページ](#)
- [ucse statistics, 178 ページ](#)
- [ucse status, 180 ページ](#)
- [ucse stop, 181 ページ](#)

imc ip address default-gateway

CIMC のスタティック IP アドレスと CIMC が使用するデフォルト ゲートウェイ ルータの IP アドレスを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **imc ip address default-gateway** コマンドを使用します。スタティック IP アドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

imc ip address ip-address subnet-mask default-gateway gateway-address

no imc ip address ip-address subnet-mask default-gateway gateway-address

構文の説明

<i>ip-address</i>	CIMC の IP アドレス。
<i>subnet-mask</i>	IP アドレスに付加するサブネット マスクであり、ホストルータと同じサブネットに属する必要があります。
<i>gateway-address</i>	デフォルト ゲートウェイ ルータの IP アドレス。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

DHCP をイネーブルにしない場合、スタティック IP アドレスおよびサブネット マスクを指定するひつようがあります。

次に、CIMC のスタティック IP アドレスを設定する例を示します。

```
Router(config)# interface ucse 2/0
Router(config-if)# imc ip address 10.0.0.2 255.0.0.0 default-gateway 10.0.0.1
```

imc ip address dhcp

CIMC の DHCP IP アドレスを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **imc ip address dhcp** コマンドを使用します。DHCP IP アドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

imc ip address dhcp

no imc ip address dhcp

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。

次に、CIMC の DHCP IP アドレスを設定する例を示します。

```
Router(config)# interface ucse 2/0
Router(config-if)# imc ip address dhcp
```

imc vlan

特定の VLAN 番号用の VLAN コンフィギュレーション モードを入力するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **imc vlan** コマンドを使用します。VLAN コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

imc vlan *vlan-number*

no imc vlan *vlan-number*

構文の説明

コマンドモード

<i>vlan-number</i>	リモート マネージャの IP アドレス。
--------------------	----------------------

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。

次に、特定の VLAN の CIMC で VLAN コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
Router(config)# interface ucse 2/0
Router(config-if)# interface vlan 40
```

ucse cmos-reset

BIOS CMOS をリセットするには、特権 EXEC モードで **ucsecmos-reset** コマンドを使用します。

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバ : **Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T** で適用可能

ucse slot cmos-reset

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバおよび EHWIC E シリーズ NCE : **Cisco IOS Release 15.4(3)M** で適用可能

ucse subslot slotsubslot cmos-reset

構文の説明

<i>slot/</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) EHWIC E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。 このコマンドは、ISR G2 に搭載されている Cisco UCS E シリーズ サーバ (E シリーズ サーバ) でサポートされました。
15.4(3)M	このコマンドは、subslot キーワードを含むように変更されました。 このコマンドは、追加のプラットフォーム (ISR G2 にインストールされている EHWIC E シリーズ Network Compute Engine (EHWIC E-Series NCE)) 上でサポートされました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、BIOS CMOS を工場出荷時の状態に戻します。BIOS に対するユーザの変更は失われます。

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバの BIOS CMOS をリセットする方法を示しています : Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T で適用可能

```
Router# ucse 2 cmos-reset
```

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバまたは EHWIC E シリーズ NCE の BIOS CMOS をリセットする方法を示しています : Cisco IOS Release 15.4(3)M に適用可能

```
Router# ucse subslot 0/3 cmos-reset
```

ucse password-reset

BIOS、CIMC、または RAID パスワードをリセットするには、特権 EXEC モードで **ucsepassword-reset** コマンドを使用します。

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバ : **Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T** で適用可能

```
ucse slot password-reset {BIOS| BMC| RAID}
```

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバおよび EHWIC E シリーズ NCE : **Cisco IOS Release 15.4(3)M** で適用可能

```
ucse subslot slot/subslot password-reset {BIOS| BMC| RAID}
```

構文の説明

<i>slot</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) EHWIC E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。
BIOS	BIOS パスワードをリセットします。
BMC	CIMC パスワードをリセットします。
RAID	RAID パスワードをリセットします。 (注) RAID は EHWIC E シリーズ Network Compute Engine (EHWIC E シリーズ NCE) には適用されません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。 このコマンドは、ISR G2 に搭載されている Cisco UCS E シリーズサーバ (E シリーズサーバ) でサポートされました。
15.4(3)M	このコマンドは、subslot キーワードを含むように変更されました。 このコマンドは、追加のプラットフォーム (ISR G2 にインストールされている EHWIC E シリーズ NCE) 上でサポートされました。

使用上のガイドライン

このコマンドの入力後、BIOS または BMC へのアクセス時に新しいパスワードの設定が要求されます。

RAID は EHWIC E シリーズ NCE には適用されません。

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバの BIOS パスワードをリセットする方法を示しています : Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T で適用可能

```
Router# ucse 2 password-reset BIOS
```

```
Reset command sent
```

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバまたは EHWIC E シリーズ NCE の BIOS パスワードをリセットする方法を示しています : Cisco IOS Release 15.4(3)M に適用可能

```
Router# ucse subslot 0/3 password-reset BIOS
```

```
Reset command sent
```

ucse session

ホストや CIMC セッションを開始したり閉じたりするには、特権 EXEC モードで **ucsesession** コマンドを使用します。

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバ : **Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T** で適用可能

```
ucse slot session {imc [clear] | host [clear]}
```

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバおよび EHWIC E シリーズ NCE : **Cisco IOS Release 15.4(3)M** で適用可能

```
ucse subslot slot/subslot session {imc [clear] | host [clear]}
```



(注) **ucse slotsession imc** コマンドは、インターフェイスでルータ側 IP アドレス (たとえば番号付けされていない GigabitEthernet0/0 という IP) を設定済みの場合にのみ機能します。

構文の説明

<i>slot</i>	サーバ モジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) EHWIC E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
サブスロット	サーバ モジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCSE シリーズ サーバおよび SME シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。
imc	CIMC とのセッションを開始します。

imcclear	既存の CIMC セッションを閉じます。
host	ホスト Cisco E シリーズ サーバのセッションを開始します。
hostclear	ホスト Cisco E シリーズ サーバセッションをクリアします。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。 このコマンドは、ISR G2 に搭載されている Cisco UCS E シリーズ サーバ (E シリーズ サーバ) でサポートされました。
15.4(3)M	このコマンドは、subslot キーワードを含むように変更されました。 このコマンドは、追加のプラットフォーム (ISR G2 にインストールされている EHWIC E シリーズ Network Compute Engine (EHWIC E-Series NCE)) 上でサポートされました。

使用上のガイドライン

imcclear および **hostclear** コマンドは、CIMC またはホストのアクティブセッションを閉じます。その結果、システムは、現在ログインしている他のユーザのセッションを閉じます。

CIMC またはホストでは、常に 1 つのアクティブなセッションだけが許可されます。セッションの開始時に「接続は拒否されました」メッセージが表示された場合は、**imcclear** または **hostclear** コマンドを入力することで現在アクティブなセッションを閉じます。

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバの CIMC セッションをクリアする方法を示しています : Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T で適用可能

```
Router# ucse 2 session imc clear
```

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバまたは EHWIC E シリーズ NCE の CIMC セッションをクリアする方法を示しています : Cisco IOS Release 15.4(3)M に適用可能

```
Router# ucse subslot 0/3 session imc clear
```

ucse shutdown

システムをグレースフル シャットダウンするには、特権 EXEC モードで **ucsesutdown** コマンドを使用します。

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバ : **Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T** で適用可能

ucse slot shutdown

ISR G2 にインストールされている E シリーズサーバおよび EHWIC E シリーズ NCE : **Cisco IOS Release 15.4(3)M** で適用可能

ucse subslot slot/subslot shutdown

構文の説明

<i>slot/</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) EHWIC E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズサーバおよび SME シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。 このコマンドは、ISR G2 に搭載されている Cisco UCS E シリーズサーバ (E シリーズサーバ) でサポートされました。

リリース	変更内容
15.4(3)M	このコマンドは、 <code>subslot</code> キーワードを含むように変更されました。 このコマンドは、追加のプラットフォーム（ISR G2 にインストールされている EHWIC E シリーズ Network Compute Engine（EHWIC E-Series NCE））上でサポートされました。

使用上のガイドライン

活性挿抜（OIR）時にホットスワップ可能なモジュールの取り外しまたは交換を行う場合にこのコマンドを使用します。

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバをグレースフルシャットダウンする方法を示しています：Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T で適用可能

```
Router# ucse 2 shutdown
```

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバまたは EHWIC E シリーズ NCE をグレースフルシャットダウンする方法を示しています：Cisco IOS Release 15.4(3)M に適用可能

```
Router# ucse subslot 0/3 shutdown
```

ucse statistics

サーバのリセットおよびリロードの情報を表示またはクリアするには、特権 EXEC モードで `ucsestatistics` コマンドを使用します。

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバ：Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T で適用可能

```
ucse slot statistics [clear]
```

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバおよび EHWIC E シリーズ NCE：Cisco IOS Release 15.4(3)M で適用可能

```
ucse subslot slot/subslot statistics [clear]
```

構文の説明

<code>slot</code>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) EHWIC E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
-------------------	---

サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。
clear	(任意) E シリーズサーバのリセットおよびリロード情報をクリアします。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。 このコマンドは、ISR G2 に搭載されている Cisco UCS E シリーズ サーバ (E シリーズ サーバ) でサポートされました。
15.4(3)M	このコマンドは、 subslot キーワードを含むように変更されました。 このコマンドは、追加のプラットフォーム (ISR G2 にインストールされている EHWIC E シリーズ Network Compute Engine (EHWIC E-Series NCE)) 上でサポートされました。

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバのサーバ統計情報を表示する方法を示しています : Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T で適用可能

```
Router# ucse 2 statistics

Module Reset Statistics:
  CLI reset count = 0
  CLI reload count = 0
  Registration request timeout reset count = 0
  Error recovery timeout reset count = 0
  Module registration count = 1
```

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバまたは EHWIC E シリーズ NCE のサーバ統計情報を表示する方法を示しています : Cisco IOS Release 15.4(3)M で適用可能

```
Router# ucse subslot 0/3 statistics

Module Reset Statistics:
  CLI reset count = 0
  CLI reload count = 0
  Registration request timeout reset count = 0
  Error recovery timeout reset count = 0
  Module registration count = 1
```

ucse status

サーバのハードウェアおよびソフトウェアに関する設定情報を表示するには、特権 EXEC モードで **ucsestatus** コマンドを使用します。

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバ : **Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T** で適用可能

ucse slot status [detailed]

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバおよび **EHWIC E** シリーズ **NCE** : **Cisco IOS Release 15.4(3)M** で適用可能

ucse subslot slot/subslot status [detailed]

構文の説明

<i>slot/</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) EHWIC E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。
detailed	(任意) Cisco E シリーズ サーバに関する詳細情報 (サービスモジュールのステータスや reset および heartbeat-reset フラグの設定など) を表示します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。 このコマンドは、ISR G2 に搭載されている Cisco UCS E シリーズ サーバ (E シリーズ サーバ) でサポートされました。
15.4(3)M	このコマンドは、subslot キーワードを含むように変更されました。 このコマンドは、追加のプラットフォーム (ISR G2 にインストールされている EHWIC E シリーズ Network Compute Engine (EHWIC E-Series NCE)) 上でサポートされました。

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバのサーバ ステータスを表示する方法を示しています : Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T で適用可能

```
Router# ucse 2 status

Service Module is Cisco ucse 2/0
Service Module supports session via TTY line 131
Service Module is in Steady state
Service Module reset on error is disabled
Service Module heartbeat-reset is enabled
```

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバまたは EHWIC E シリーズ NCE のサーバ ステータスを表示する方法を示しています : Cisco IOS Release 15.4(3)M で適用可能

```
Router# ucse subslot 0/3 status

Service Module is Cisco ucse 0/3
Service Module supports session via TTY line 131
Service Module is in Steady state
Service Module reset on error is disabled
Service Module heartbeat-reset is enabled
```

ucse stop

すぐにサーバの電源をオフするには、特権 EXEC モードで **ucsestop** コマンドを使用します。

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバ : Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T で適用可能

ucse slot stop

ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバおよび EHWIC E シリーズ NCE : Cisco IOS Release 15.4(3)M で適用可能

ucse subslot slot/subslot stop

構文の説明

<i>slot</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) EHWIC E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。 このコマンドは、ISR G2 に搭載されている Cisco UCS E シリーズ サーバ (E シリーズ サーバ) でサポートされました。
15.4(3)M	このコマンドは、subslot キーワードを含むように変更されました。 このコマンドは、追加のプラットフォーム (ISR G2 にインストールされている EHWIC E シリーズ Network Compute Engine (EHWIC E-Series NCE)) 上でサポートされました。

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバの電源をオフする方法を示しています : Cisco IOS Release 15.2(4)M ~ 15.4(2)T で適用可能

```
Router# ucse 2 stop
```

```
Send server stop command
```

次の例は、ISR G2 にインストールされている E シリーズ サーバまたは EHWIC E シリーズ NCE の電源をオフする方法を示しています : Cisco IOS Release 15.4(3)M に適用可能

```
Router# ucse subslot 0/3 stop
```

```
Send server stop command
```



付録

C

Cisco IOS ソフトウェアコマンドリファレンス : Cisco ISR 4000 シリーズ

この章では、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされる E シリーズ サーバに導入された新しい Cisco IOS コマンドについて説明します。



(注)

Cisco IOS コマンドは、最初の発行後に更新される場合があります。更新内容については、『*Cisco IOS Interface and Hardware Component Command Reference*』（<http://www.cisco.com/en/US/docs/ios-xml/ios/interface/command/ir-cr-book.html>）で確認してください。

この付録は、次の項で構成されています。

- [debug platform software ucse](#), 184 ページ
- [hw-module subslot session](#), 185 ページ
- [imc ip dhcp](#), 186 ページ
- [platform switchport](#), 187 ページ
- [show interfaces ucse](#), 188 ページ
- [ucse subslot imc password-reset](#), 191 ページ
- [ucse subslot server](#), 192 ページ
- [ucse subslot server password-reset](#), 194 ページ
- [ucse subslot shutdown](#), 196 ページ
- [ucse subslot statistics](#), 197 ページ
- [ucse subslot status](#), 198 ページ

debug platform software ucse

Cisco UCS E シリーズ サーバプラットフォーム ソフトウェアをデバッグして、デバッグメッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug platform software ucse** コマンドを使用します。デバッグを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform software ucse {all| error| normal}

no debug platform software ucse {all| error| normal}

構文の説明

all	すべてのプラットフォームのデバッグメッセージを表示します。
error	エラー デバッグ メッセージを表示します。
normal	通常のデバッグ メッセージを表示します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.9S	このコマンドが、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) にインストールされる Cisco UCS E シリーズ サーバに導入されました。

使用上のガイドライン

debug platform software ucse all コマンドを使用した後、適切な **ucse** コマンドを使用してデバッグメッセージを表示します。

次に、**ucse subslot imc password-reset** コマンドに対するデバッグメッセージを表示する例を示します。

```
Router# debug platform software ucse all
Router#
Router# ucse subslot 2/0 imc password-reset
ucse2/0/0
Password reset command sent.
Router#
IMC ACK: UCSE password reset successful for IMC
```

ACK received for UCSE: Password Reset Command

hw-module subslot session

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) セッションまたはホストサーバモジュールのセッションを開始または終了するには、特権 EXEC モードで **hw-module subslot session** コマンドを使用します。

hw-module subslot *slot/subslot* session {imc| server}

構文の説明

<i>slot</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) NIM E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。
imc	CIMC とのセッションを開始します。
server	ホストサーバモジュールとのセッションを開始します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.9S	このコマンドが、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) にインストールされる Cisco UCS E シリーズ サーバに導入されました。
Cisco IOS XE Release 3.15S	このコマンドは、追加のプラットフォーム (Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている NIM E シリーズ Network Compute Engine (NIM E シリーズ NCE)) 上でサポートされました。

使用上のガイドライン

CIMC またはサーバ モジュールでは、常に 1 つのアクティブなセッションだけが許可されます。

次の例は、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズサーバの CIMC セッションを開始する方法を示しています。

```
Router# hardware-module subslot 1/0 session imc
```

次の例は、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズサーバのサーバモジュールセッションを開始する方法を示しています。

```
Router# hardware-module subslot 1/0 session server
```

imc ip dhcp

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) の DHCP IP アドレスを設定するには、UCSE コンフィギュレーション モードで **imcipdhcp** コマンドを使用します。DHCP IP アドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

imc ip dhcp

no imc ip dhcp

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

UCSE コンフィギュレーション (config ucse)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.9S	このコマンドが、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) にインストールされる Cisco UCS E シリーズ サーバに導入されました。

次に、CIMC のダイナミック IP アドレスを設定する例を示します。

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# ucse subslot 1/0
Router(config-ucse)# imc ip dhcp
```

```
Router(config-ucse)#
  IMC ACK: DHCP enable received for IMC.

  IMC ACK: UCSE setting DHCP enable for IMC successful.
```

platform switchport

UCS E シリーズ サーバでスイッチ仮想インターフェイス (SVI) 設定を有効にするには、特権 EXEC モードで **platform switchport svi** コマンドを使用します。設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

platform switchport ucse interface svi

構文の説明

<i>ucse interface</i>	UCSE インターフェイス番号。Cisco UCS E シリーズサーバでは、UCSE インターフェイス番号は 0 または 1 を指定できます。
-----------------------	---

コマンドモード

UCSE コンフィギュレーション モード (config-ucse)#

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE リリース 3.15S	このコマンドが Cisco ISR 4000 シリーズルータに導入されました。

使用上のガイドライン

UCS-E サブスロット インターフェイスで SVI 設定を有効または無効にするには、設定を保存した後にモジュール OIR またはルータをリロードする必要があります。

このコマンドを使用する前に、スパンニングツリーモードを設定する必要があります。次に、スパンニングツリーモードを設定する例を示します。

```
spanning-tree vlan 1-4094 priority 24576
```

次に、UCS E シリーズ サーバでスイッチ仮想インターフェイス (SVI) 設定を有効にする例を示します。

```
ISR4k(config-ucse)#platform switchport 1 svi
Ena/Dis SVI on UCSE needs a OIR or Router reload
```

このコマンドを使用すると、UCS-E インターフェイスが `show spanning-tree` コマンドの出力に表示されます。

```
SR4451-1#show spanning-tree

G0:VLAN0001
Spanning tree enabled protocol rstp
Root ID    Priority    24577
           Address    f07f.06bc.c0b1
           This bridge is the root
           Hello Time 2 sec Max Age 20 sec Forward Delay 15 sec

           Bridge ID Priority    24577 (priority 24576 sys-id-ext 1)
           Address    f07f.06bc.c0b1
           Hello Time 2 sec Max Age 20 sec Forward Delay 15 sec
           Aging Time 300

Interface          Role Sts Cost          Prio.Nbr Type
-----
uc1/0/0            Desg FWD 4             128.257 P2p
uc1/0/1            Desg FWD 4             128.258 P2p

G0:VLAN0003
Spanning tree enabled protocol rstp
Root ID    Priority    24579
           Address    f07f.06bc.c0b1
           This bridge is the root
           Hello Time 2 sec Max Age 20 sec Forward Delay 15 sec

           Bridge ID Priority    24579 (priority 24576 sys-id-ext 3)
           Address    f07f.06bc.c0b1
           Hello Time 2 sec Max Age 20 sec Forward Delay 15 sec
           Aging Time 300

Interface          Role Sts Cost          Prio.Nbr Type
-----
uc1/0/0            Desg FWD 4             128.257 P2p
uc1/0/1            Desg FWD 4             128.258 P2p

ISR4451-1#
```

show interfaces ucse

Cisco UCS E シリーズ サーバインターフェイスの統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで `showinterfaces ucse` コマンドを使用します。

show interfaces ucse slot/subslot/ucse-interface [**accounting**| **controller**| **counters**| **crb**| **dampening**| **description**| **etherchannel**| **history**| **irb**| **mac-accounting**| **monitor**| **mpls-exp**| **precedence**| **stats**| **summary**| **switchport**]

構文の説明

<i>slot/</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) NIM E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
--------------	---

サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SMI シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。
<i>ucse-interface</i>	UCSE インターフェイス番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバでは、UCSE インターフェイス番号は 0 または 1 を指定できます。
accounting	(任意) インターフェイスを介して送信された各プロトコルタイプのパケット数を表示します。
controller	(任意) インターフェイス、設定、およびコントローラのステータスを表示します。
counters	(任意) インターフェイスカウンタを表示します。
crb	(任意) インターフェイスのルーティングまたはブリッジング情報を表示します。
dampening	(任意) インターフェイスのダンプ情報を表示します。
description	(任意) インターフェイスの説明を表示します。
etherchannel	(任意) インターフェイスの EtherChannel 情報を表示します。
history	(任意) インターフェイス履歴を表示します。
irb	(任意) インターフェイスのルーティングまたはブリッジング情報を表示します。
mac-accounting	(任意) インターフェイスの MAC アカウンティング情報を表示します。
monitor	(任意) インターフェイスを継続的に表示します。

mpls-exp	(任意) インターフェイスのマルチプロトコルラベル スイッチング (MPLS) Experimental アカウンティング情報を表示します。
precedence	(任意) インターフェイスの優先アカウンティング情報を表示します。
stats	(任意) スイッチングパス、受信パケット、送信パケット、受信文字、および送信文字を表示します。
summary	(任意) インターフェイスサマリーを表示します。
switchport	(任意) スイッチ ポート インターフェイス情報を表示します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.9S	このコマンドが、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) にインストールされる Cisco UCS E シリーズ サーバに導入されました。
Cisco IOS XE Release 3.15S	このコマンドは、追加のプラットフォーム (Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている NIM E シリーズ Network Compute Engine (NIM E シリーズ NCE)) 上でサポートされました。

次に、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズ サーバでの **show interfaces ucse slot/0/0 switchport** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show interfaces ucse 1/0/0 switchport
```

```
Name: ucse 1/0/0
Switchport: Enabled
Administrative mode: trunk
Operational Mode: trunk
Administrative Trunking Encapsulation: dot1q
Operational Trunking Encapsulation: native
Negotiation of Trunking: Disabled
Trunking Native Mode VLAN: 2352
Trunking VLANs Enabled: 1-2349,2450-4094
Voice VLAN: none
```

ucse subslot imc password-reset

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) パスワードをリセットするには、特権 EXEC モードで **ucse subslot imc password-reset** コマンドを使用します。

ucse subslot *slot/subslot* imc password-reset

構文の説明

<i>slot/</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) NIM E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.9S	このコマンドが、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) にインストールされる Cisco UCS E シリーズ サーバに導入されました。
Cisco IOS XE Release 3.15S	このコマンドは、追加のプラットフォーム (Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている NIM E シリーズ Network Compute Engine (NIM E シリーズ NCE)) 上でサポートされました。

使用上のガイドライン

このコマンドが入力された後、次のログイン時に、CIMC にアクセスするための新しいパスワードを設定する必要があります。

次の例は、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズサーバの CIMC パスワードをリセットする方法を示しています。

```
Router# ucse subslot 1/0 imc password-reset
Router#
IMC ACK: UCSE password reset successful for IMC
```

ucse subslot server

サーバモジュールのハードウェアをリロード、リセット、開始、または停止するには、特権 EXEC モードで **ucse subslot server** コマンドを使用します。

ucse subslot *slot/subslot* server {reload| reset| start| stop}

構文の説明

<i>slot/</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) NIM E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。
reload	サーバモジュールの電源を切断した後、電源を投入します。 (注) reload キーワードは NIM E シリーズ NCE ではサポートされません。代わりに、ルータから次のコマンドを使用することを推奨します。 1 Router # ucse subslot <i>slot/subslot</i> shutdown 2 Router # ucse subslot <i>slot/subslot</i> start リロードが必要な場合は、次のコマンドを使用します。 Router # hw-module subslot 0/ <i>NIM-slot-number</i> reload (注) このコマンドにより、モジュールの電源が再投入されます。CIMC とサーバがリブートします。

reset	サーバモジュール上のハードウェアをリセットします。
start	サーバモジュールの電源を投入します。
stop	<p>サーバモジュールの電源をただちに切断します。</p> <p>(注) stop キーワードは NIM E シリーズ NCE ではサポートされません。代わりに、ルータから次のコマンドを使用することを推奨します。</p> <p>Router # ucse subslot slot/subslot shutdown</p> <p>サーバーの電源をただちに切断する必要がある場合は、次のコマンドを使用します。</p> <p>Router # hw-module subslot 0/NIM-slot-number stop</p> <p>(注) このコマンドにより、モジュールの電源が切断されます。CIMC とサーバの電源が切断されます。</p>

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.9S	このコマンドが、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) にインストールされる Cisco UCS E シリーズ サーバに導入されました。
Cisco IOS XE Release 3.15S	このコマンドは、追加のプラットフォーム (Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている NIM E シリーズ Network Compute Engine (NIM E シリーズ NCE)) 上でサポートされました。

使用上のガイドライン

reset キーワードは、シャットダウンまたは障害が発生した状態から回復する場合にだけ使用します。



注意 reset を使用しても、ソフトウェアは順序正しくシャットダウンされず、進行中のファイル処理に影響を与える可能性があります。

次の例は、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズ サーバをリロードする方法を示しています。

```
Router# ucse subslot 1/0 server reload
Router#
IMC ACK: UCSE Server reload successful.
```

次の例は、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズ サーバをリセットする方法を示しています。

```
Router# ucse subslot 1/0 server reset
Router#
IMC ACK: UCSE Server reset successful.
```

次の例は、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズ サーバを起動する方法を示しています。

```
Router# ucse subslot 1/0 server start
Router#
IMC ACK: UCSE Server start successful.
```

次の例は、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズ サーバを停止する方法を示しています。

```
Router# ucse subslot 1/0 server stop
Router#
IMC ACK: UCSE Server stop successful.
```

ucse subslot server password-reset

BIOS または RAID パスワードをリセットするには、特権 EXEC モードで **ucse subslot server password-reset** コマンドを使用します。

ucse subslot *slot/subslot* server password-reset {BIOS|RAID}

構文の説明

<i>slot/</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) NIM E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
--------------	---

サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。
BIOS	BIOS パスワードをリセットします。
RAID	RAID パスワードをリセットします。 (注) RAID は NIM E シリーズ NCE ではサポートされません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.9S	このコマンドが、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) にインストールされる Cisco UCS E シリーズ サーバに導入されました。
Cisco IOS XE Release 3.15S	このコマンドは、追加のプラットフォーム (Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている NIM E シリーズ Network Compute Engine (NIM E シリーズ NCE)) 上でサポートされました。

使用上のガイドライン

このコマンドが入力された後、次のログイン時に、BIOS にアクセスする、または RAID を構成するための新しいパスワードを設定する必要があります。

次の例は、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズ サーバの BIOS パスワードをリセットする方法を示しています。

```
Router# ucse subslot 1/0 server password-reset BIOS
Router#
IMC ACK: UCSE password reset successful for BIOS
```

次の例は、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズ サーバの RAID パスワードをリセットする方法を示しています。

```
Router# ucse subslot 1/0 server password-reset RAID
Router#
IMC ACK: UCSE password reset successful for RAID
```

ucse subslot shutdown

サービス モジュールを正常にシャットダウンするには、特権 EXEC モードで **ucse subslot shutdown** コマンドを使用します。

ucse subslot *slot/subslot* shutdown

構文の説明

<i>slot</i>	サーバ モジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) NIM E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.9S	このコマンドが、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) にインストールされる Cisco UCS E シリーズ サーバに導入されました。
Cisco IOS XE Release 3.15S	このコマンドは、追加のプラットフォーム (Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている NIM E シリーズ Network Compute Engine (NIM E シリーズ NCE)) 上でサポートされました。

使用上のガイドライン

NIM E シリーズ NCE のシャットダウンには最大 60 秒かかります。シャットダウンを 2、3 回試しても NIM E シリーズ NCE がシャットダウンしない場合は、ルータから次のコマンドを入力します。

1 Router # hw-module subslot 0/*NIM-slot-number* stop

2 Router # hw-module subslot 0/NIM-slot-number start

次の例は、Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている E シリーズ サーバをシャットダウンする方法を示しています。

```
Router# ucse subslot 1/0 shutdown
Router#
IMC ACK: UCSE Server shutdown successful.
```

ucse subslot statistics

サーバモジュールの統計情報を表示またはクリアするには、特権 EXEC モードで **ucse subslot statistics** コマンドを使用します。

ucse subslot slot/subslot statistics [clear]

構文の説明

<i>slot</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのロット番号。 (注) NIM E シリーズ NCE の場合、ロット番号は 0 です。
サブロット	サーバモジュールがインストールされているサブロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブロット番号は 0 です。
clear	(任意) サーバモジュールの統計情報をクリアします。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.9S	このコマンドが、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) にインストールされる Cisco UCS E シリーズ サーバに導入されました。

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.15S	このコマンドは、追加のプラットフォーム（Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている NIM E シリーズ Network Compute Engine（NIM E シリーズ NCE））上でサポートされました。

次に、E シリーズ サーバの統計情報を表示する例を示します。

```
Router# ucse subslot 1/0 statistics
Count of number of shutdowns command : 1
Count of number of status commands : 0
Count of number of server raid password : 1
Count of number of imc password-reset : 2
Count of number of server bios password reset : 1
Count of number of server reload : 1
Count of number of server reset : 1
Count of number of server start : 1
Count of number of server stop : 1
Count of number of vlan commands : 0
Count of number of access-port commands : 1
Count of number of IMC configured IP or DHCP commands: 1
```

ucse subslot status

サーバモジュールのハードウェアおよびソフトウェアに関する設定情報を表示するには、特権 EXEC モードで **ucse subslot status** コマンドを使用します。

ucse subslot slot/subslot status [detailed]

構文の説明

<i>slot/</i>	サーバモジュールがインストールされているルータのスロット番号。 (注) NIM E シリーズ NCE の場合、スロット番号は 0 です。
サブスロット	サーバモジュールがインストールされているサブスロットの番号。 (注) Cisco UCS E シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE の場合、サブスロット番号は 0 です。
detailed	(任意) サーバモジュールに関する詳細情報（ステータス、reset および heartbeat-reset フラグの設定など）を表示します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.9S	このコマンドが、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) にインストールされる Cisco UCS E シリーズ サーバに導入されました。
Cisco IOS XE Release 3.15S	このコマンドは、追加のプラットフォーム (Cisco ISR 4000 シリーズにインストールされている NIM E シリーズ Network Compute Engine (NIM E シリーズ NCE)) 上でサポートされました。

次に、E シリーズ サーバのステータスを表示する例を示します。

```

Router# ucse subslot 1/0 status
CPU info
  Name          Cores    Version
  -----
  CPU1          4        Intel(R) Xeon(R) CPU E5-2418L 0 @ 2.00GHz

Memory info
  Name          Capacity      Channel Speed (MHz) Channel Type
  -----
  Node0_Dimm0   Not Installed  Unknown           Unknown
  Node0_Dimm1   16384 MB      1333              DDR3
  Node0_Dimm2   8192 MB       1333              DDR3

Hard drive info
  Slot Number Controller Status      Manufacturer  Model          Drive
  Firmware Coerced Size  Type  SED
  -----
  1          952720 MB  SLOT-5  HDD  online  ATA          ST91000640NS  CC02
  2          952720 MB  SLOT-5  HDD  false   ATA          ST91000640NS  CC02
  3          952720 MB  SLOT-5  HDD  online  ATA          ST91000640NS  CC02

Virtual drive info
  Virtual Drive  Status      Name          Size          RAID Level
  -----
  0              Optimal     1905440 MB  RAID 5

PCI card info
  Name          Slot  Vendor ID      Device ID      Product
  -----
  PCIe Adapter1  0     0xe414         0x5716         Broadcom
  5719 1 Gbps 4...
  PCIe Adapter2  2     0x0010         0x7300         LSI 9240-8i
  MegaRAID S...

Network Setting
  IPv4 Address: 10.1.1.2
  IPv4 Netmask: 255.255.255.0
  IPv4 Gateway: 10.1.1.1

  NIC Mode: shared_lom

```

```
NIC Redundancy: none  
NIC Interface: gel
```



索引

- B**
- BIOS [108, 151](#)
 - シスコからのファームウェアの取得 [108](#)
 - シスコのオプションからのファームウェアの取得 [151](#)
 - BIOS セットアップ [118](#)
- C**
- CIMC [23, 108, 151](#)
 - ファームウェア [23](#)
 - 更新 [23](#)
 - CIMC CLI [86](#)
 - CIMC GUI [86, 88](#)
 - CIMC GUI の使用 [114](#)
 - CIMC アクセス [25, 27, 28, 30, 33, 36, 39, 42, 43, 45, 49, 53, 55, 58, 59, 62, 65, 69, 70, 71, 72, 75, 78, 80](#)
 - Cisco CIMC Configuration Utility の使用 [80](#)
 - EHWIC E シリーズ NCE 設定オプション [58](#)
 - G2 インターフェイスによる [78](#)
 - G2 または G3 インターフェイスによる [39, 53](#)
 - NCE の G2 インターフェイスの使用 [65](#)
 - NIC インターフェイス設定オプション [45, 71](#)
 - TE2 または TE3 インターフェイスによる [55](#)
 - 管理（専用）インターフェイスによる [28, 43, 70](#)
 - 共有 LOM 設定オプション [30](#)
 - コンソールインターフェイスの使用 [30, 59](#)
 - 設定オプション [27, 42, 69](#)
 - 内部 MGF VLAN インターフェイスによる [33, 62](#)
 - 非ネイティブ VLAN の内部 MGF インターフェイスの使用 [36](#)
 - CIMC の概要 [85](#)
- E**
- E シリーズ サーバ [5, 8, 9, 17, 20](#)
 - オプション [9](#)
 - 概要 [5](#)
 - 確認、インストール [20](#)
 - 管理 [8](#)
 - ルータへのインストール [17](#)
 - E シリーズ サーバおよび Cisco ISR 4000 シリーズのインターフェイス [41](#)
 - 説明 [41](#)
 - E シリーズ サーバおよび ISR G2 のインターフェイス [26](#)
 - 説明 [26](#)
- H**
- HUU [152, 153](#)
 - 概要 [152](#)
 - 使用できる CIMC および BIOS ファームウェア [153](#)
- K**
- KVM コンソール [100](#)
- L**
- Linux [148](#)
- M**
- Microsoft Windows [148](#)
 - Microsoft Windows Server、アクセス [120](#)
 - オプション 2 [120](#)

NNCE [5, 17, 21](#)概要 [5](#)確認、インストール [21](#)ルータへのインストール [17](#)NCE および ISR G2 のインターフェイス [57](#)説明 [57](#)NIM E シリーズ NCE [22](#)確認、インストール [22](#)NIM E シリーズ NCE および Cisco ISR 4000 シリーズの
インターフェイス [68](#)説明 [68](#)**O**OS のインストール [99, 101, 103](#)KVM コンソール [101](#)PXE [103](#)方法 [99](#)**P**PXE インストール [103](#)**R**RAID、設定 [90, 95, 96](#)CIMC GUI の使用 [90](#)WebBIOS の使用 [95, 96](#)reset [23](#)停止 [23](#)**V**VMware [111](#)ソフトウェアの取得 [111](#)VMware vSphere Hypervisor の設定 [166](#)SRE-V と E シリーズ サーバの違い [166](#)VMware vSphere Hypervisor [148](#)VMware vSphere Hypervisor [111, 112, 120](#)アクセス [120](#)インストール、基本的なワークフロー [111](#)オプション 3 [120](#)スタティック IP アドレスの割り当て [112](#)vSphere クライアント [113](#)ダウンロード [113](#)**い**インストール [113](#)interface [28, 30, 33, 36, 39, 43, 45, 49, 53, 55, 59, 62, 65, 70, 72, 75, 78](#)E シリーズサーバの内部 GE0 インターフェイスとルータの ucse /0/0 インターフェイスによる CIMC アクセス [45](#)E シリーズサーバの内部 GE1 インターフェイスとルータの ucse /0/1 インターフェイスによる CIMC アクセス [49](#)G2 または G3 インターフェイスによる CIMC アクセス [39, 53](#)NCE の GE2 インターフェイスによる CIMC アクセス [65](#)NIM E シリーズ NCE の G2 インターフェイスによる CIMC アクセス [78](#)NIM E シリーズ NCE の内部 GE0 インターフェイスとルータの ucse 0//0 インターフェイスによる CIMC アクセス [72](#)NIM E シリーズ NCE の内部 GE1 インターフェイスとルータの ucse 0//1 インターフェイスによる CIMC アクセス [75](#)TE2 または TE3 インターフェイスによる CIMC アクセス [55](#)管理インターフェイスによる CIMC アクセス [28, 43, 70](#)
コンソールインターフェイスによる CIMC アクセス [30, 59](#)内部 MGF VLAN インターフェイスによる CIMC アクセス [33, 62](#)非ネイティブ VLAN の内部 MGF インターフェイスを使用した CIMC アクセス [36](#)**お**オペレーティングシステムのインストール [101](#)**き**基本的なワークフロー [10, 12, 13, 15](#)オプション 1 [10](#)オプション 2 [12](#)オプション 3 [13](#)

基本的なワークフロー (続き)

ルータへのEシリーズサーバまたはNCEのインストール **15**

共通用語 **14**

く

クイック スタートの基本設定タスク **2**

こ

互換性 **16, 17**

確認 **16, 17**

さ

サーバ管理 **114**

ブート順の設定 **114**

サーバ ソフトウェア **7**

せ

設定 **25**

そ

ソフトウェア **111**

VMware からの取得 **111**

ね

ネイティブ VLAN による NIM E シリーズ NCE と Cisco
ISR 4000 シリーズ間の EVC **140**

作成 **140**

ネイティブ VLAN によるサーバと Cisco ISR 4000 シリ
ーズ間の EVC **130**

作成 **130**

ネットワーク インターフェイス マッピング **145**

ネットワークのスタティック設定 **82**

定義、スクリプト ファイルの使用 **82**

ひ

非ネイティブ VLAN による NIM E シリーズ NCE と Cisco
ISR 4000 シリーズ間の EVC **142**

作成 **142**

非ネイティブ VLAN によるサーバと Cisco ISR 4000 シリ
ーズ間の EVC **131**

作成 **131**

ふ

ファームウェア **23, 108, 151**

アップグレード **151**

更新 **23**

シスコからの取得 **108**

ブート順、設定 **114**

ブート順の設定 **118**

ほ

ホスト イメージ **104, 110**

マッピング解除 **110**

ホスト イメージ、マッピング **104**

ま

マッピング **104**

る

ルータおよび NCE **134**

接続の設定 **134**

ルータ コンフィギュレーション **163, 164, 165**

Cisco ISR G2 と Cisco ISR 4000 シリーズの違い **164**

E シリーズサーバと EHWICE シリーズ NCE の違い **165**

SRE-V と E シリーズサーバの違い **163**

ルータと E シリーズサーバ **123, 127**

接続の設定 **123, 127**

ルータと NIM E シリーズ NCE **138**

接続の設定 **138**

ろ

ログイン [87](#)